



LS 600h / LS 600h L
取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

ハイブリッド車の特徴や運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 車両仕様

車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. ハイブリッドシステム	
について	28
ハイブリッドシステムの特徴	28
ご使用になるにあたって (高電圧・高温について)	32
ご使用になるにあたって (駆動用電池・吸入口 について)	36
ハイブリッドシステムの 作動状態	38
ハイブリッド車運転の アドバイス	46
1-2. キーの取扱い	48
キー	48
1-3. ドア・トランクの開閉の しかた、ロックのしかた	52
スマートエントリー&スタート システム	52
ワイヤレスリモコン	63
ドア	65
トランク	71
1-4. シート、ミラー、ハンドルの 調整のしかた	77
フロントシート	77
パワーリヤシート (5 席車両)*	82
パワーリヤシート (4 席車両)	85
ドライビングポジション メモリー	89

リヤシートポジション メモリー*	92
ヘッドレスト	94
シートベルト	97
ハンドル	102
インナーミラー	103
ドアミラー	104

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方	106
パワーウィンドウ	106
ムーンルーフ*	109
1-6. 給油のしかた	112
給油口の開け方	112
1-7. 盗難防止システム	116
イモビライザーシステム	116
オートアラーム	117

1-8. 安全にお使いいただく ために	122
正しい運転姿勢	122
SRS エアバッグ	123
チャイルドシートの取り付け ...	133

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた	142
運転にあたって	142
ハイブリッドシステムの 始動方法	149
EV ドライブモード	153
トランスミッション	156
方向指示レバー	160

パーキングブレーキ	161
ブレーキホールド	163
2-2. メーターの見方	165
計器類	165
表示灯／警告灯	168
マルチディスプレイ	171
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方	174
ライトスイッチ	174
フォグライトスイッチ	177
ワイパー & ウォッシャー	179
ヘッドライトクリーナー	182
2-4. その他の走行装置の 使い方	183
クルーズコントロール*	183
レーダークルーズ コントロール*	186
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)*	195
電子制御エアサスペンション ...	206
運転を補助する装置	208
プリクラッシュセーフティ システム*	214
プリクラッシュ セーフティシステム (カメラセンサー付)*	219
後方プリクラッシュ セーフティシステム*	228
2-5. 様々な状況での運転	231
荷物を積むときの注意	231
寒冷時の運転	233

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方	238
室内灯一覧	238
・インテリアライト	239
・パーソナルライト	240
3-2. 収納装備の使い方	241
収納装備一覧	241
・グローブボックス	243
・コインホルダー	244
・ドアポケット	244
・カップホルダー	245
・コンソールボックス	247
・クールボックス・小物入れ ...	248
・小物入れ	252
3-3. その他の室内装備の 使い方	254
サンバイザー	254
バニティミラー	255
外気温度表示	256
灰皿	257
シガレットライター	258
アクセサリースOCKET/ アクセサリーコンセント	260
ステアリングヒーター*	263
コンフォータブル・ エアシート*	265
アームレスト*	268
リヤシートリラクゼーション システム (4 席車両)	269
テーブル (4 席車両)	271
リヤサンシェード	273
リヤドアサンシェード*	277
コートフック	280

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

フロアマット	281
トランク内装備.....	282

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた	286
外装の手入れ	286
内装の手入れ	289
タイヤについて.....	291
4-2. 簡単な点検・部品交換	295
ボンネット	295
ガレージジャッキ.....	298
エンジンルームカバー	300
電球（バルブ）の交換	302
ヒューズの点検、交換	313
電子キーの電池交換.....	329
ウォッシュ液の補給.....	331

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに	334
発炎筒	334
けん引について.....	336
イベントデータレコーダー	340
5-2. 緊急時の対処法	342
警告灯がついたときは	342
警告メッセージが表示 されたときは	346
パンクしたときは.....	348
ハイブリッドシステムが 始動できないときは.....	358

チェンジレバーが シフトできないときは	360
パーキングブレーキが 解除できないときは	361
キーを無くしたときは	363
電子キーが正常に 働かないときは.....	364
補機バッテリーが あがったときは.....	366
オーバーヒートしたときは	370
スタックしたときは	374

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧	376
メンテナンスデータ （指定燃料、オイル量など）	376
6-2. カスタマイズ機能.....	382
ユーザーカスタマイズ 機能一覧	382

さくいん

略語一覧	386
五十音順さくいん.....	387
症状別さくいん.....	396
ハイブリッドさくいん	400

1

2

3

4

5

6



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

フロント席

助手席 SRS エアバッグ P. 123

SRS ニーエアバッグ P. 123

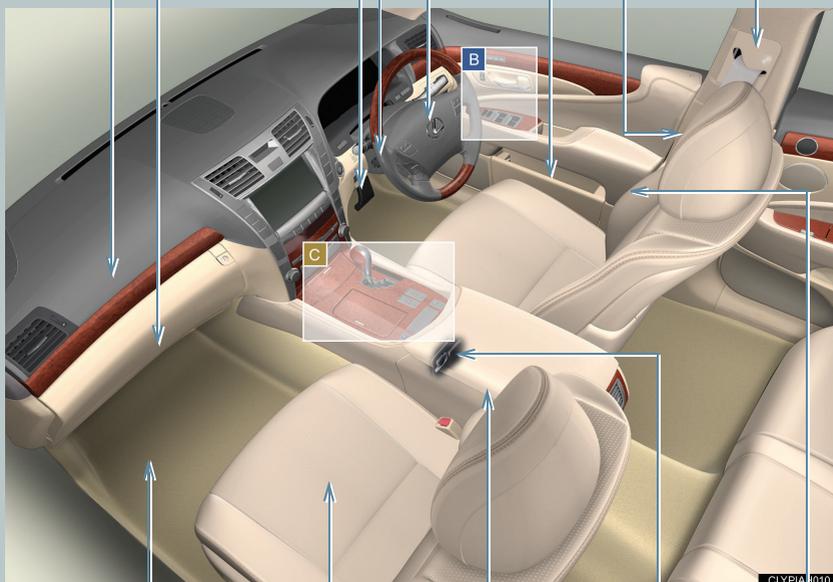
ハンドル位置調整スイッチ P. 102

運転席 SRS エアバッグ P. 123

ドアポケット P. 244

ヘッドレスト P. 94

シートベルト P. 97



フロアマット P. 281

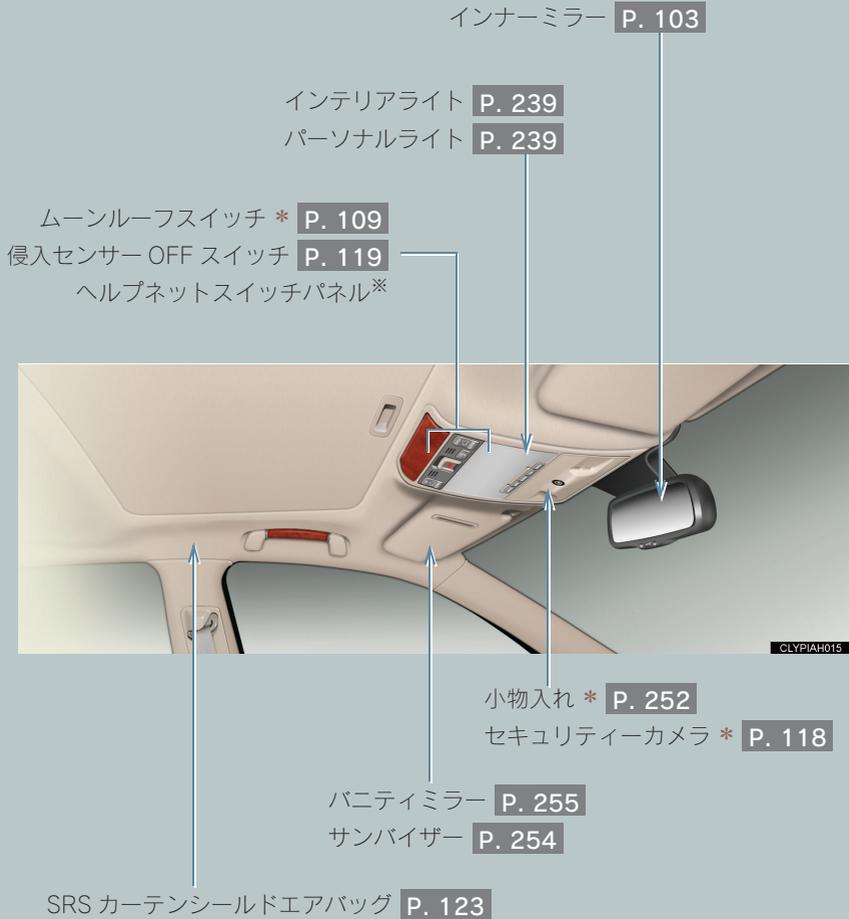
コンソールボックス
P. 247

SRS サイドエアバッグ
P. 123

フロントシート P. 77

アクセサリースOCKET P. 260
入力端子※

A



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ドアロックレバー P. 65

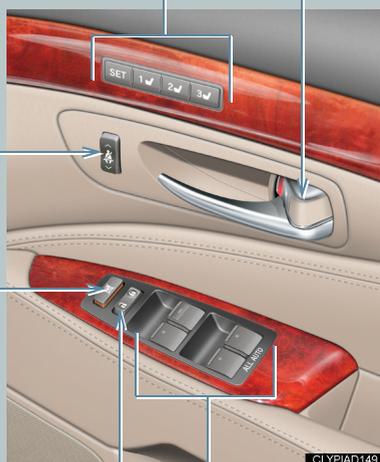
ドライビングポジションメモリースイッチ P. 89

シートベルト高さ調整スイッチ P. 97

ウインドウロックスイッチ P. 106

ドアロックスイッチ P. 65

パワーウインドウスイッチ P. 106



C

チェンジレバー P. 156

シガレットライター P. 258

灰皿 P. 257

カップホルダー P. 245

電子制御エアサスペンションスイッチ P. 206

フロントコンフォータブル・
エアシートスイッチ * P. 265

リヤドアサンシェード
スイッチ * P. 277

リヤサンシェード
スイッチ P. 273

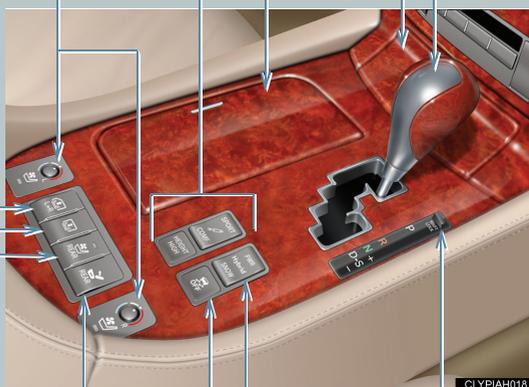
リヤコンフォータブル・
エアシートスイッチ *
P. 266

リヤシート位置もどしスイッチ * P. 83, 86

VSC OFF スイッチ P. 210

モードセレクトスイッチ P. 157

シフトロック解除ボタン P. 360



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル

ワイパー&ウォッシャー
スイッチ P. 179

パワースイッチ P. 149

グローブボックス P. 243

トランクオープナー
メインスイッチ P. 71

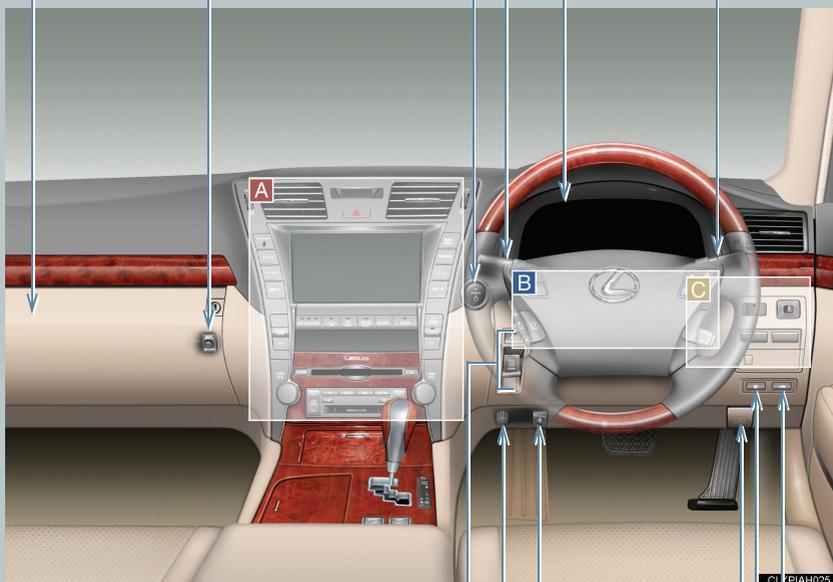
メーター P. 165

マルチディスプレイ P. 171

ライトスイッチ P. 174

方向指示レバー P. 160

フォグライトスイッチ P. 177



パーキングブレーキスイッチ P. 161

ブザー音量調整ツマミ P. 55

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ *
P. 215, 220

ボンネット解除
レバー P. 295

給油口オープナー
P. 112

トランクオープナー P. 71

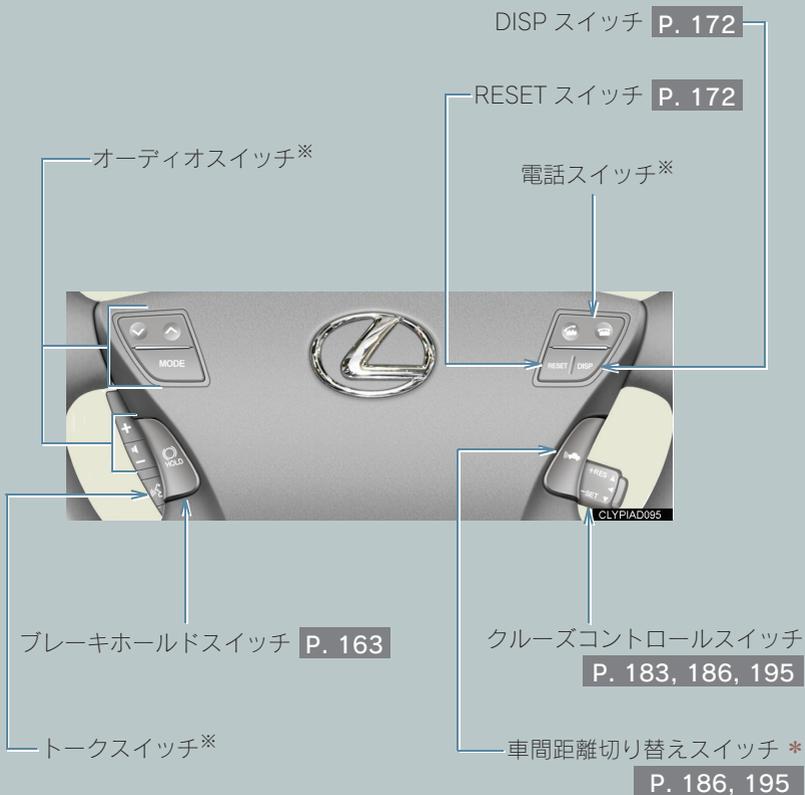
A



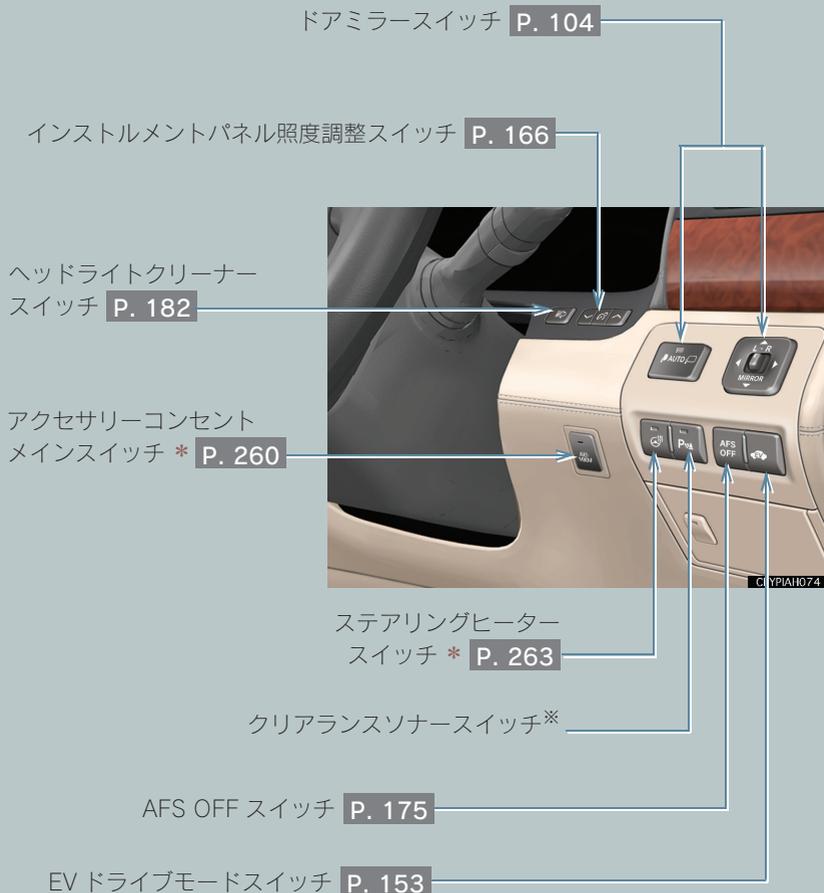
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B



C

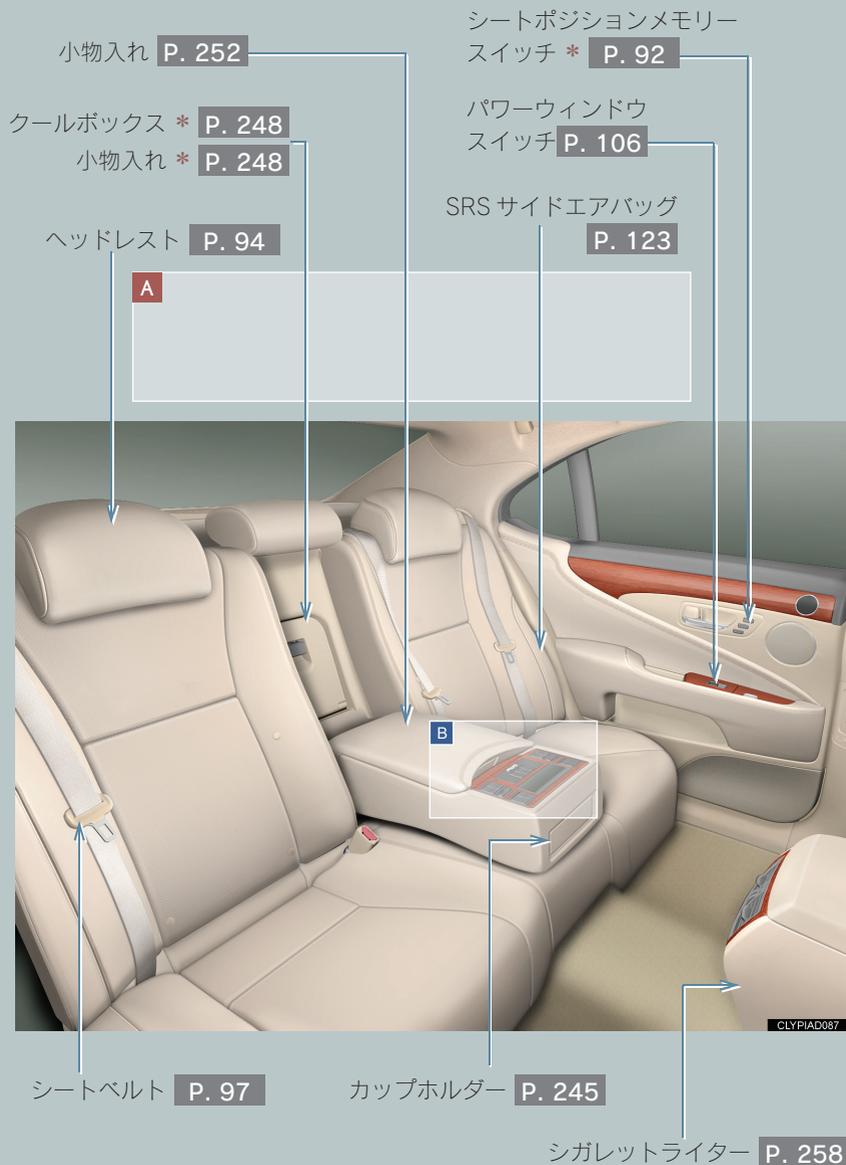


* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

リヤ席 (5 席車両)

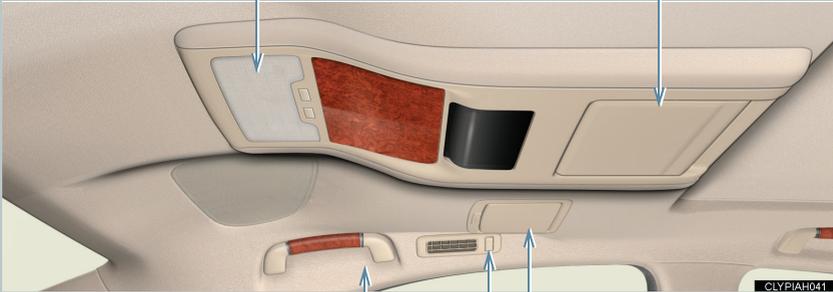


A

インテリアライト P. 239

パーソナルライト P. 239

後席9型ワイドディスプレイ※



SRSカーテンシールド
エアバッグ P. 123

バニティーミラー P. 255

コートフック P. 280

B

パワーシート
スイッチ * P. 82

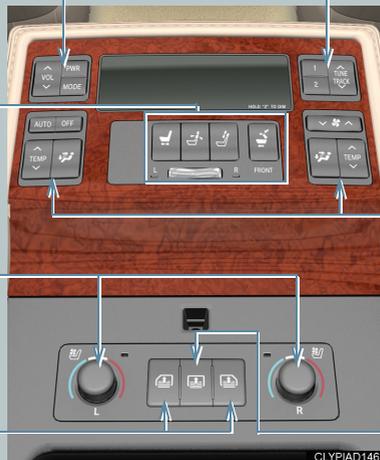
リヤコンフォータブル・
エアシートスイッチ *
P. 266

リヤドアサンシェード
スイッチ * P. 277

リヤオーディオスイッチ※

リヤエアコンスイッチ※

リヤサンシェード
スイッチ * P. 273



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDDナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

リヤ席 (4 席車両)

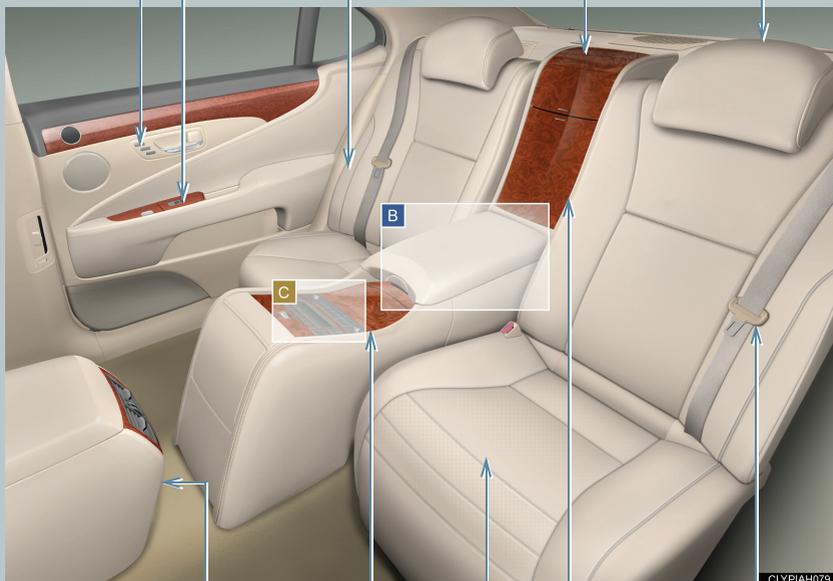
シートポジションメモリースイッチ P. 92

DVD プレイヤー※
ヘッドフォン端子※

パワーウィンドウ
スイッチ P. 106

SRS サイド
エアバッグ P. 123

ヘッドレスト P. 94



アクセサリコンセント P. 260

カップホルダー P. 245

SRS シートクッションエアバッグ P. 123

小物入れ P. 252

シートベルト P. 97

A

インテリアライト P. 239
パーソナルライト P. 239

後席 9 型ワイドディスプレイ※



コートフック P. 280

バニティーミラー P. 255

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 123

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

シガレットライター * P. 258

アクセサリソケット * P. 260

入力端子※

リヤシートリラクゼーション
システムコントローラー P. 269



後席ディスプレイリモコン※

クールボックス P. 248

C

テーブル引き出しレバー P. 271

リヤサンシェードスイッチ P. 273

リヤドアサンシェードスイッチ P. 277

リヤエアコンスイッチ※

リヤエアコンスイッチ※

リヤコンフォータブル・エアシートスイッチ P. 266

リヤオーディオスイッチ※



パワーシートスイッチ P. 85

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱くと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 133)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

ハイブリッドシステムについて

LS600h/LS600hL は電気モーターとガソリンエンジンを組み合わせたトヨタハイブリッドシステムⅡ（THSⅡ）を採用しています。

LS600h/LS600hL を安全・快適にお使いいただくために本書をしっかりとお読みください。

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

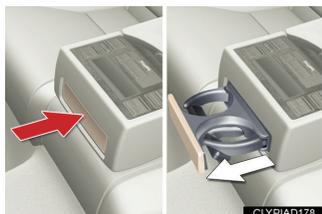
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について



セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

➡ スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

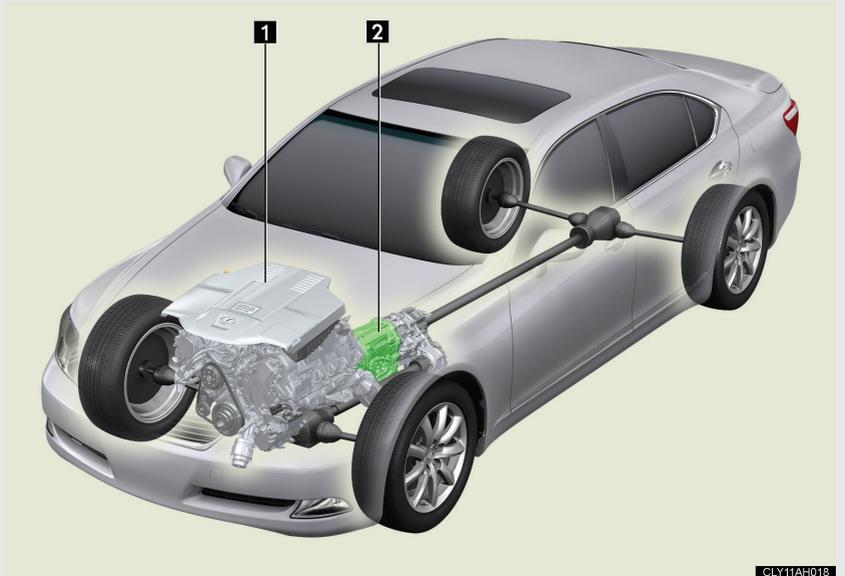
1-1. ハイブリッドシステム		
について.....	28	
ハイブリッドシステム		
の特徴.....	28	
ご使用になるにあたって		
(高電圧・高温について).....	32	
ご使用になるにあたって		
(駆動用電池・吸入口		
について).....	36	
ハイブリッドシステムの		
作動状態.....	38	
ハイブリッド車運転の		
アドバイス.....	46	
1-2. キーの取扱い.....	48	
キー.....	48	
1-3. ドア・トランクの開閉の		
しかた、ロック		
のしかた.....	52	
スマートエントリー&		
スタートシステム.....	52	
ワイヤレスリモコン.....	63	
ドア.....	65	
トランク.....	71	
1-4. シート、ミラー、ハンドル		
の調整のしかた.....	77	
フロントシート.....	77	
パワーリヤシート		
(5 席車両).....	82	
パワーリヤシート		
(4 席車両).....	85	
ドライビングポジション		
メモリー.....	89	
リヤシートポジション		
メモリー.....	92	
ヘッドレスト.....	94	
シートベルト.....	97	
ハンドル.....	102	
インナーミラー.....	103	
ドアミラー.....	104	
1-5. ドアガラス・ムーンルーフ		
の開け方、閉め方.....	106	
パワーウインドウ.....	106	
ムーンルーフ.....	109	
1-6. 給油のしかた.....	112	
給油口の開け方.....	112	
1-7. 盗難防止システム.....	116	
イモビライザーシステム.....	116	
オートアラーム.....	117	
1-8. 安全にお使いいただく		
ために.....	122	
正しい運転姿勢.....	122	
SRS エアバッグ.....	123	
チャイルドシートの		
取り付け.....	133	

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの特徴

LS600h/LS600hL のハイブリッドシステム構成は、トヨタハイブリッドシステムⅡ（THSⅡ）を採用しています。

THSⅡは電気モーターとガソリンエンジンという2つのパワーのシナジー（相乗）効果により、優れた動力性能と低燃費化の両立を高い次元で実現したシステムです。さらに、排出ガスを低減、クリーン化した環境に優しい技術となっています。



CLY11AH018

※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

1 ガソリンエンジン

2 電気モーター

- ガソリンエンジンは必要に応じて始動・停止して燃料の無駄な消費を防ぎます。
- 発進時は電気モーターが駆動を担当し、加速力に応じてエンジンと電気モーターの両方で駆動することによって、滑らかな発進、力強い加速性能を実現しています。
- エンジンと電気モーターを最適に制御することにより、画期的な燃費向上、排出ガスのクリーン化を可能にしています。
- エンジンの動力による充電や減速時の回生ブレーキにより、駆動用電池および補機バッテリーが充電されるため、車外からの充電は必要ありません。

 知識**■ ハイブリッド走行について**

車両状態に応じて、ガソリンエンジンが自動的に始動・停止します。

READY インジケーターが点灯していれば、ガソリンエンジンが停止していても発進可能です。

なお、下記の状態ではガソリンエンジンが自動停止しないことがあります。

- ガソリンエンジン暖機中
- 駆動用電池の温度が高いとき、または低いとき
- 駆動用電池の充電レベルが低いとき
- 暖房をかけているとき
- 補機バッテリーの交換などのために、ターミナルの脱着をおこなったとき

なお、自動停止しない状態が長時間続く場合は、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 始動・発進について

ハイブリッドシステム始動後、はじめはマルチディスプレイ内の READY インジケーターが点滅します。点滅が終わるまでお待ちください。

点滅が終わり READY インジケーターが点灯したら走行可能です。(→ P. 149)

■ クリープ現象について

坂道での車両の保持、発進時のペダル操作をより使いやすくするため、通常のオートマチック車と同様にクリープ力を発生させるようにしてあります。

■ 回生ブレーキとは

電気モーターは、外部の力でまわすことにより発電機として作動させることができます。この特性を利用して、アクセルペダルから足を離れたときやブレーキペダルを踏んだときに、電気モーターを発電機として使用し、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ電気エネルギーを回収するとともに減速力を得ることができます。この機能を回生ブレーキといいます。

回生ブレーキは、ハイブリッドシステムが自動的に行うため、アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作方法は通常の車と同じです。

■ 充電について

- ガソリンエンジンの動力による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。

そのため少なくとも、2～3ヶ月に1度、約30分間は運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、ハイブリッドシステムを始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

- ハイブリッドシステム作動中は自動的に充電されますが、チェンジレバーがNにあるときは充電がおこなわれません。車両停止時は必ずPにしてください。また、渋滞時などでも、DまたはSで運転してください。

■ 給油について

ハイブリッド車も燃料がなければ走行できません。燃料残量警告灯が点灯したら、すみやかに燃料を補給してください。

■ ガス欠になったときは

ガス欠でハイブリッドシステムが始動できないときは、燃料残量警告灯(→P. 344)が消灯するまで給油してから再起動してください。少量の給油では始動できない場合があります。(給油量は車両水平状態で約13Lです。車両の傾きによって給油量は変わります。)

■ 加速が鈍いときは

急加速を繰り返したり、長い時間加速を続けたりすると、一時的に加速が悪くなったように感じる場合があります。これは、駆動用電池の充電が間に合わず、充電レベルの低下によって、電気モーターの駆動力がプラスされていないためです。しばらく加速を中止するなどして、駆動用電池が充電されるのを待つと、通常の加速性能に戻ります。

■ハイブリッド車特有の音と振動について

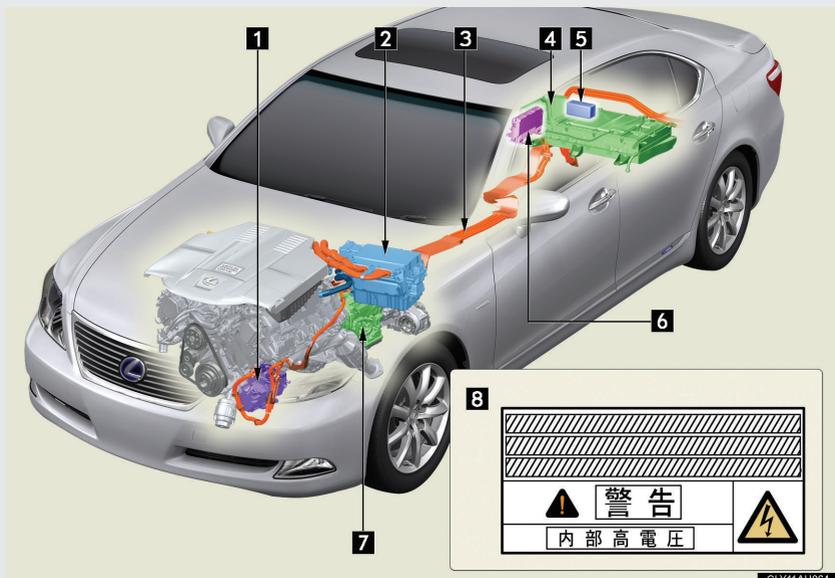
- ハイブリッド車は、READY インジケーターが点灯して走行可能な状態でも、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気がつかない場合があります。
安全のため、駐車時は必ずチェンジレバーをPにして、パーキングブレーキをかけてください。
- エンジンがまわると音がするのと同様に、電気モーターもまわると音がします。
- ハイブリッドシステム始動時や停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは、高電圧リレーの音で、異常ではありません。
- ガソリンエンジン始動・停止時に、トランスミッション付近から“コツコツ”、“カタカタ”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 発進時に“キーン”という音がしますが、これはパワーコントロールユニットの作動音です。
- ハイブリッドシステムが作動しているときに、トランクを開けると“キーン”という音がしますが、これはハイブリッドシステムの作動による音です。
- 減速時の“ヒューン”という音は、エネルギー回生音です。
- 急加速時に突然エンジン音が大きくなったと感ずることがあります。これは、エンジン回転を高くして加速力を得ているためです。通常走行時のエンジン音が静かな分、より大きく感じられます。
- 停車中・走行中の軽い振動は、ガソリンエンジンの始動・停止による振動です。ハイブリッド車のエンジンは、状況に応じて自動的に始動・停止を繰り返すため、走行中であっても軽い振動を感じることがあります。
- 電気モーターだけで走行しているときは、歩行者や付近の人に注意してください。エンジン音がしないので車両の接近に気づかないおそれがあります。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ご使用になるにあたって（高電圧・高温について）

トヨタハイブリッドシステムII（THSII）には、駆動用電池、パワーコントロールユニット、オレンジ色の高圧ケーブル、電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。

■ 主な高電圧部位



※イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 エアコンコンプレッサー | 5 サービスプラグ |
| 2 パワーコントロールユニット | 6 DC/DC コンバーター |
| 3 高電圧ケーブル（オレンジ色） | 7 電気モーター |
| 4 駆動用電池 | 8 コーションラベル★ |

★高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

警告

■ 高電圧、高温について

- 高電圧部位、高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし、分解などは、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険ですので、絶対におこなわないでください。



- サービスプラグがトランク内に設置してあります。サービスプラグはレクサス販売店にて車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。取り扱いを誤ると感電し、生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。危険ですので、絶対に触らないでください。

- 電気モーター、冷却用ラジエーターなど高温になる部位があります。熱くなっている場合がありますので触らないでください。やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、ハイブリッドシステムを停止して高電圧を遮断します。また、フューエルポンプ制御により燃料供給を停止し、燃料漏れを最小限におさえます。

この場合、ハイブリッドシステムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

ハイブリッドシステムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動的に表示されます。



警告メッセージは、メーター内のマルチディスプレイに表示されます。

表示されたメッセージの指示にしたがってください。



知識

■ 警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたときは

ハイブリッドシステムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしてもREADYインジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

■ 電磁波について

- 高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。
- アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が入る場合がありますので、無線機の取り付け・取りはずしは、レクサス販売店にご相談ください。

**警告****■ 事故が発生したときは**

以下のことをお守りいただかないと、感電など生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

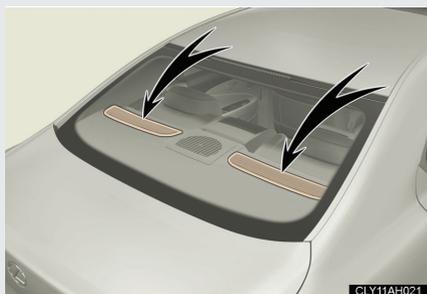
- 続発事故防止のため、他の交通の妨げにならないような安全な場所に停車する
- 高電圧が各ユニットにかからないようにするため、チェンジレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にした後、キーを携帯して車を離れる
- 高電圧部位、高電圧配線などには絶対に触らない
- 車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対に触らない
- 液体の付着や漏れがある場合は絶対に触らない
駆動用電池の電解液（強アルカリ性）が目や皮膚に触れると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- 万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。
- タイヤが接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、漏電による火災のおそれがあり危険です。（→ P. 336）

■ 事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に

車の下の路面などを確認し、液体の漏れ（エアコンの水以外）が見つかった場合、燃料系統が損傷している可能性があります。そのままハイブリッドシステムを始動すると燃料に引火するおそれがあり危険ですので、始動しないでください。

この場合は、レクサス販売店へ連絡するときに状況を併せてお伝えください。

パッケージトレイ上部には、駆動用電池冷却用の吸入口があります。



吸入口をふさいだりすると、駆動用電池の過熱や出力低下の原因となります。

警告

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

吸入口を分解したり、はずさないでください。

吸入口の奥には高電圧電池があるため、手などをいれると、生命にかかわる感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

■ 駆動用電池の回収について

廃車する場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

駆動用電池は、レクサス販売店を通じて回収をおこなっていますので回収にご協力ください。

適切に廃棄されず、不法に投棄または放置されると、第三者が駆動用電池などの高電圧部位に触れた場合に、生命にかかわる感電事故などが発生するおそれがあり危険です。

 注意

■ 駆動用電池冷却用の吸入口について

- 吸入口の上に荷物などを置いたりしないでください。
吸入口がふさがれると駆動用電池が過熱したり、ハイブリッドシステムの出力低下につながるおそれがあります。
- 吸入口は、目詰まりしないよう定期的に清掃してください。
- 吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。
- 駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。
誤ってこぼしてしまったときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

1-1. ハイブリッドシステムについて

ハイブリッドシステムの作動状態

LS600h/LS600hL のハイブリッドシステムがどのように作動するかを説明します。

実際には、駆動用電池の充電が必要なときやガソリンエンジン暖機中など、使用状況に応じてさまざまな制御をおこないます。



電気のエネルギー



ガソリンのエネルギー



エネルギーを回収（充電）

■ 停車時・発進時



停車中はガソリンエンジンを停止します。

発進時は、駆動用電池の電力で電気モーターを使って発進します。

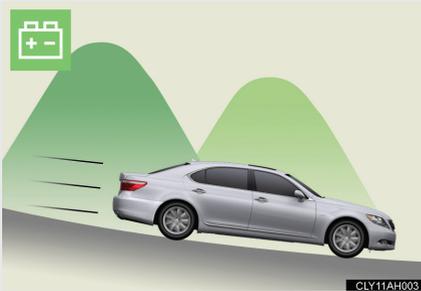
（状況により、ガソリンエンジンが停止しない場合があります。）

■ 通常走行時



ガソリンと電気を効率よく使って、低燃費で走行します。

■ 減速時・制動時



車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。
(回生ブレーキ)

■ 低速走行時



ガソリンエンジンの効率が悪い領域では、ガソリンエンジンを停止し、電気モーターで走行します。

■ 全開加速時



ガソリンエンジンに加え、駆動用電池からも電気モーターに電力を供給し、電気モーターの出力を上げ、力強く加速します。

エネルギーモニター／燃費画面

車両駆動状況、ハイブリッド動作状況およびエネルギーの回収状況を表示します。ナビゲーションシステムの画面とメーター内のマルチディスプレイで表示させることができます。

表示されるエネルギーの流れや駆動用電池の残量などは、そのときの走行状況に応じて異なります。

■ エネルギーモニターの見方

- ナビゲーションシステム画面で表示するには：



情報画面を表示する。



[車両情報] にタッチする。

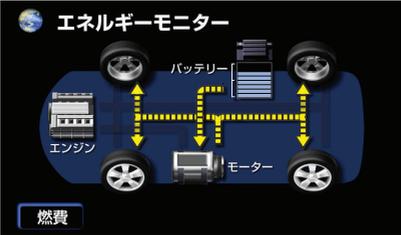
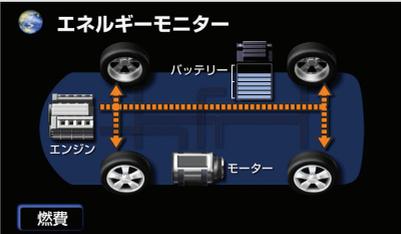
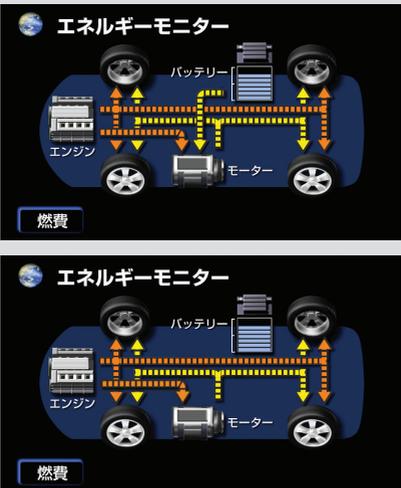
燃費画面が表示されたときは、[エネルギー] にタッチします。

- マルチディスプレイで表示するには：



ハンドルの DISP スイッチをエネルギーモニターが表示されるまで数回押す。

ハイブリッドシステムの作動とエネルギーモニターの表示

	ナビゲーションシステム画面	マルチディスプレイ
<p>電気のエネルギーで走行しているとき</p>		
<p>ガソリンのエネルギーで走行しているとき</p>		
<p>ガソリンと電気の両方のエネルギーで走行しているとき</p>		

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

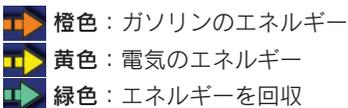
	ナビゲーションシステム画面	マルチディスプレイ
駆動用電池に充電しているとき		
エネルギーの流れがないとき		
駆動用電池の残量表示	<p>少ない ⇔ 多い</p>	<p>少ない ⇔ 多い</p>

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

知識

■ 表示について

- ナビゲーションシステム画面では、エネルギーの流れを次のように色分けして矢印で表示します。



- バッテリー部分は、駆動用電池の残量を 8 段階で表示します。

■ 燃費画面の見方



情報画面を表示する。



[車両情報] にタッチする。

エネルギーモニターが表示されたときは、[燃費] にタッチします。



- 1 過去 30 分間の 1 分毎の燃費 (平均燃費)
- 2 過去 30 分間の 1 分毎のエネルギー回収量
- E マーク1つが50Whです。
- 3 過去最高燃費
- 4 通算燃費
- 5 航続可能距離

※画面は説明のための例であり、実際の画面とは異なる場合があります。

 知識**■ 燃費データをリセットするには**

[リセット] にタッチすると平均燃費、エネルギー回収量、通算燃費がリセットされ、0に戻ります。なお、通算燃費が過去最高燃費を上まわっている場合は、リセットすると過去最高燃費が更新されます。

[全リセット] にタッチすると、平均燃費、エネルギー回収量、通算燃費に加え、過去最高燃費がリセットされます。

■ エネルギー回収量について

1分毎のエネルギー回収量を、50Wh 毎に1つの割合で、マークを表示します。50Whは、50Wの電球を1時間点灯できるエネルギーのことです。

■ 通算燃費について

リセットしてから現在までの通算燃費を表示します。

■ 過去最高燃費について

全リセットしてから現在までの過去最高燃費を表示します。

■ 平均燃費について

1分毎の平均燃費を最大で20km/lまで表示します。
(今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。)

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

環境にやさしく経済的な運転のしかた

■ ハイブリッドシステムインジケータの利用

メーター内のハイブリッドシステムインジケータの針を ECO ゾーンに保つことで、より燃費効率のよい走行が可能です。(→ P. 165)

■ 加速時のアクセル操作

加速後いったんアクセルをもどし、その後徐々に踏み込みましょう。こうすることでモーターでの走行を多くすることができます。

■ 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、緩やかなブレーキ操作をおこないましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ 渋滞

加速・減速の繰り返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルを緩めて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

■ 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし緩やかなブレーキ操作をおこないましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

■ エアコンの ON / OFF

必要時以外は OFF にしましょう。余分なガソリン消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環に設定しましょう。エアコンの負荷が減り燃費向上につながります。

冬季：エンジン・車室内が暖まるまで、エンジンが自動停止しないので、燃料を消費します。また、過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。

■ タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。

また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

■ 荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不用な荷物は、積んだままにせずにおろしましょう。

また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

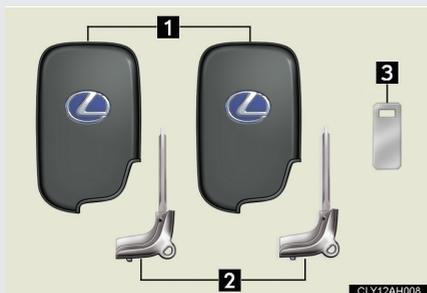
■ 走行前の暖機運転

エンジンが冷えているときは、エンジンの始動／停止を自動的におこないますので、暖機運転は必要ありません。

なお短距離走行の繰り返しは、暖機運転のためのエンジン始動が頻繁におこなわれることになりまますので、燃費の悪化につながります。

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



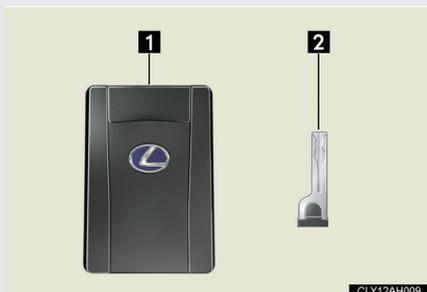
1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 52)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 63)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 52)

2 メカニカルキー

カードキーには、使用方法などが記されたインフォメーションカードが同封されています。カードキーとともに携帯していただくことをおすすめします。

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後は元にもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
(→P. 364)

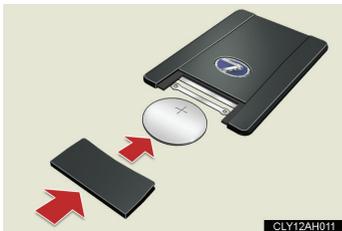
知識

■ カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

- カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスを施錠します。(→P. 71, 243)

メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。万一メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。

(→P. 363)

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

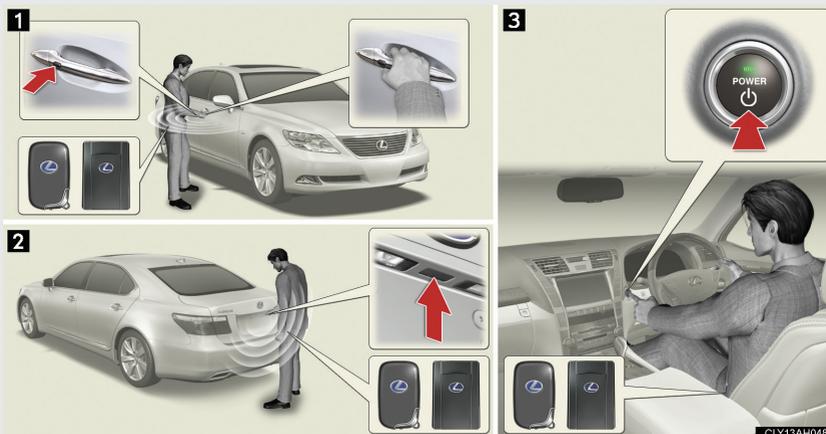
**注意****■ カードキー取り扱いの注意**

- メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯しているだけで以下の操作がおこなえます。

（必ず運転者が携帯してください。）



1 ドアの施錠・解錠（→P. 53）

2 トランクの解錠（→P. 53）

3 パワースイッチ切り替え、ハイブリッドシステムの始動（→P. 149）

ドアの施錠・解錠



ロックスイッチを押して施錠する

長押しするとドアガラスが閉まります。
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠したあと3秒間は解錠できません。

トランクを開ける

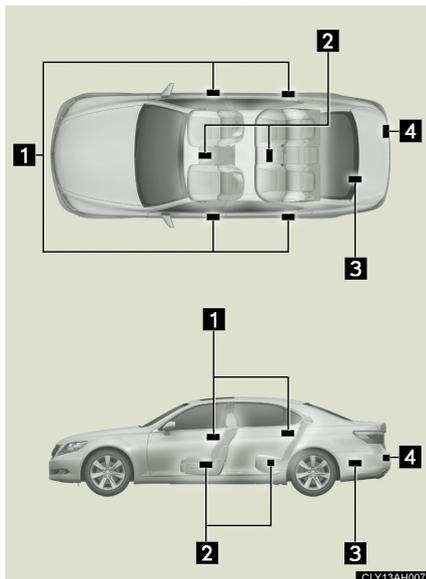


スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は
自動で全開します。

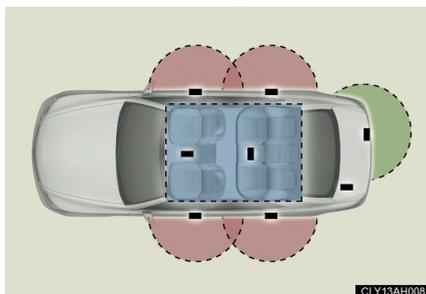
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)
- : トランクの解錠時
トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチ切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。



1 音量大

2 音量小

いっぱいまでまわすと音を消すことができます。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー & スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー & スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 364)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 解錠ドアの切替機能

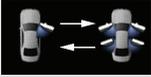
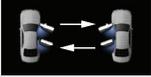
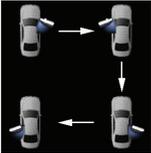
ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 パワースイッチを OFF にする。

手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 117）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに次の表のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手をはなした後 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。）

マルチディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠	車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ”（4回） 車内：“ポーン”（1回）
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ”（1回） 車内：“ポーン”（1回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける。

? ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 117）

■ 節電機能

電子キーの電池と車の補機バッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する（→P. 63）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 364）

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーは 1 年半程度で消耗します。)
- 電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 329)
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■ システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■ G-Link サービス (ご契約のお客様のみ)

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。
- うっかり通知・リモート操作機能は車内の電子キーの検知を利用しています。そのためスマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知・リモート操作機能が正しく働かないことがあります。

詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ご注意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・ ハイブリッドシステム始動時またはパワースイッチの切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のバツケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、ハイブリッドシステムの始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

■ 解錠操作後のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチディスプレイに警告が表示されることがあります。以下にしたがい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	パワースイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	パワースイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と 鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした (ACC のとき運転席ドアを開いた)	パワースイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

警告音	状況	対処方法
車内から “ピー” と鳴り続ける※ ¹	パワースイッチが ON または ACC のとき、チェンジレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	チェンジレバーを P に入れ、パワースイッチを OFF にしてください。
車内・車外から “ピー” と鳴り続ける※ ¹	パワースイッチが ON または ACC のとき、チェンジレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	チェンジレバーを P に入れ、パワースイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
車内から “ポーン” と 1 回鳴る※ ¹	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でハイブリッドシステムを始動しようとした。	電子キーを携帯してハイブリッドシステムを始動してください。※ ²
車内から “ポーン” と 1 回鳴る 車外から “ピー、ピー、ピー” と 3 回鳴る※ ¹	パワースイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	パワースイッチを OFF にした後、再度運転席ドアを閉めてください。
	パワースイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	キーを車内に戻してください。

※¹ メーター内のマルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。

※² 電子キーが車内にあってもハイブリッドシステムが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 55)

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 364
- ハイブリッドシステムの始動：→P. 365

■ キーの電池が切れたときは

→P. 329

■ カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(→P. 382)

 **警告**

■ **電波がおよぼす影響についての警告**

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

車外からドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラスが閉まる（長押し）
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラスが開く（長押し）
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも開きます。
- 5 トランク解錠（長押し）
パワートランクリッド装着車：
トランクが開く（長押し）

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯で知らせます。
（施錠は1回、解錠は2回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。
（→P. 55）

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 117）

■ G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）

うっかり通知機能によって、施錠忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ 電池の消耗について

→P. 58

■ 解錠操作のセキュリティ機能

→P. 60

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 364
- ハイブリッドシステムの始動：→P. 365

■ キーの電池が切れたときは

→P. 329

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→P. 55

■ カスタマイズ機能

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（→P. 382）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

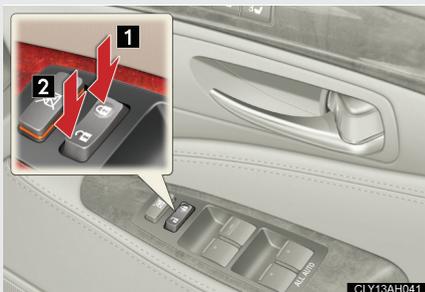
■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 53

■ ワイヤレスリモコン

→P. 63

■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに車外から運転席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチがACCまたはONのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	ハイブリッドシステムが作動中にチェンジレバーをPから動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	チェンジレバーをPに入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が20 km/h以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	パワースイッチをOFFにしてから10秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

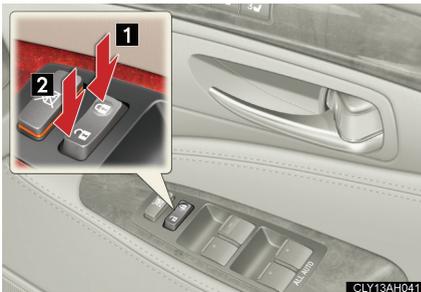
■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、パワースイッチを ON にする（その後 20 秒以内に手順 2 をおこなう。）

手順 2 チェンジレバーを P または N に入れ、運転席ドアロックスイッチの **1** または **2** を約 5 秒間押しはなす。

設定または解除をおこなう機能によってチェンジレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。



機能	チェンジレバーの位置	スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	1
シフト連動オートアンロック		2
車速感応オートロック	N	1
運転席ドア連動オートアンロック		2

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。

 知識

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げ、手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ **衝撃感知ドアロック解除システム**

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ **イージークローザー**

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。

- パワースイッチがどのモードであっても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ **カスタマイズ機能**

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。(→ P. 382)

警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中は運転席ドア内側のドアハンドルを引かない
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ イージークローザーについて



- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



■ **イージークローザーの故障を防ぐために**

頻繁にドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

1-3. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ トランクオープナー



スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合
は自動で全開します。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 53

■ ワイヤレスリモコン

→P. 63

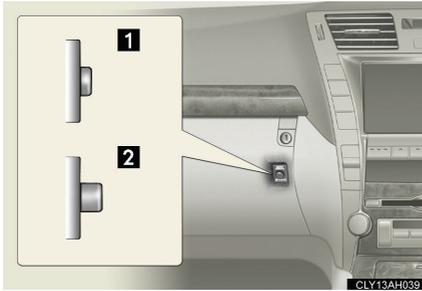
トランククローザー（パワートランクリッド装着車）



スイッチを押すとブザーが鳴り、ト
ランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押
すと、トランクは再び開きます。

トランクオープナーを使用できなくするには



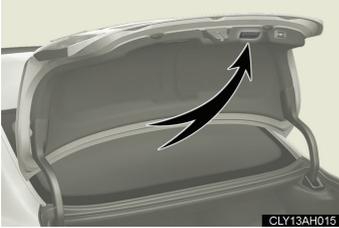
グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- 1 ON
- 2 OFF

ワイヤレスリモコンやスマートエントリー&スタートシステムでも、トランクが開かなくなります。

 知識

■ トランクグリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクを一旦半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ 落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクが閉まる途中でトランクリッドが異物を挟むと、作動が停止し、開きます。

■ カスタマイズ機能

パワートランクリッドを非作動にすることができます。（→ P. 382）

警告

■ 走行中の警告

走行中はトランクを開けてください。

開けたままにしておく、荷物が投げ出されたり、排気ガスが車内に入るおそれがあります。

■ お子さまをのせるときは

- お子さまだけを車内に残さないでください。

お子さまが車内やトランク内から施錠してしまい、閉じ込められて、温度の上昇や窒息などにより生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあります。

- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。

不意にトランクリッドが作動し、体が挟まれるおそれがあります。

■ イージークローザーについて



- トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- トランクが半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをトランクの間に挟まないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワートランクリッドについて

- パワートランクリッド作動時は周囲の安全を確かめ、トランクリッドで手などを挟まないように十分注意してください。また、カバンやネクタイなどの身の回り品にも十分注意してください。

- トランクリッドにレクスス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障するおそれがあります。また、全開したあとにトランクリッドが落ち、重大な障害を受けるおそれがあります。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の重量物（雪など）を取り除いてください。開いたあとに、重みでトランクリッドが落下してくるおそれがあります。

⚠ 警告

- パワートランクリッドの作動中に障害物にあたるなどして異常を検知した場合、自動作動を停止し手動作動に切り替わる場合があります。パワートランクリッドを作動させるときは、障害物がないことを確認してから操作してください。

■ 挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、体の一部を挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワートランクリッドの操作について

パワートランクリッド操作時は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



- パワートランクリッド操作時は周辺に人がいないか、器物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。不意にトランクリッドが作動し、体が挟まれるおそれがあります。
- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指を挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 **警告**

■ **トランクを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周囲の安全を確かめ、トランクで指などを挟まないよう十分注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- お子さまにはトランクの開け閉めをさせないでください。手、頭、首などを挟んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 傾斜地では平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくくなる場合があります。また急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。指などを挟まないよう十分注意してください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクが風にあおられて勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあり危険です。

■ **トランクを使用するときは**

トランクが全開状態で静止していることを確認して使用してください。とくに傾斜地では開いたあとにトランクが落ちる場合があります危険です。

 **注意**

■ **イージークローザーの故障を防ぐために**

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■ **パワートランクリッドの故障を防ぐために**

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や荷物が乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた フロントシート

1

運転する前に



1 前後位置調整

運転席はシートの動きに合わせてヘッドレストの高さも自動で上下します。

2 リクライニング調整

3 ヘッドレストの上下調整 (→ P. 94)

4 クッション前端の上下調整

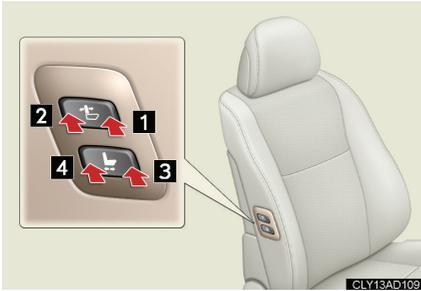
5 シート全体の上下調整

6 腰部硬さ調整 (ランバーサポート)

7 クッションの長さ調整*

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

助手席側面スイッチ



● リクライニング

1 前

可倒ヘッドレスト装着車: パワースイッチが ON のときはリクライニング後、ヘッドレストが上昇したのち前倒しになります。作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でリクライニングスイッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置にもどります。

2 後ろ

可倒ヘッドレスト装着車: パワースイッチが ON のときにヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置までもどります。

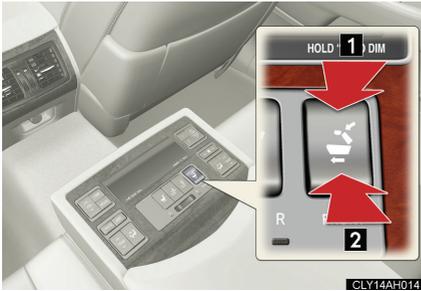
● 前後位置

3 前

4 後ろ

リヤ席からの助手席操作について

▶ 5 席車両 *



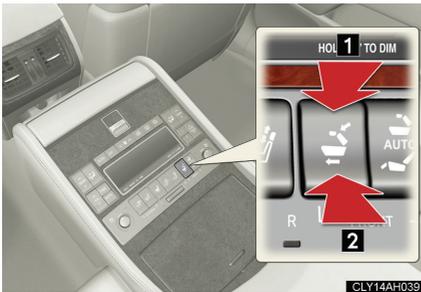
1 助手席を前へ移動

前端位置になると、ヘッドレストが前倒しになりブザーが鳴ります。

2 助手席を後ろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストが元にもどり背もたれが中立位置までもどります。

▶ 4 席車両



1

運転する前に

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



知識

■ 助手席側面スイッチについて（可倒ヘッドレスト装着車）

以下の場合、スイッチを操作してもヘッドレストが作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき
- 助手席側ドアが開いているとき

■ リヤ席からの助手席操作について

パワースイッチがONのとき使用できます。ただし以下の場合、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ クッション長さの自動調整（運転席）

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■ リヤ席でテーブルを使用しているときは（4席車両）

フロントシートを後方に操作しているときにテーブルと接触しそうになると、シートの作動が止まります。（マルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

**警告****■ シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

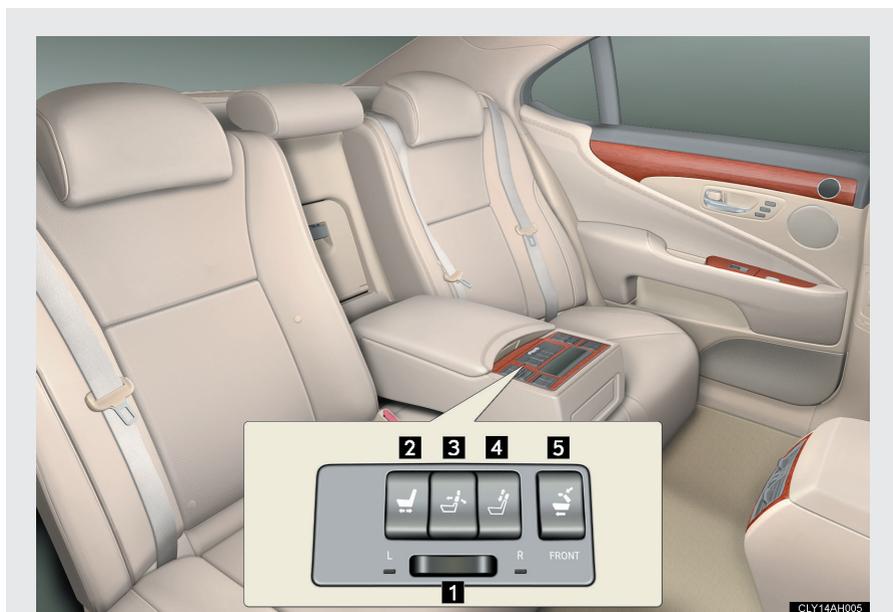
助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。

足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

**注意****■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

操作するときは助手席の上や足元に作動を妨げるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた パワーリヤシート (5 席車両) *



1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整 (→P. 94)

5 助手席コントロールスイッチ (→P. 78)

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置にもどり、乗りおりしやすくなります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

フロント席からリヤシートをもどす



ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

知識

■ ドア連動シートリターン機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされ、ドアを開けてもシートがもどらなくなります。

キャンセル中はインジケータが点灯します。ドアと連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF にした後 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。



■ **シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫をうけたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ **前後調整をするときは**

足元のスペースを確保し、足をフロント席に挟まないように注意してください。

■ **フロント席からリヤシートをもどすときは**

リヤ席の乗員が車をおりてから操作してください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた パワーリヤシート（4席車両）

1

運転する前に



リヤ左席（助手席後ろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 94）

5 リクライニング調整

6 オットマン（フットレスト）角度調整

7 助手席コントロールスイッチ

8 リラクゼーションモードスイッチ

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置にもどり、乗りおりしやすくなります。

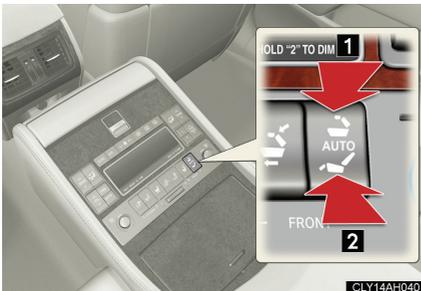
フロント席からリヤシートをもどす



ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

リラクゼーションモード（リヤ左席）

スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、リヤ左席の背もたれとオットマンが同時に作動します。



スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

- 1 リラクゼーションモードにする
- 2 中立位置にもどす

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

知識

■ リラクゼーションモードについて

パワースイッチが ON のとき使用できます。ただし以下の場合、スイッチを押しても作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ ドア連動シートリターン機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされ、ドアを開けてもシートがもどらなくなります。

キャンセル中はインジケータが点灯します。ドアと連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- S E T ・ M ・ C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

- パワースイッチを O F F にした後 45 秒間は、リラクゼーションモードのリターン操作でリヤシートを中立位置に戻せます。
- パワースイッチを O F F にした後 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■ シート作動の自動停止

操作中にリヤシートと助手席が接触しそうになると、ブザーが鳴りシートの作動が止まります。

 **警告**

■ **シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ **前後調整やオットマンの操作をするときは**

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

■ **フロント席からリヤシートをもどすときは**

リヤ席の乗員が車をおりてから操作してください。

■ **オットマンの使用について**

● オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な障害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗りおりする際はオットマンを格納してください。

 **注意**

■ **オットマンの故障を防ぐために**

● 足元のスペースを確保しオットマンの作動を妨げないようにしてください。

● オットマン部分に重いものを乗せないでください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドライビングポジションメモリー

1

運転する前に

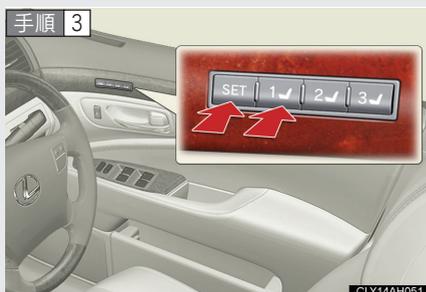
お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度、シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

チェンジレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 パワースイッチを ON にする。

手順 2 運転席、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さを好みの位置に調整する。



SET ボタンを押しながら、1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

チェンジレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 パワースイッチを ON にする。



1～3のうち呼び出したいポジションのボタンを押す。

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ 1 ~ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



手順 2

1 ~ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  ボタンをブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

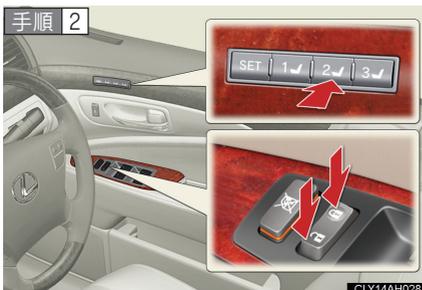
手順 3 いずれかのドアを開ける。

 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。(→P. 117)

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。



手順 2

1 ~ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。(運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう。)

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

 知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 パワースイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、電子キーの  ボタンをブザーが鳴るまで押す。

ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを OFF にした後に運転席ドアを開けると、30 秒以内ならスイッチ操作（1～3）でポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■ リヤ席でテーブルを使用しているときは（4 席車両）

フロントシートを後方に操作しているときにテーブルと接触しそうになると、シートの作動が止まります。（マルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

 警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転手の体がハンドルで圧迫されたりしないよう注意してください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた リヤシートポジションメモリー*

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ ポジションの登録

手順 1 パワースイッチを ON にする。

手順 2 リヤ席を好みの位置に調整する。



SETボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し



M ボタンをブザーが鳴るまで押す。

4 席車両：オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下に登録されている場合のみ作動します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識**■ ドア連動シートリターン機能**

ドアを開けたときに、シートが自動で中立位置にもどります。パワースイッチを OFF にした後でも、45 秒間はドア連動シートリターン機能が作動します。

■ ポジションの呼び出し作動・ドア連動のシートリターン作動を途中で止めるには
以下のいずれかの操作をします。

- SET・M・C ボタンのいずれかを押す
- シート調整スイッチを操作する

■ ドア連動シートリターン機能を解除するには

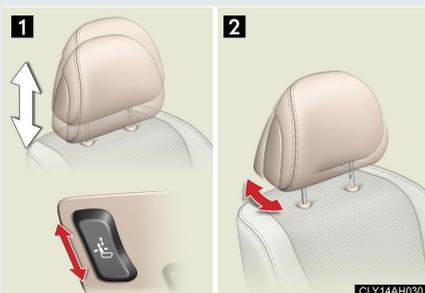
→ P. 83, 87

 **警告****■ シート調整時の警告**

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートに当たらないよう注意してください。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ヘッドレスト

■ フロント席



1 上下調整

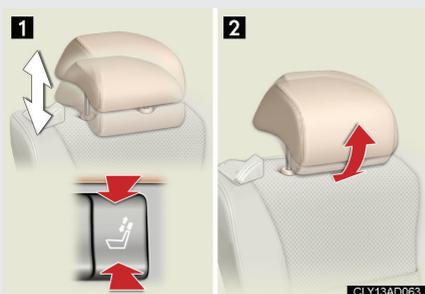
→P. 77

2 前後調整

助手席可倒ヘッドレスト装着車：運転席のみ調整できます。

■ リヤ外側席

▶ 電動式



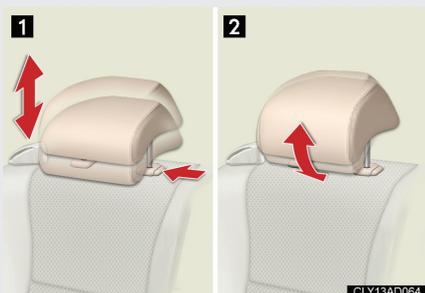
1 上下調整

5席車両：→P. 82

4席車両：→P. 85

2 前後調整

▶ 手動式

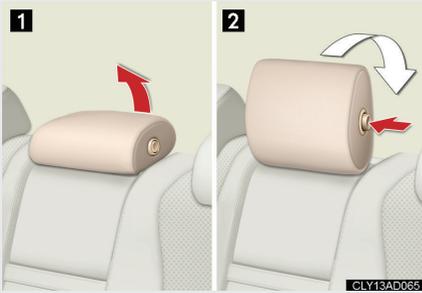


1 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

2 前後調整

■ リヤ中央席（5 席車両）



- 1 使用時
- 2 格納時

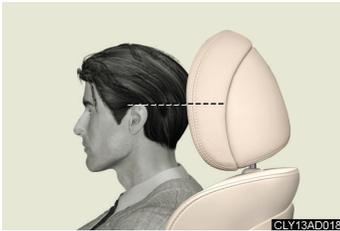
CLY13AD066

知識

■ ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

■ 各シートのヘッドレストについて

ヘッドレストは、それぞれのシート専用です。



■ **ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



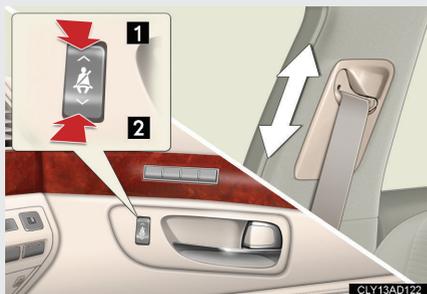
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



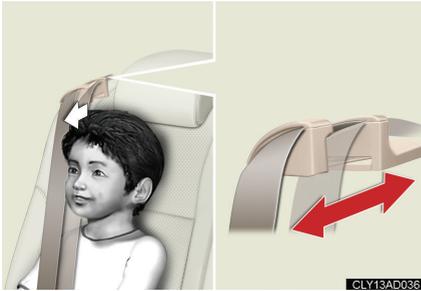
- 1 固定
“カチッ”と音がするまで差し込みます。
- 2 解除
解除ボタンを押します。
はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。

■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



- 1 上がる
- 2 下がる

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）



肩ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

レーダーセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻きこみ、より早く乗員を拘束することで衝突の被害を軽減します。

また、急ブレーキをかけたときも作動します。（→P. 214, 219）

知識

■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ チャイルドシート固定機構付シートベルト

リヤ席の肩部ベルトは、いったいまで引き出してから戻すとその位置で固定され引き出せなくなります。これは、チャイルドシートを固定するための機構です。ベルトを一度完全に巻きもどしてからもう一度引き出せば解除できます。(→P. 133)

■ 妊娠中の女性や疾患のあるかたの場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 97)

妊娠中のかたも、通常の着用の仕方と同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまのシートベルトの使い方

シートベルトは、それを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 133)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用の仕方にしたがってください。(→P. 97)

■ シートベルト高さの自動調整（運転席のみ）

調整後のシートベルト高さをドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 89)

■シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- プリテンショナー付のシートベルトは、一度作動すると使用できません。事故などにあったときは、必ずレクサス販売店で点検を受け、作動済みのときは交換してください。



警告

■シートベルトの着用について

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■助手席シートベルトプリテンショナーについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。

 **警告****■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店へご連絡ください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリクラッシュシートベルトについて

プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。

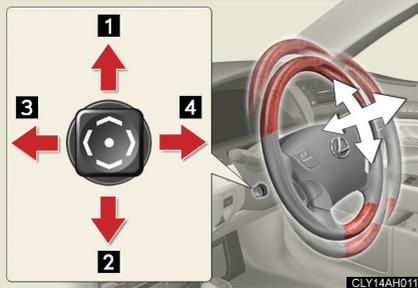
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

■ チャイルドシート固定機構付きシートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付きシートベルトで遊ばせないでください。

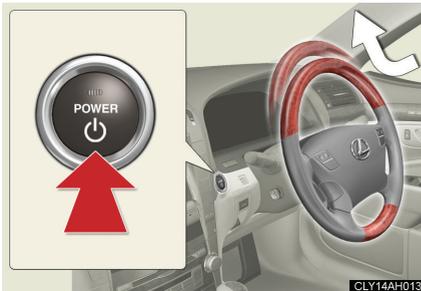
1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ハンドル

パワースイッチが ACC または ON のとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 前方に動く
- 4 手前に動く

オートアウェイ&オートリターン機構



パワースイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが動きます。

パワースイッチを ACC または ON にすると、元の位置にもどります。

知識

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 89)

⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

パワースイッチをONにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-4. シート、ミラー、ハンドルの調整のしかた ドアミラー

パワースイッチが ACC または ON のとき、スイッチでミラーの角度調整ができます。



- 1 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)
- 2 スイッチを操作してミラー角度を上下左右に調整する

ドアミラーを格納するときは



- 1 格納する
- 2 元の位置にもどす

スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 89)

■ リバース連動機能

後退時にミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置 (L・Rの間) にしておくと、この機能は作動しません。

**警告****■ 走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

● ミラーの調整をしない

● ドアミラーを格納したまま走らない

必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを元の位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

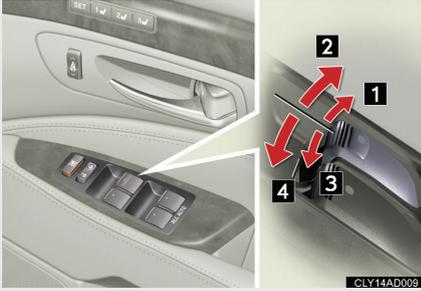
手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。

1-5. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■ 作動条件

パワースイッチがONのとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。
(→P. 63, 364)
- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。
(→P. 53)

■ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にした後約 45 秒間はドアガラスを開閉できません。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）

うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。（→P. 382）

警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう「声かけ」をしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ/ダウンできます。

■ 開閉



1 開く

全開の少し手前で止まります。(風切音の低減機能。) さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチのどれかを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチのどれかを軽く押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴りメーター内のマルチディスプレイにメッセージが表示されます。

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。(→P. 63, 364)
- スマートエントリー&スタートシステムでムーンルーフを閉じることができます。(→P. 53)

■ ハイブリッドシステム停止後の開閉作動

パワースイッチを ACC または OFF にした後約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ ムーンルーフが通常の操作で閉まらないときは

CLOSE スイッチを押しつづけることで閉めることができます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。(→P. 382)

警告

■ ムーンルーフを開けているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子様には、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-6. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。

■ 給油口の開け方



スイッチを押す



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチツ”と音がするまでまわして閉めます。

手をはなすと、キャップが逆方向に少し戻ります。

知識

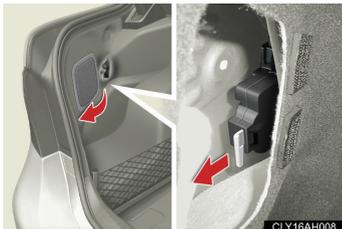
■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■ 燃料タンク容量

約 84 L

■ 給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内のレバーを引きます。



警告

■ 給油について

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー” という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ 給油時の注意

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ キャップ交換時の警告

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使用しないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ 給油するときは

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- ガソリンエンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではパワースイッチの切り替えやハイブリッドシステムの始動ができません。



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、イモビライザーシステムが正常に働かずハイブリッドシステムが始動できないことがあります。(→P. 55)

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報を作動（ホーンと非常点滅灯等）させます。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、キーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
 - 施錠時にボンネットが開けられたとき
 - 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- ※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。30秒経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには

以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- ハイブリッドシステムを始動する。（数秒後に解除・停止します。）

 注意

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。

- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、補機バッテリーあがりなどで充電や交換をしたとき

■ セキュリティカメラ*



オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link サービス / G-Security」をご覧ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

■ 侵入センサーを停止するには



パワースイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す

メーター内のマルチディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するたびに侵入センサー OFF スイッチを押す必要があります。

知識

■ 侵入センサーの停止・復帰について

- 侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すかスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作をおこなうと、侵入センサーが復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



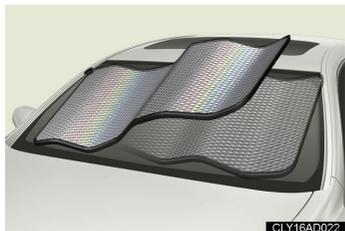
- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 霜よけシートが風などで動いたとき

 注意

- マスコットやアクセサリをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- ドアガラスやムーンルーフなどが開いているとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背をはなさない（→ P. 77）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 77）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 運転席 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 102）
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 94）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 97）

警告

■ 走行中は

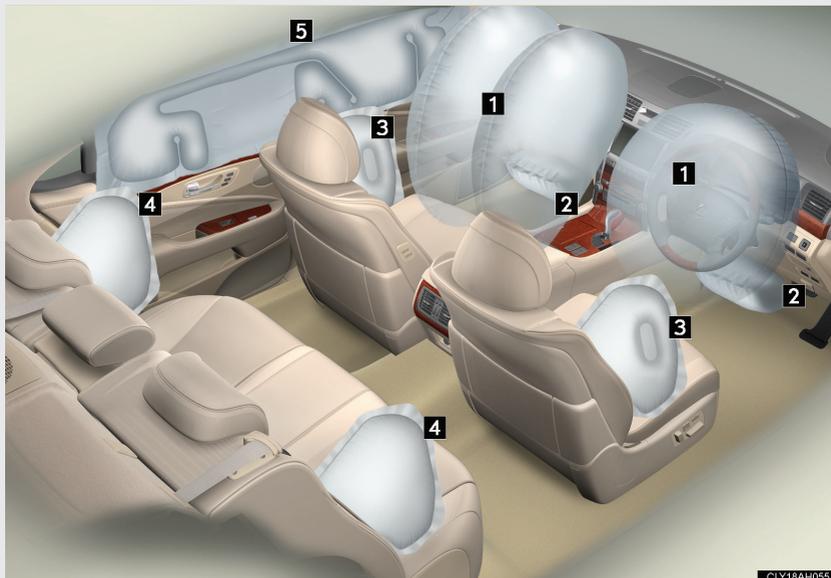
- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員のひざなどへの衝撃を緩和)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS リヤサイドエアバッグ (パワーリヤシート装着車)
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)

CLY18AH055



6 SRS シートクッションエアバッグ（4席車両リラクゼーションシートのみ）
（リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与）

知識

■ SRS エアバッグが展開すると

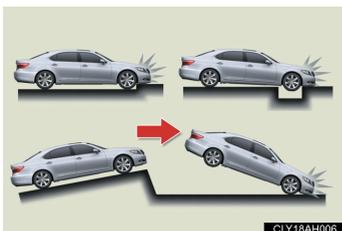
- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、リヤ席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントドアガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRSエアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

- フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグ、シートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき（フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ）

以下のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



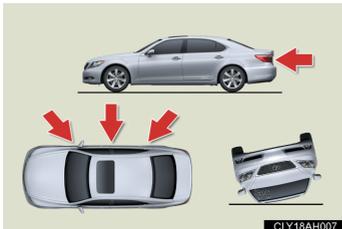
- 縁石や歩道の端など、硬いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、側面から強い衝撃を受けた場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

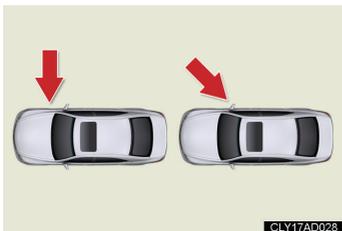
フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグと SRS シートクッションエアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

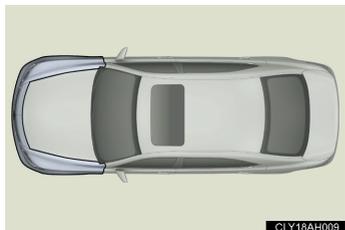


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

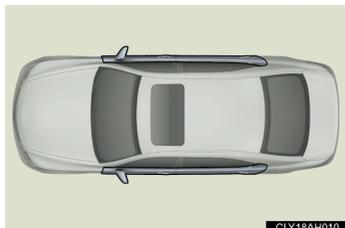
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。
連絡前に補機バッテリーのケーブルをはずさないでください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- リラクゼーションシートのみ: シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子さまをひざの上に抱いた状態で走行しない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。



- ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

警告

■ SRS エアバッグについて

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→ P. 133)



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。
- 助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席 SRS エアバッグが作動しないことがあります。



■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理や取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理や改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書に必ずしたがってください。



- 1** チャイルドシート固定機構付きシートベルト
(リヤ席シートベルト)



- 2** ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー

リヤシート外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



- 3** トップテザーアンカー

テザーベルトを固定するときに使用します。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

チャイルドシート固定機構付きシートベルトで固定する

手順 1



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

手順 2



肩部ベルトを最後まで引き出し、わずかに戻す（ロックモード）。

巻き取り方向のみの作動に切り替わります。

手順 3



チャイルドシートをリヤシートに押さえつけながら、肩部ベルトを巻き取らせる。

たるみがなくなるまで巻き取らせた後、引き出せないことを確認します。

手順 4



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

シートベルトで固定したチャイルドシートの取りはずし

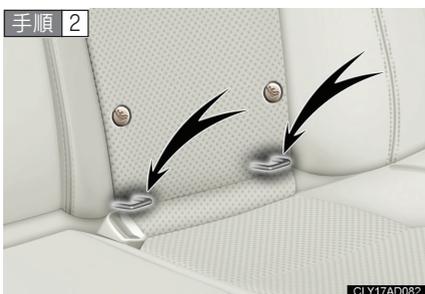


バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせる。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→ P. 94)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。



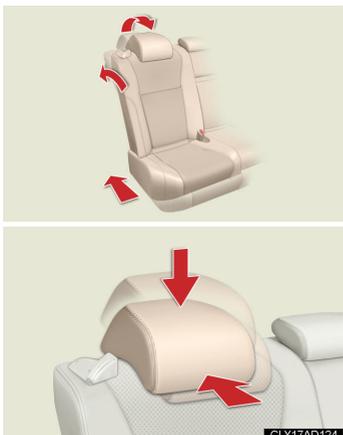
トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。



取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

 知識

■ パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付けるときは


シートを以下のように調整してください。

- 背もたれ上部をいちばん後ろにする。
- 4席車両: 背もたれをいちばん上まで起こす。
- シートをいちばん後ろに下げる。
- ヘッドレストを最も低くし、いちばん後ろにする。

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるときは

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを以下のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。



- 背もたれを直立位置にする。
- シートをいちばん後ろに下げ、最も高い位置にする。
- シートベルトの高さをいちばん低い位置まで下げる。

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、LS600h/LS600hL 指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート (ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のレクサス純正チャイルドシート) を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはレクサス販売店にご相談ください。

**警告****■チャイルドシートについて**

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。
- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みのうえ確実に取り付け、使用方法を守ってください。確実に固定されていなかったり使用方法を誤ったりすると、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシート固定機構付きシートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付きシートベルトで遊ばせないでください。誤って作動させ万が一ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。万一誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

警告

■ **チャイルドシートを取り付けるときは**



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席にはチャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジュニアシートを取り付けるときは、チャイルドシート固定機構が作動しないようにするため、肩部ベルトをいっぱいまで引き出さないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心に来るようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

2-1. 運転のしかた	142	2-4. その他の走行装置の 使い方	183
運転にあたって	142	クルーズコントロール	183
ハイブリッドシステムの 始動方法	149	レーダークルーズ コントロール	186
EV ドライブモード	153	レーダークルーズ コントロール (全車速追従機能付き)	195
トランスミッション	156	電子制御エア サスペンション	206
方向指示レバー	160	運転を補助する装置	208
パーキングブレーキ	161	プリクラッシュ セーフティシステム	214
ブレーキホールド	163	プリクラッシュ セーフティシステム (カメラセンサー付)	219
2-2. メーターの見方	165	後方プリクラッシュ セーフティシステム	228
計器類	165	2-5. 様々な状況での運転	231
表示灯／警告灯	168	荷物を積むときの注意	231
マルチディスプレイ	171	寒冷時の運転	233
2-3. ライトのつけ方・ ワイパーの使い方	174		
ライトスイッチ	174		
フォグライトスイッチ	177		
ワイパー & ウォッシャー	179		
ヘッドライトクリーナー	182		

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ ハイブリッドシステムを始動する (→P. 149)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、チェンジレバーを D にする。
(→P. 156)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 161)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 チェンジレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、チェンジレバーを P にする。
(→P. 156)

■ 駐車する

手順 1 チェンジレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 161)

手順 3 チェンジレバーを P にする。
(→P. 156)

手順 4 パワースイッチを押してハイブリッドシステムを停止する。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

 知識

■ 燃費を良くする走り方

ハイブリッド車も急加速をひかえるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。P. 46の「ハイブリッド車運転のアドバイス」を参照してください。

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

 警告

■ 発進するときは

車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- チェンジレバーを前進側のシフトポジションにいったまま惰性で後退したり、Rにいったまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中に決してチェンジレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。
- 走行中はチェンジレバーをNにしないでください。Nにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はパワースイッチに触れないでください。誤ってパワースイッチを押し続け、ハイブリッドシステムが停止すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 156)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。電装品のショートやハイブリッドシステムの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

 **警告****■ すべりやすい路面を運転するときは**

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンプレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効が悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ チェンジレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
チェンジレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
チェンジレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間 READY インジケーターが点灯したままにしないでください。
どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルに足を置いてください。

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

 **警告**

- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあります。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあります。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあります。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、チェンジレバーをPにしてハイブリッドシステムを停止し、施錠してください。ハイブリッド車は走行できる状態（READY インジケーターが点灯している状態）になっていても、音や振動がない場合があります。
- READY インジケーターが点灯しているとき、またはハイブリッドシステム停止直後はマフラーやバンパー一体ディフューザーに触れないでください。やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、READY インジケーターが点灯したままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあります。

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあります。

- 換気が悪い場所ではハイブリッドシステムを停止してください。とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあります。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあります。

 警告

■ 仮眠するときは

必ずパワースイッチを OFF にしてください。

READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やハイブリッドシステムの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

● 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。

この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。

● ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、のこりは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

■ 万一脱輪したときは

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずチェンジレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。



注意

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 348 をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、ハイブリッド用トランスミッション、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

ハイブリッドシステムの始動方法

電子キーを携帯してパワースイッチを押すと、スイッチを切り替えることができます。(ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作すると、ハイブリッドシステムが始動できます。)



■ ハイブリッドシステムの始動方法

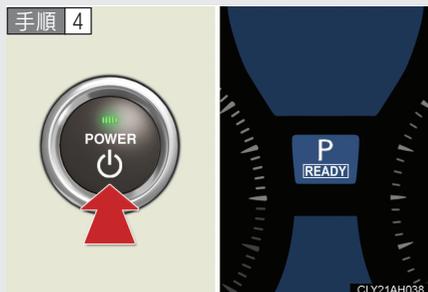
手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 チェンジレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

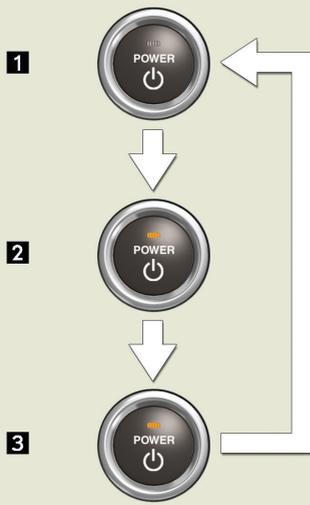
手順 4



パワースイッチを押す。

READY インジケーターが点灯すれば、ハイブリッドシステムは正常に始動しています。

■ パワースイッチ切り替え



CLY21AH036

1 OFF *

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。

* : チェンジレバーがP以外のときはOFFになりません。

知識

■ ハイブリッドシステムが始動しないときは

イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 116)

■ ステアリングロックが解除できないときは



CLY21AH044

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、パワースイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ パワースイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作をおこなっても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■ 自動電源 OFF 機能

チェンジレバーが P にあるとき、1 時間以上 ACC にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■ 外気温が低いときは

ハイブリッドシステム始動時に READY インジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

■ 高電圧リレーの音について

ハイブリッドシステム始動時および停止時に、車両後方から“コトン”、“カチツ”などの音が聞こえることがあります。これは高電圧リレーの音で、異常ではありません。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 58

■ 電子キーの電池が切れたときは

→P. 329

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 55

■ ご留意いただきたいこと

→P. 59

警告

■ ハイブリッドシステムを始動するときは

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はパワースイッチを触らないでください。

長押しするとハイブリッドシステムが停止し、思わぬ事故につながり危険です。



■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

2-1. 運転のしかた

EV ドライブモード

EV ドライブモードは、駆動用電池を使い電気モーターを駆動して走行するモードです。早朝、深夜の住宅街や屋内の駐車場などで、騒音や排気ガスを気にすることなく走行することができます。



スイッチを押す。

EV ドライブモードになると、EV ドライブモード表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）にもどります。

知識

■ EV ドライブモードでハイブリッドシステムを始動するには

ガソリンエンジンが冷えているときにハイブリッドシステムを始動すると、暖機運転のためガソリンエンジンが自動的に始動します。次の方法でハイブリッドシステムを始動すると暖機運転を控え、騒音を抑える事ができます。



ブレーキペダルをしっかりと踏み、EV ドライブモードスイッチを押しながら POWER スイッチを押す。

■ EV ドライブモードの切り替えについて

次のときは EV ドライブモードに切り替わらない場合があります。EV ドライブモードに切り替わらないときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

- ハイブリッドシステムが高温のとき
炎天下に駐車した後や登降坂、高速走行後など
- ハイブリッドシステムが低温のとき
約 0℃ を下回るような低温下に長時間駐車したあとなど
- ガソリンエンジンが暖機運転中のとき
- 駆動用電池の充電量が低いとき
エネルギーモニターの残量表示で 3 レベル以下 (→P. 40)
- 車速が 40km/h 以上のとき
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など
- フロントデフロスターを使用しているとき

■ EV ドライブモードの自動解除について

EV ドライブモードで走行中、次のときは自動的に通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）になることがあります。EV ドライブモードが解除されるときは、ブザーが鳴り、EV ドライブモード表示灯が点滅した後、消灯します。

- 駆動用電池の充電量が低下したとき
エネルギーモニターの残量表示で 2 レベル以下 (→P. 40)
- 車速が 40km/h をこえたとき
ガソリンエンジン冷却水温が低いときは、30km/h で自動解除されることがあります。
- アクセルペダルを大きく踏み込んだときや坂道など

自動解除が事前にお知らせできるときは、マルチインフォメーションディスプレイに予告画面が表示されます。

■ EV ドライブモードの走行可能距離

EV ドライブモードの走行可能距離は、車速約 40km/h 以下で、数百 m から約 1km 程度です。（走行距離は、駆動用電池の充電量や走行状態によって異なります。）

■ 燃費について

LS600h/LS600hL は、通常走行（ガソリンエンジンと電気モーターによる走行）において、もっとも燃費が良くなるように制御されています。EV ドライブモードを多用すると燃費が悪くなる場合があります。



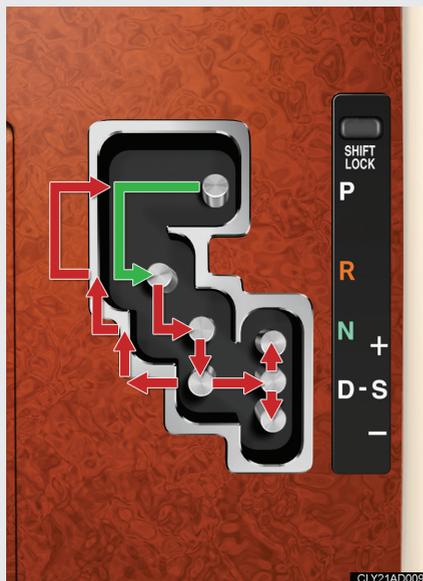
■ 走行中の警告

EV ドライブモードでの走行は、エンジン音がしないため歩行者、自転車付近の人や車が車両の発進や接近に気がつかない場合があります。十分注意して運転してください。

2-1. 運転のしかた トランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ チェンジレバーの動かし方



← パワースイッチが ON の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

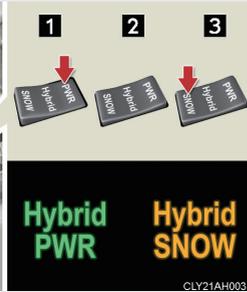
シフトポジション	目的
P	駐車またはハイブリッドシステムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ ¹
S	S モード走行※ ² (→ P. 157)

※¹ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※² S モードではエンジブレーキ力の選択が可能です。D ポジションに比べエンジン回転数が高くなるようにトランスミッションを制御するため、加速応答性も向上します。

■ 走行モードの選択

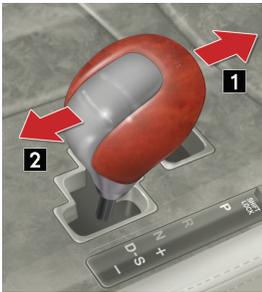
走行・使用条件にあわせて以下のモードを選択できます。



- 1 パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）
 - 2 通常走行モード
 - 3 スノーモード（雪道など、すべりやすい路面での発進、走行）
- 通常走行モードに戻すときはSNOWを押します。

Sモードでのシフトレンジ切り替え

チェンジレバーをSの位置にして、以下のように操作します。



- 1 シフトレンジアップ
- 2 シフトレンジダウン

Sポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて4、5、6レンジもしくは7レンジに設定されます。

 知識

■ Sモード

- 6レンジ以下のとき、チェンジレバーを“+”側へ保持すると8レンジに設定されます。
- 6レンジ以上でチェンジレバーを“-”側へ操作したとき、走行状態に応じて2レンジ以上シフトダウンすることがあります。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー（Sモード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、チェンジレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが2回鳴ります。）

■ リバース警告ブザー

チェンジレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

Sモード走行時に7、6、5または4へシフトレンジダウンしてもエンジnbr레이크は効きません。（→P. 183, 186, 195）

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、ハイブリッドシステムを停止すると、自動的に通常走行モードにもどります。

■ チェンジレバーをPからシフトできないときは

→P. 360

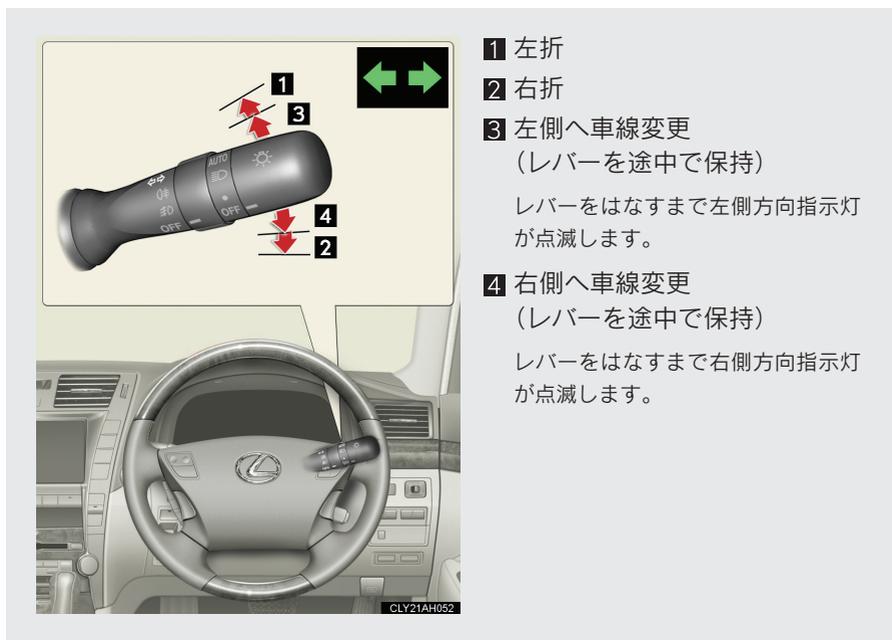
**警告****■ すべりやすい路面では**

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

**注意****■ 駆動用電池の充電について**

チェンジレバーが N では、ガソリンエンジンが回転していても駆動用電池は充電されないため、N で長時間放置すると駆動用電池の残量が低下し、走行不能になるおそれがあります。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

パワースイッチがONのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた パーキングブレーキ

パーキングブレーキは電動パーキングブレーキシステムを採用しています。

■ マニュアルモード



- 1** パーキングブレーキをかける
パワースイッチが ON 以外で操作したとき、パーキングブレーキ表示灯がしばらく点灯します。
緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。
- 2** パーキングブレーキを解除する
パーキングブレーキ表示灯が消えます。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモード



ON/OFF

パーキングブレーキがチェンジレバーの操作に応じて自動で作動します。

チェンジレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。(→P. 156)

- P から P 以外にしたとき
パーキングブレーキが解除される
- P 以外から P にしたとき
パーキングブレーキがかかる

 知識

■ **パーキングブレーキの作動**

- パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- パワースイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける、解除する）はできません。
- 短時間に作動を繰り返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度で元の状態にもどります。

■ **パーキングブレーキ表示灯について**

パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが異常ではありません。

■ **パーキングブレーキの作動音**

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ **システムに異常があるときは**

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 342, 346）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

 **注意**

■ **駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ **システムに異常が発生したら**

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ **故障などでかかったままになったとき**

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。（→P. 361）

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ブレーキホールド

チェンジレバーが D、S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。チェンジレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。



ブレーキホールドシステム ON

ブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

知識

■ システムの作動条件

以下のときはシステムを ON できません。

- トランクまたはボンネットが閉まっていない
- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときにいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消えます。ブレーキ保持中に検出した場合はさらに警告音とともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告音とともに、マルチディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。このときはマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P. 161)

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 342, 346)



警告

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界を超えて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。



注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを P にしてください。

2-2. メーターの見方

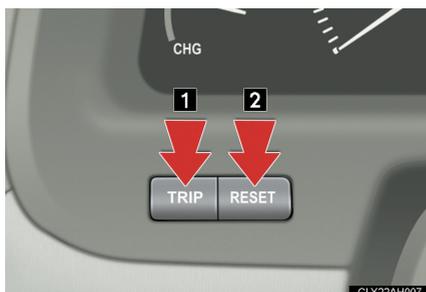
計器類



パワースイッチを ON にするとメーターが点灯します。

- 1 タコメーター
毎分のエンジン回転数を示します。
- 2 マルチディスプレイ
→P. 171
- 3 スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- 4 燃料計
燃料残量を示します。
- 5 インstrumentパネル照度調整スイッチ
- 6 オドメーター
走行した総距離を表示します。
- 7 トリップメーター
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の2種類で使い分けることができます。
- 8 トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットスイッチ
- 9 ハイブリッドシステムインジケーター
ハイブリッドシステムの出力や回生レベルを示します。

トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットスイッチ



- 1 表示を切り替える
- 2 表示中のトリップメーターの走行距離が0に戻る

インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 明るくなる
- 2 暗くなる

 知識**■ ハイブリッドシステムインジケータについて**

- インジケータの針をECOゾーンに保つことで、より燃費効率のよい走行が可能です。
- CHGゾーンは、回生[※]状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

※ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

■ エンジン回転数について

ハイブリッド車のエンジン回転数は、燃費の向上や排気ガス低減などのため、ち密に制御されています。走行条件や運転条件が同じでも、エンジン回転数が異なる場合があります。

 注意**■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために**

タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 160)



尾灯表示灯 (→P. 174)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 174)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 177)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 177)



スポーツモード表示灯
(→P. 206)



コンフォートモード表示灯
(→P. 206)



エアサスペンション HIGH
表示灯 (→P. 206)



EV ドライブモード表示灯
(→P. 153)



Hybrid SNOW 表示灯
(→P. 157)



Hybrid PWR 表示灯
(→P. 157)



クルーズコントロール
表示灯
(→P. 183, 186, 195)



※
AFS OFF 表示灯
(→P. 175)



※
スリップ表示灯
(→P. 209)



※
ブレーキホールド
スタンバイ表示灯
(→P. 163)



※
ブレーキホールド
作動表示灯 (→P. 163)



パーキングブレーキ表示灯
(→P. 161)

※ 作動確認のためにパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 342)



※ 作動確認のためにパワースイッチをONにすると点灯し、数秒後またはハイブリッドシステムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

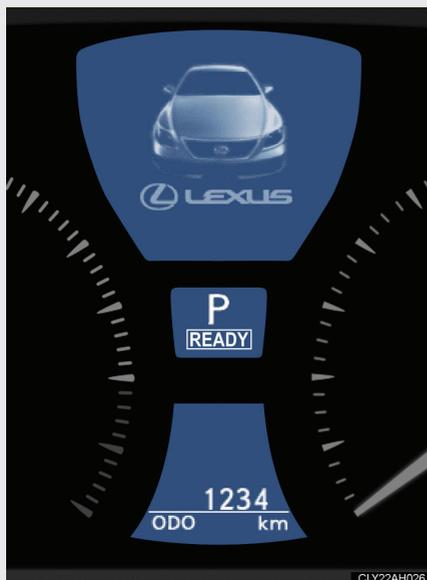
■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-2. メーターの見方 マルチディスプレイ

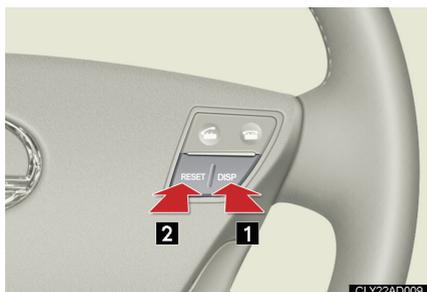
マルチディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。



- トリップインフォメーション
(→P. 172)
航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。
- シフトポジション・シフトレンジ表示
(→P. 156)
- READY インジケーター
(→P. 149)
- クリアランスソナー表示*
(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)
- レーダークルーズコントロール表示* (→P. 186, 195)
レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。
- 警告メッセージ (→P. 346)
各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション



1 DISP スイッチ

項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

2 RESET スイッチ

■ 外気温

外気温度を表示します。

-40°C ~ 50°C の間で表示します。

■ エネルギーモニター

車両駆動状況、ハイブリッド作動状況およびエネルギーの回収状況を表示します。(→P. 40)

■ 水温表示

ガソリンエンジン冷却水の温度を表示します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 給油後走行距離

給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に RESET スイッチを押します。

■ 平均車速

エンジンをかけてから、またはリセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に RESET スイッチを押します。

知識

■ トリップインフォメーションの背景画を消すには

背景画のある項目を表示中に DISP スイッチを約 1 秒以上押します。
表示したいときはもう一度約 1 秒以上押します。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

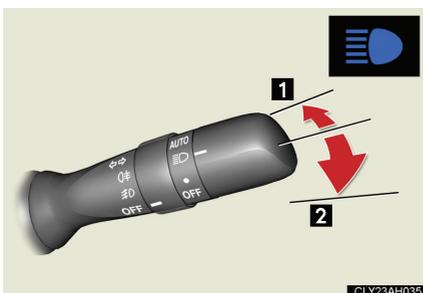


● 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯

☰ 上記ライトとヘッドライトを点灯

AUTO ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯
(パワースイッチがONのとき)

ハイビームにする



1 ライト点灯時ハイビームに切り替え

レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム)

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには

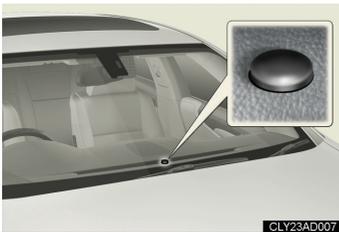


ON/OFF

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識

■ ライトセンサー



センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をフロントガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に動かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ライトスイッチを OFF に戻し、再度 ● または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

歩行者や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(→P. 382)



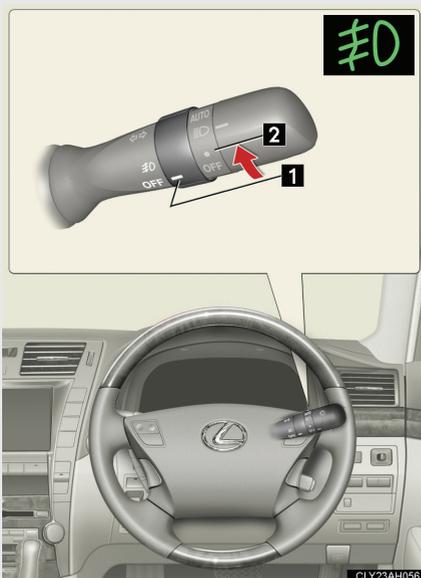
■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

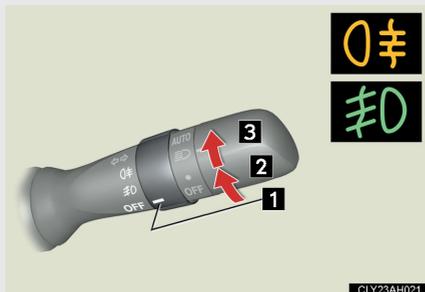
雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。(リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。)

■ フロントフォグライトスイッチ*



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯

■ フロント&リヤフォグライトスイッチ*



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯
- 3 フロント&リヤフォグライト点灯 (再度操作すると、リヤフォグライトのみ消灯)

手をはなすと 0 の位置までもどります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

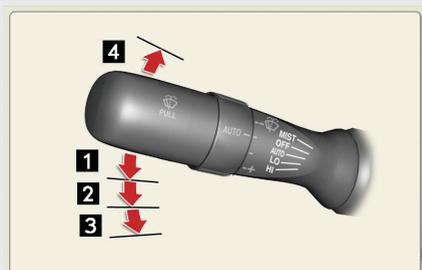
 知識

■ リヤフォグライトについて

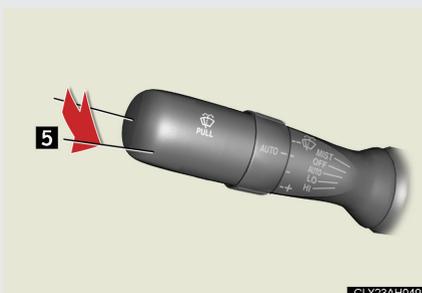
- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



CLY23AH057



CLY23AH049

- 1 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)

5 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動した後、液だれ防止としてさらに1回作動します。)

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

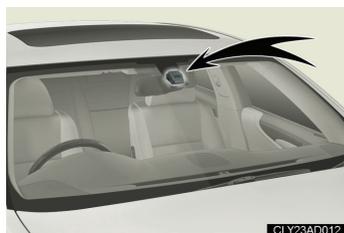
■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

LO 選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

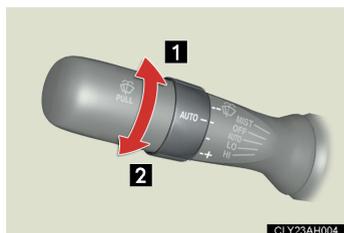
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。）

■ AUTO 作動について



雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などでよごれたときに正しく作動しないことがあります。



ツマミを回すとセンサーの感度が調整できます。

1 感度が下がる（－）

2 感度が上がる（＋）

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動に関する警告

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

 注意**■ フロントガラスが乾いているときは**

ガラスを傷つけるおそれがありますのでワイパーを使わないでください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作しつけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを
損傷するおそれがあります。

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ヘッドライトクリーナー

ヘッドライトへウォッシャー液を噴射します。



ヘッドライトを洗浄する

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON でヘッドライトが点灯しているとき

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ヘッドライトクリーナースイッチを操作しつけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方 クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

OFF には再びスイッチを押します。



希望の速度まで加速/減速し、レバーを下げて設定する

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える



1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。

車速が約 40km/h 以上のとき有効です。

☐ 知識

■ 設定条件について

- チェンジレバーがDのとき設定できます。(推奨)
チェンジレバーがSの4、5、6、7、8レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 40 ~ 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを操作しなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードでは一定の速度で走行できます。



- 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

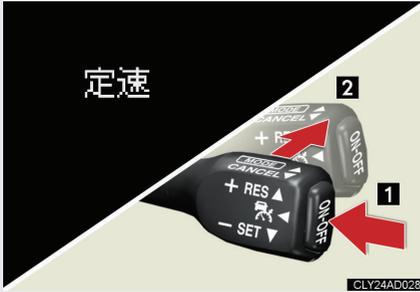
OFF には再びスイッチを押します。



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

定速制御モードを選択するには



■ 設定速度を変えるには



■ 制御を解除する・復帰させるには



1 ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFF には再び ON-OFF スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるたびに車間制御モードにもどります。

1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

1 解除

レバーを手前に引きます。

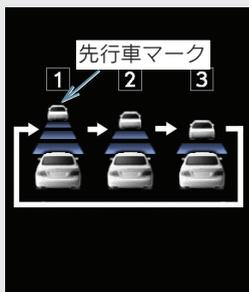
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行に戻ります。

車速が約 45km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

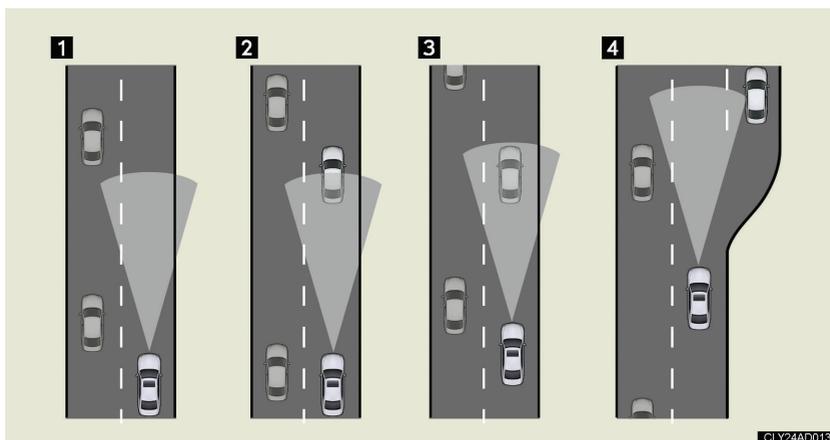
パワースイッチが ON になるたびに **1** にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 120 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

**知識****■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示**

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 346)

■ モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■ 設定条件について

- チェンジレバーが D のとき設定できます。(推奨)
チェンジレバーが S の 4、5、6、7、8 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 188) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく動かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりするとおぼろげに危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 189）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき



警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪が撒き散らされ、レーダーセンサーの作動の妨げになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。

センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）*

アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードは一定の速度で走行できます。



- 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON/OFF スイッチでシステムを ON にする

OFF するには再びスイッチを押します。

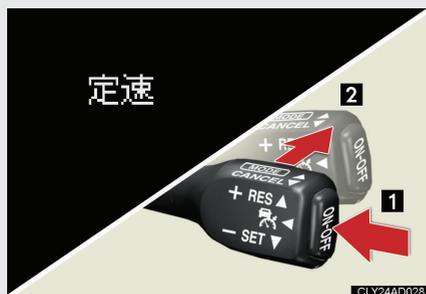


希望の速度（約 45km/h ～ 100km/h）まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

車速が約 45km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を約 45km/h として先行車に追従走行を始めます。（車間制御モードのみ）

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

定速制御モードを選択するには



■ 設定速度を変えるには



■ 制御を解除する・復帰させるには



1 ON/OFF スイッチでシステムを ON にする

2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFFにするには再びON/OFFスイッチを押します。

パワースイッチが ON になるたびに車間制御モードにもどります。

1 増速
(車間制御モードで制御停車中を除く)

2 減速
表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

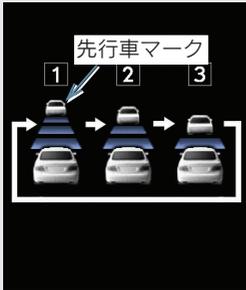
レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

1 解除
レバーを手前に引きます。
走行中にブレーキを踏んだときも解除されます。(制御停車中は、ブレーキを踏んでも制御は解除されません。)

2 復帰
レバーを上げると、定速走行にもどります。

車速が約 45km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

パワースイッチが ON になるたびに **1** にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 制御停車から追従走行に復帰させるには（車間制御モード）



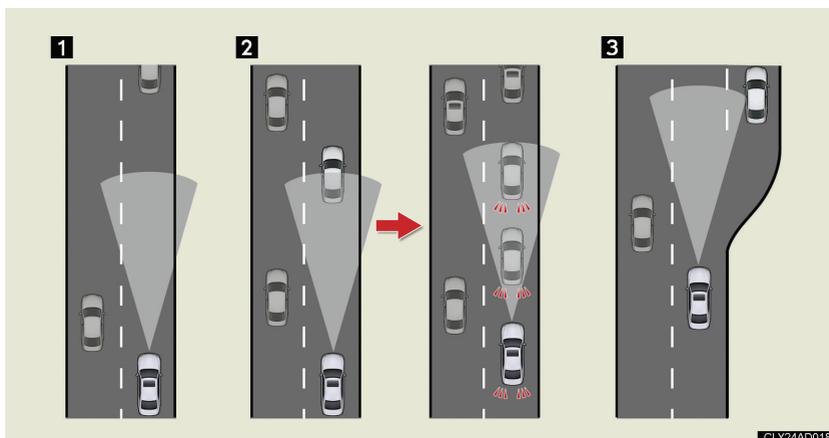
先行車の発進後、レバーを上げる

先行車の発進後にアクセルを操作しても追従走行に復帰します。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーとカメラセンサーにより、車両前方約120 m以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行 - 追従走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行にもどります。

3 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 346)

■ モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすこともできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■ 設定条件について

- チェンジレバーが D のとき設定できます。(推奨)
チェンジレバーが S の 4、5、6、7、8 レンジのときでも設定できます。
- 車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下ようになったとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 先行車がないとき速度が約 40km/h 以下になった
- 速度が 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった
- 車が横すべりして VSC が作動した
- レーダーセンサー / カメラセンサーのよごれが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した
- プリクラッシュブレーキが作動した

- 制御停車時に次を検出した
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が作動した

■ 車間距離選択の目安

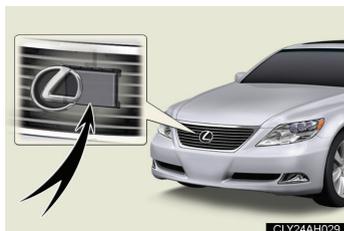
以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 197) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定に関わらず約 3 ~ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

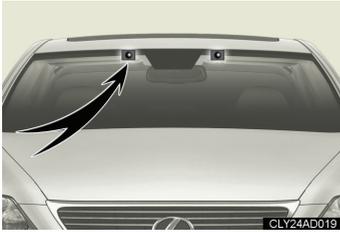
■ レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく働かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■ カメラセンサーについて

システムを正しく働かせるためにフロントガラスは常にきれいにしておいてください。



■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が非常にゆっくりした車のとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりするとおぼろげに危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 警告**■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 199）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき



警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車が水や雪を撒き散らして走行している場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ステッカーを貼ったり、アクセサリーを取り付けたりする
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

 **警告****■ カメラセンサーを正しく働かせるためには**

以下のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに写りこんだ映像で性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントガラスにステッカーなどを貼らない。

2-4. その他の走行装置の使い方

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況にあわせて車高やショックアブソーバーの減衰力を選択できるシステムです。

■ 車高選択スイッチ

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。



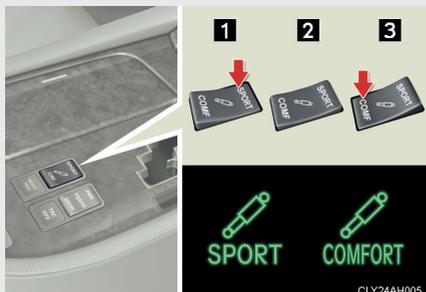
HIGH モード

メーター内の HEIGHT HIGH 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、HIGH モードがキャンセルされます。

■ AVS スイッチ

サスペンションの硬さを走行状態に合わせて選択できます。



1 SPORT モード

メーター内の表示灯が点灯します。

2 NORMAL モード

3 COMFORT モード

メーター内の表示灯が点灯します。

知識

■ エアサスペンション用コンプレッサーの作動音

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときやHIGHモードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

 **警告****■エアサスペンションについて**

次の状況ではハイブリッドシステムを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

パワースイッチを ON のままにしておくと、車高がかわり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にスリップを抑制します。

■ BA（ブレーキアシスト）

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤが切れる角度を制御します。

■ アクティブスタビライザーサスペンションシステム*

ハンドル操作量やAVSの選択モードなどに応じて、コーナリング時のロールを抑え、安定した車両姿勢の確保に寄与します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、BA、TRC、VSC、ヒルスタートアシストコントロール、EPS、VGRS、トランスミッションを総合的に制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ブレーキ、ハイブリッドシステム出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

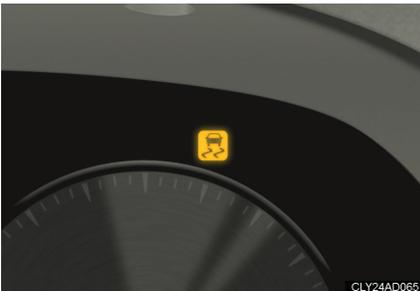
■ PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

→P. 214, 219

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 228

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

ABS 作動時もスリップ表示灯が点滅します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもハイブリッドシステムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。



■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯し、マルチディスプレイにメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

📖 知識

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、パワースイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS、BA、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロール、VGRS の作動音と振動

- ハイブリッドシステム始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- チェンジレバーが D または S の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■ VGRS の作動が停止する場合

以下の状況では VGRS が作動を停止することがあります。この場合、直進時のハンドル位置がずれることがありますが、システムの復帰とともに元にもどります。

- 停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けたとき
- ハンドルをいっぱい切った状態で長く力をかけ続けたとき
- 補機バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき
- -30°C 以下でハイブリッドシステムを始動した後

これらの状況が改善されれば、システムは復帰します。

■ EPS の効果が下がる時

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、システムの過熱を避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を止め、ハイブリッドシステムを停止してください。10分程度で元の状態にもどります。



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えるにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやハイブリッドシステムの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

 **警告****■ タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作を促し、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両の損傷を軽くします。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の危険性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作を促します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリテンショナー（→P. 98）の効果を高めると同時に、シートベルトをすばやく引き戻し、拘束力を高めます。センサーが障害物を検知しない場合でも、急ブレーキをかけたときや、車が横すべりしたときも、同様に作動します。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

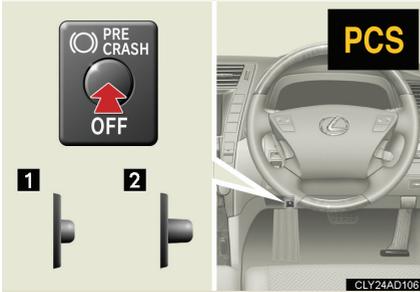
衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むのを抑えます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切り替え

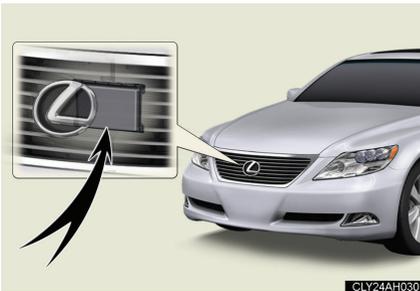


1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突する恐れがあるかどうか判断します。

知識

■ レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 車速が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロールの作動条件：

- ・ 車速が 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が 30 km/h 以上

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路等のすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- VSC が OFF で車が横すべりの状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- VSCがOFFで車が横すべりしているとき
- ETCゲートを高速で通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 342, 346)



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。



警告

■ システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないません。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

● センサーとグリルは常にきれいにしておく。

お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。

● センサー周辺への強い衝撃を避ける。

センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ず雷克萨斯販売店にて点検を受け、調整してください。

● センサーを分解しない。

● センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

● センサーやグリル周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

● センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

プリクラッシュセーフティシステム（カメラセンサー付）*

センサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作を促し、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両の損傷を軽くします。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の危険性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作を促します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリテンショナー（→P. 98）の効果を高めると同時に、シートベルトをすばやく引き戻し、拘束力を高めます。センサーが障害物を検知しない場合でも、急ブレーキをかけたときや、車が横すべりしたときも、同様に作動します。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、車両前部の沈み込みや車体の傾きを抑えます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ステアリングギヤ比コントロール

衝突の可能性が高いとき：VGRS によってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

■ ドライバーモニター

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていない場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況によっては、警報ブレーキが作動します。

■ 警報ブレーキ

運転者が正面を向いておらず、衝突の可能性が高い状態が継続した場合は、短時間の減速による体感警報により回避操作を促します。

プリクラッシュブレーキの切り替え

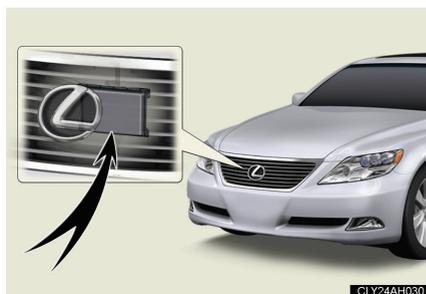


1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突する恐れがあるかどうか判断します。

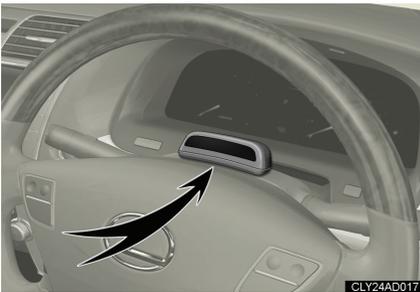
カメラセンサー



レーダーセンサーに比べ走行中に路上またはその付近の走行者など立体物を検知します。ヘッドライト点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

- 1 カメラセンサー
- 2 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ



運転者の顔の向きを検知し、正面を向いていない状態をシステムが判断します。

 知識

■ レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ カメラセンサーが検知しない場合

- 太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき
- 悪天候などで視界が悪いとき
- センサーの温度が非常に高いとき

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 車速が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロールの作動条件：

- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 30 km/h 以上

● ステアリングギヤ比コントロールの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● 警報ブレーキの作動条件：

- ・ ブリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 正面を向いていないと判断したとき
- ・ 自車速度が約 40km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 40km/h 以上
- ・ 車両直進状態

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- ETC ゲートを高速で通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 342, 346)



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリル周辺にアクセサリをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

■ カメラセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントガラスにステッカーなどを貼らない



警告

■ ヘッドライトについて

近赤外線投光量を確保するため以下のことをお守りください。

- ヘッドライトは、いつもきれいにしておく。
- ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。
- 安全のために
近赤外線投光器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、のぞき込まないでください。

■ ドライバーモニター用カメラの取り扱い

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触ったりしない
- カメラを濡らしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、よごれ、シール貼り等がないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、おおったりしない

■ 顔向き判定について

以下のときは正常に顔向き判定ができない場合があります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき
(カメラの前にものを置くなど。)
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき

 注意

■ ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意

- 傷をつけないよう、柔らかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害を軽減するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があるると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意を促します。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

追突の危険性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害を軽減します。

レーダーセンサー



レーダーセンサーにより、後方から接近する物を検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

* : グレードで異なる装備やオプション装備

 知識**■ システムの作動条件**

パワースイッチが ON で、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに以下の条件で作動します。

● 後方車両への警報（非常点滅灯）：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
- ・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

● むち打ち傷害軽減：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
- ・ 停止または前進している

■ センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではありません。以下のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

- 車両姿勢が極端に変化しているとき。
- 自転車、オートバイなどは検知しないことがあります。
- 雨滴、氷雪がリヤバンパーに付着したとき。
- カーブや起伏の大きな道路のとき。
- ななめからの追突やオフセットの大きな追突のとき。

■ むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■ 追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに自車の真うしろを後方車がすり抜けたとき。
- 道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき。
- 走行時、後方車が近距離から追い越したとき。
- 走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 342, 346）



警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

- センサーを分解しない。
- センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

■ リヤバンパーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく。
雨滴、氷雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。
- リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーをつけたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない。
- リヤバンパーの改造や別のものに交換しない。
- リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店に相談してください。

■ プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

ヘッドレストカバーはつけないでください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。



警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
- ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
- ・ パッケージトレイ
- ・ インストルメントパネル
- ・ ダッシュボード

- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。



■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりリスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキはかけずに、チェンジレバーを P にいれて駐車してください。パーキングブレーキが凍結して解除できなくなるおそれがあります。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店でお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- 安全に作業できる場所でおこなう
- 後2輪にのみ取り付ける
- ジャッキで車を持ち上げておこなう
- タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう

 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■ タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（氷雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

合わせガラスの場合、ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方

3

3-1. 室内灯のつけ方..... 238

- 室内灯一覧..... 238
- ・ インテリアライト..... 239
- ・ パーソナルライト..... 239

3-2. 収納装備の使い方..... 241

- 収納装備一覧..... 241
- ・ グローブボックス..... 243
- ・ コインホルダー..... 244
- ・ ドアポケット..... 244
- ・ カップホルダー..... 245
- ・ コンソールボックス..... 247
- ・ クールボックス・
 - 小物入れ..... 248
 - ・ 小物入れ..... 252

3-3. その他の室内装備の 使い方..... 254

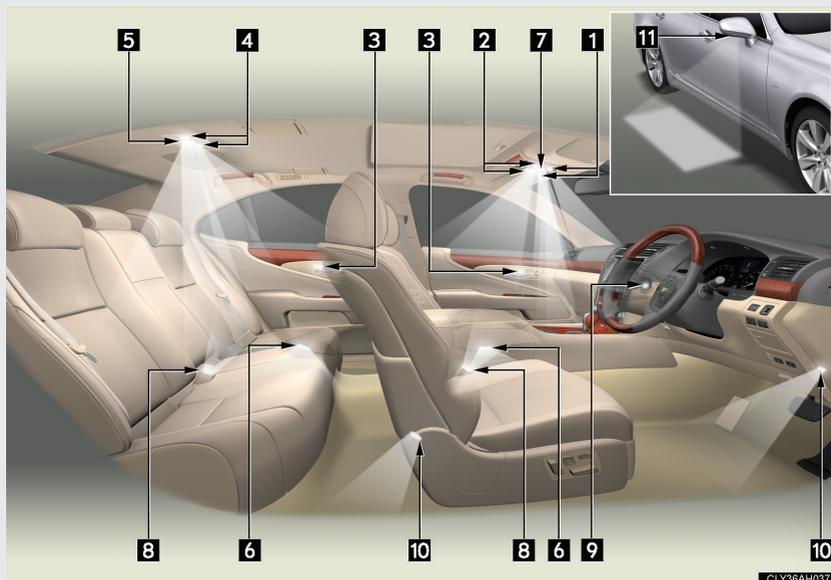
- サンバイザー..... 254
- バニティミラー..... 255
- 外気温度表示..... 256
- 灰皿..... 257
- シガレットライター..... 258
- アクセサリースOCKET/
 - アクセサリーコンセント... 260
- ステアリングヒーター..... 263
- コンフォータブル・
 - エアシート..... 265
- アームレスト..... 268

- リヤシートリラクゼーション
システム（4 席車両）..... 269
- テーブル（4 席車両）..... 271
- リヤサンシェード..... 273
- リヤドアサンシェード..... 277
- コートフック..... 280
- フロアマット..... 281
- トランク内装備..... 282

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・開錠、ドアの開閉、パワースイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。

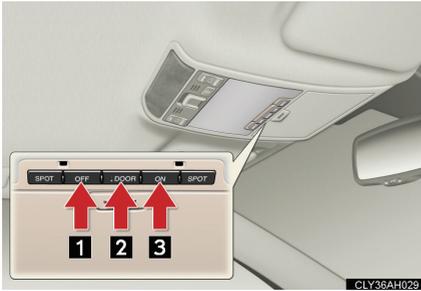


- 1 フロントパーソナルライト (→P. 239)
- 2 フロントインテリアライト (→P. 239)
- 3 インサイドハンドル照明
- 4 リヤパーソナルライト* (→P. 239)
- 5 リヤインテリアライト*
- 6 ドアカーテシー照明
- 7 シフト照明 (パワースイッチ ACC または ON)
- 8 シートベルトバックル照明
- 9 パワースイッチ照明
- 10 足元照明
- 11 ドアミラー照明

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

インテリアライト, パーソナルライト

インテリアライト



- 1 OFF (消灯)
- 2 ドアポジション (ドア連動)
ON/OFF
- 3 ON (点灯)

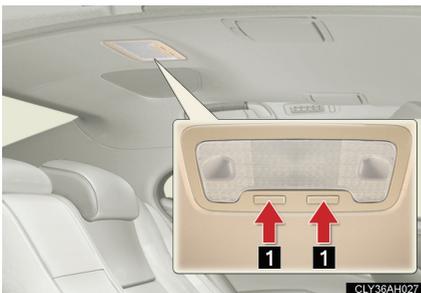
パーソナルライト

▶ フロント



- 1 点灯/消灯

▶ リヤ (オーバーヘッドコンソール無車)



- 1 点灯/消灯

▶ リヤ（オーバーヘッドコンソール付車）



1 点灯/消灯

☐ 知識

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。（→P. 382）

収納装備一覧

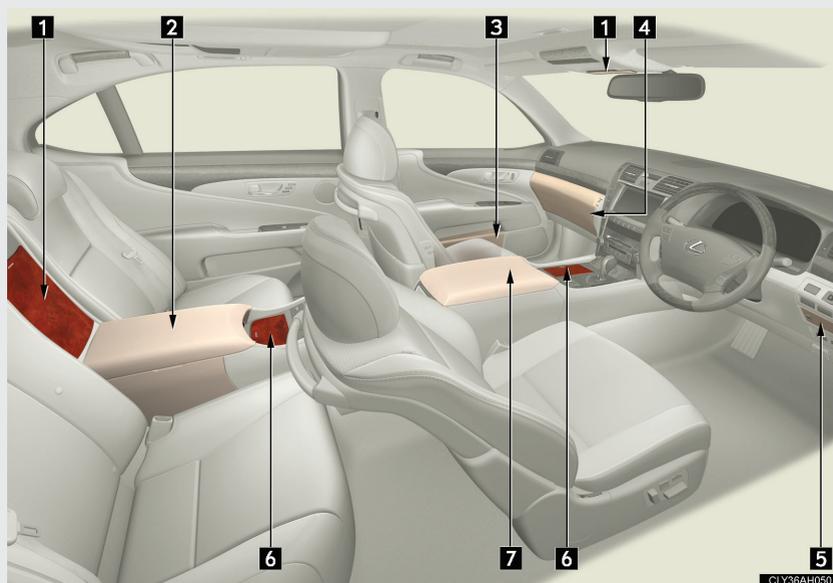
▶ 5 席車両



- 1 クールボックスまたは小物入れ*
- 2 小物入れ
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

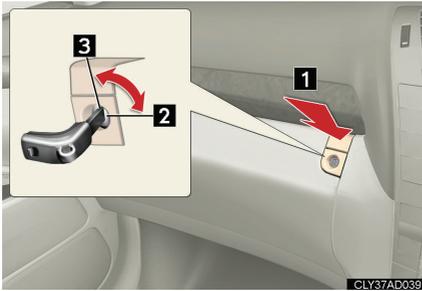
▶ 4 席車両



- 1 小物入れ
- 2 クールボックス
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

グローブボックス

グローブボックス



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 メカニカルキーで解錠

知識

■ トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 72）

警告

■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー



ボタンを押す。

警告

■ 走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）



フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

警告

■ 走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーのふたの左側を押す。

▶ リヤ（5 席車両）



カップホルダーを押す。

▶ リヤ（4 席車両）



カップホルダーのふたの後側を押す。

**■ 収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。また、温かい飲み物でやけどをするおそれもあります。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

コンソールボックス



- 1 ノブを押しながらアームレストをスライドさせる
- 2 アームレストを持ち上げる

 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて



トレイは引き上げた状態でも使うことができます。

■ 開閉操作の補助機能

コンソールボックスの開閉を途中まで行くと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

■ トレイについて

トレイの高さ以上に物を入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

クールボックス・小物入れ*

グレードなどにより、保冷機能が付くタイプ（クールボックス）と付かないタイプ（小物入れ）があります。

▶ 5 席車両



アームレストを手前に倒す。



レバーを引っ張る。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

クールボックス・小物入れ

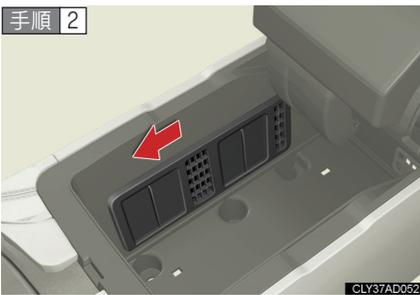


冷風開閉口を開ける。

▶ 4 席車両



レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ち上げる。



冷風開閉口を開ける。

 知識

■ 作動条件（クールボックスタイプ）

▶ 5 席車両



リヤ席エアコン作動中、リヤアームレストのディスプレイに  が表示されているとき。

▶ 4 席車両



クールボックス・小物入れ

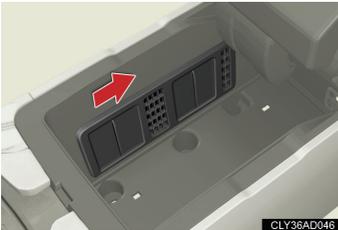
■ 小物入れとして使うには（クールボックスタイプ）

▶ 5 席車両



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

▶ 4 席車両



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

■ クールボックスに入れる物として適さない物

- ふたがされていない容器に入った物
- 割れ物、腐る物、匂いが強い物

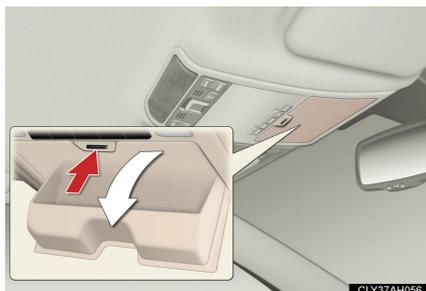
警告

■ 走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

小物入れ

▶ 天井*



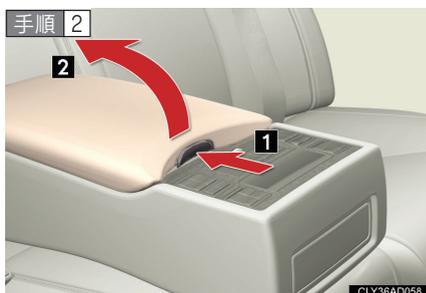
ボタンを押す。

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ リヤシート (5 席車両)



アームレストを手前に倒す。



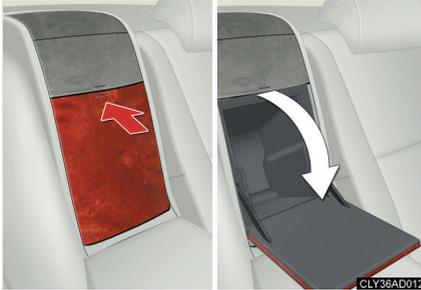
1 ボタンを押してロックを解除する。

2 ふたを持ち上げる。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

小物入れ

▶ リヤシート（4 席車両）



ふたの上側を押す。

DVD やヘッドホンを収納するのに便利です。

警告

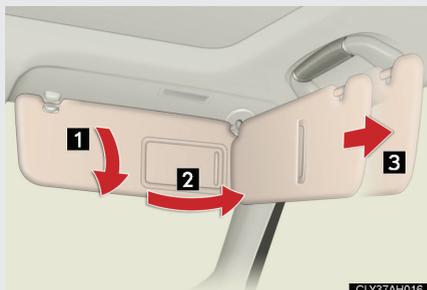
■ 小物入れ（天井）に放置してはいけない物

小物入れにめがねやライターを放置しないでください。
室温が高くなったときライターが爆発したり、めがねが変形やひび割れを起こしたりすることがあります。

■ 走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

サンバイザー

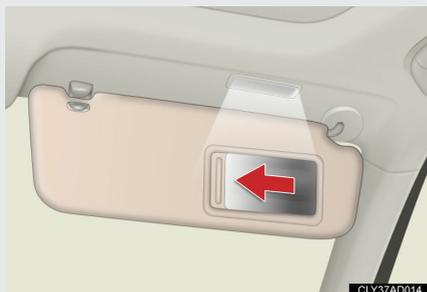


- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 横へスライドさせる

3-3. その他の室内装備の使い方

バニティミラー

▶ フロント



カバーをスライドして開けます。
カバーを開けるとライトが点灯します。

▶ リヤ



ボタンを押して開けます。
ライトが点灯します。

⚠ 注意

■ 使用しないときは（リヤ）

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態で長時間ライトを点灯しないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

外気温度表示

パワースイッチが ON のとき、-40 °C から 50 °C の間で表示されます。



知識

- “-” または “E” が表示されたときは
システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

灰皿

▶ フロント



ふたの前部を押して開けます。
閉めるときはもう一度ふたを押
します。

取りはずすときは、本体左右を持っ
て引き上げます。

▶ リヤ



ふたを開けます。

取りはずすときは、ふたを持って引
き上げます。

▲ 警告

■ 使用後について

ふたを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 シガレットライター

▶ フロント



灰皿のふたを開けて、シガレットライターを押し込みます。

元の位置にもどったら使用できます。

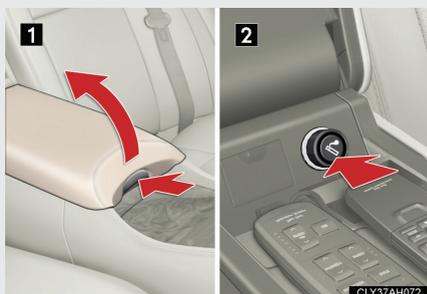
▶ リヤ (5 席車両)



シガレットライターを押し込みます。

元の位置にもどったら使用できます。

▶ リヤ (4 席車両) *



- 1 ボタンを押し、ロックを解除してアームレストを持ち上げる。
- 2 シガレットライターを押し込みます。

元の位置にもどったら使用できます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 使用条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

 警告

■ やけどを防ぐために

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■ 使用後について（フロント）

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

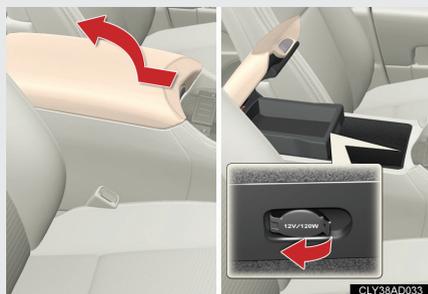
アクセサリースOCKET/アクセサリコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V : DC12V で最大電流 10A(最大消費電力 120W) 以下の電気製品

AC100V : AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

▶ アクセサリースOCKET (フロント)



▶ アクセサリースOCKET (リヤ)*



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

▶ アクセサリーコンセント***1** メインスイッチ

メインスイッチを ON にすると使用できます。

2 アクセサリーコンセント 知識**■ 使用条件**

- ▶ アクセサリーソケット**
パワースイッチが ACC または ON のとき
- ▶ アクセサリーコンセント**
パワースイッチが ON のとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

3-3. その他の室内装備の使い方

ステアリングヒーター*

ハンドルのレザ一部分をあたためることができます。



1 ON/OFF

作動中はインジケータが点灯します。

知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケータが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下の方が触れないようにご注意ください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



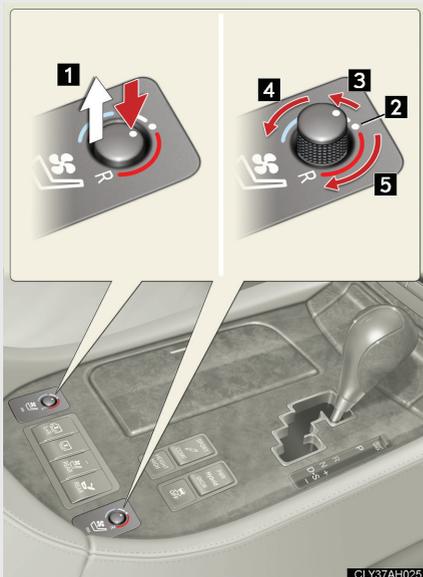
■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

コンフォータブル・エアシート*

シート表面をあたためたり、冷やしたりすることができます。

■ フロントコンフォータブル・エアシート



1 ツマミを押し出します。左右にまわして温度を設定します。

使用しないときはツマミを元の位置にもどしてください。

- 2** OFF
- 3** 送風
- 4** 冷房
- 5** 暖房

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤコンフォータブル・エアシート

▶ 5 席車両



1 ツマミを押して ON にします。左右にまわして温度を設定します。

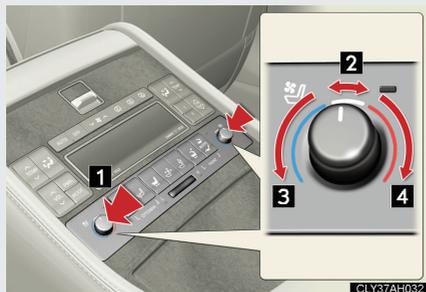
OFF するにはもう一度ツマミを押します。

2 送風

3 冷房

4 暖房

▶ 4 席車両



フロント席からも ON/OFF することができます。



 知識**■ コンフォータブル・エアシートの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■ フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

 **警告****■ やけどや冷やしすぎを防ぐために**

- 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下の方はとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
コンフォータブル・エアシートの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 **注意****■ コンフォータブル・エアシートの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ 補機バッテリーあがりを防止するために

ハイブリッドシステムが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アームレスト*



手前に倒して使用します。

注意

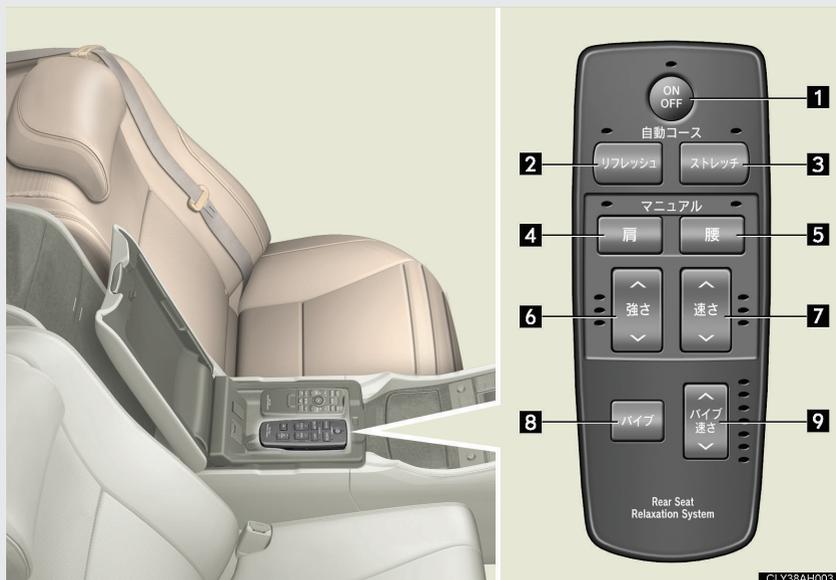
- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

3-3. その他の室内装備の使い方

リヤシートリラクゼーションシステム（4 席車両）

エアーとバイブレーターによるリラクゼーションシステムがリヤ左席に装備されています。作動の強さ、速度、バイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。



- 1** ON/OFF - システムの ON/OFF、各作動の停止
約 3 分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的に OFF されます。
- 2** リフレッシュ - リフレッシュの自動コース作動を開始
- 3** ストレッチ - ストレッチの自動コース作動を開始
- 4** 肩 - 肩部の作動を開始
- 5** 腰 - 腰部の作動を開始
- 6** 強さ - 作動の強さ調整
3 段階の調整が可能です。
- 7** 速さ - 作動の速度調整
3 段階の調整が可能です。
- 8** パイブ - バイブレーターの ON/OFF
バイブレーターは、リフレッシュ、ストレッチ、肩または腰モードとともに作動させることができます。同時に作動しているとき、選択されているモードのボタンを押してもバイブレーターを OFF できます。

9 バイブ速さ - バイブレーターの速度調整

7段階の調整が可能です。



知識

■自動コースの機能

- リフレッシュ - 背中全体へ部分的に作動します。
- ストレッチ - 腰部中心に作動をします。

■タイマー機能

各作動は、開始から約 15 分で自動的に OFF します。

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

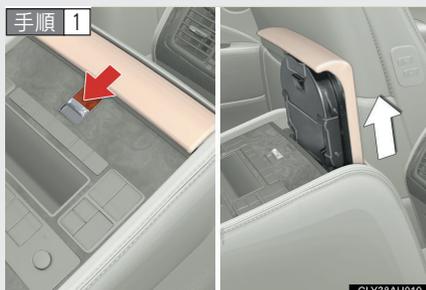


警告

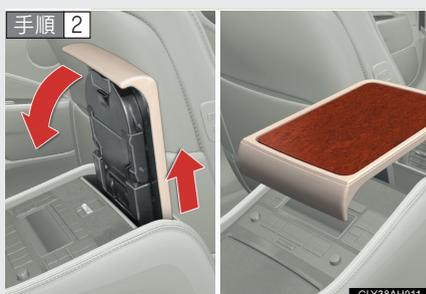
■ご使用について

- 妊娠中の方、出産直後の方、静養を要する疾患（心臓疾患）のある方は、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子様は使用しないでください。
- 食後や長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

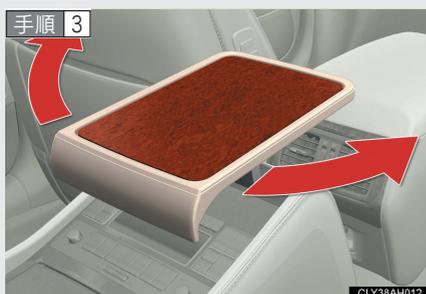
3-3. その他の室内装備の使い方 テーブル（4 席車両）



レバーをスライドさせてテーブルを上げる。



テーブルを引き上げ、手前へ倒す。



テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事をご確認ください。

前席のシート位置調整中、シートがテーブルに接触しそうになると作動が停止します。(→P. 80)



テーブルをもどすには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。



警告

■ 使用しないときは

けがを防ぐために、テーブルをもどしてください。

■ 走行中の警告

テーブルを確実にもどしてください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■ テーブル使用中について

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

- テーブルが確実にロックされていることを確認してください。
- テーブルにもたれかけないでください。
- テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。



注意

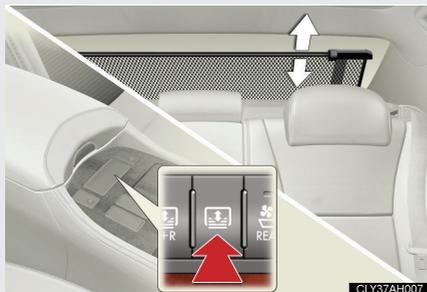
■ テーブルの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

▶ フロント席



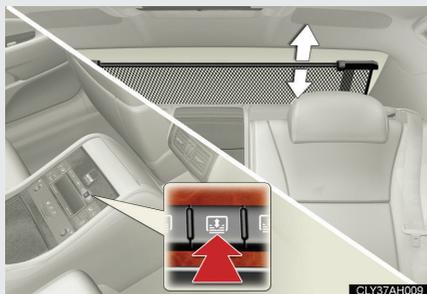
展開／格納

▶ リヤ席（5 席車両）



展開／格納

▶ リヤ席（4 席車両）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にした後でも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でチェンジレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、下記のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- チェンジレバーを P に入れる
- チェンジレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でハイブリッドシステムを停止した場合は、再びハイブリッドシステムを始動させて 15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ ボタンロック機能

▶ 5 席車両



誤った作動を防止するために、リアアームレストのリヤサンシェード、リヤドアサンシェード、オーディオ、エアコンの操作を禁止することができます。

ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

▶ 4 席車両



⚠ 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをすることがあります。

 注意

■ 補機バッテリーあがりを防ぐため

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

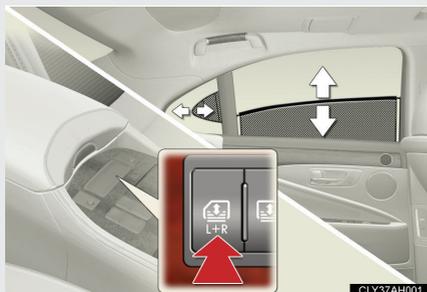
以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分に物を置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 リヤドアサンシェード*

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

▶ フロント席



展開／格納

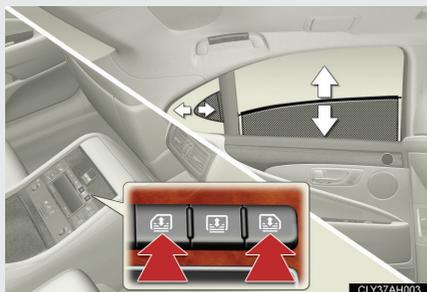
片側が開いている状態では両側とも格納します。

▶ リヤ席 (5 席車両)



展開／格納

▶ リヤ席 (4 席車両)



展開／格納

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■ ハイブリッドシステム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にした後でも、約 60 秒間リヤドアサンシェードを操作できます。

■ 挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると、挟み込み防止機能が作動してアームからサンシェードがはずれます。

▶ 展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶ 格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 275)

■ 補機バッテリーを再接続したときは

補機バッテリーを再接続した後、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。

 **警告****■ リヤドアサンシェード作動中は**

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させるため、体の一部を挟んだりしないでください。

 **注意****■ 補機バッテリーあがりを防ぐため**

ハイブリッドシステムが停止しているときはリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分に物を置かないでください。
- リヤドアサンシェードにもものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けしないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

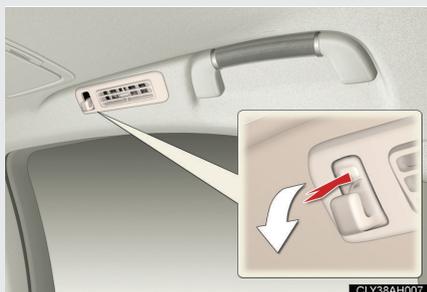
コートフック

▶ リヤエアコン装着車を除く



使用するときには、コートフックを
押します。

▶ リヤエアコン装着車



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な
傷害または死亡につながるおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上をしっかり固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

警告

■ フロアマットを敷くときは

フロアマットはレクサス純正品を正しく敷いてください。

レクサス純正品でなかったり正しく敷いていないと、運転中にペダルの操作をさまたげ、事故につながるおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

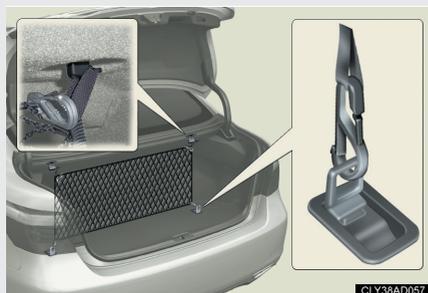
トランク内装備

■ 荷物固定用ネット



ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

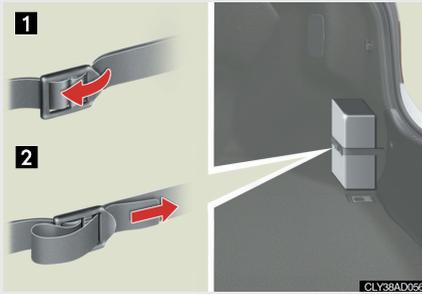
床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。



■ 買い物フック



■ 救急箱固定用バンド



- 1 ゆるむ
- 2 締まる

■ ラゲージマット



レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。



レバーはトランクの縁へかけることができます。

⚠ 警告

■ 荷物固定用ネットを使用しないときは

必ず固定用フックを元の位置にもどしておいてください。



■ **トランクを閉めるときは**

ラゲージマット上のレバーをトランクの縁へかけたままにしないでください。
ラゲージマットが損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた	286
外装の手入れ	286
内装の手入れ	289
タイヤについて	291
4-2. 簡単な点検・	
部品交換	295
ボンネット	295
ガレージジャッキ	298
エンジンルームカバー	300
電球（バルブ）の交換	302
ヒューズの点検、交換	313
電子キーの電池交換	329
ウォッシュ液の補給	331

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

ポデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ポデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- 洗車する前にワイパースイッチを OFF にしてください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

車内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。自動洗車機に入れる前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ 塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。



警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷えてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム* について

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

■ 塗装の損傷をさけるために

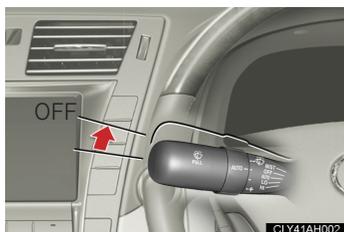
ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ ライトの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ライトを損傷させるおそれがあります。

● ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパー
が作動してワイパーブレードなどを損傷する
おそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 柔らかい布などでほこりや砂を取り除く
- 真水をひたしたきれいな布を固くしぼり、よごれをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■ リヤウインドウガラスの内側を清掃するときは

熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に2回程度の定期的なお手入れをおすすめします。
(本革張りインストルメントパネル*には必要ありません。)

■ カーベットの洗淨

市販の泡タイプクリーナーがご利用になります。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 97)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 警告

■ 車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→ P. 36) 駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 123) 電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

■ 本革張りインストルメントパネル*を手入れするときは

保護剤（コーティングなど）を使用しないでください。
インストルメントパネルの反射がフロントガラスに映りこみ、前方視界がさまたげられて思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 清浄するとき使用する溶剤について

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

■ 革の傷みをさけるために

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。とくに夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

4-1. お手入れのしかた タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの磨耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

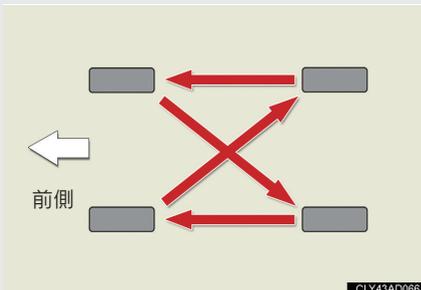
タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

- タイヤ空気圧
- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常磨耗（極端にタイヤの片側のみが磨耗していたり、磨耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションの仕方

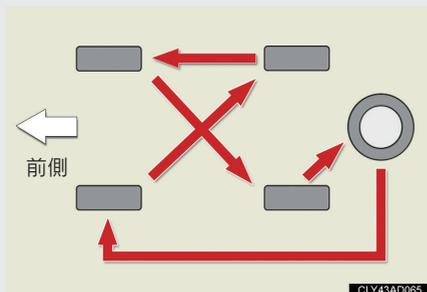
▶ スペアタイヤが応急用タイヤの場合



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの磨耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。

▶ スペアタイヤが標準タイヤの場合



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。

知識

■ タイヤ空気圧の数値



▶ 235/50R18 97W

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

スペア：420 kPa (4.2 kg/cm²) ※¹
230 kPa (2.3 kg/cm²) ※²

▶ 245/45R19 98Y

前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：240 kPa (2.4 kg/cm²)

スペア：420 kPa (4.2 kg/cm²) ※¹
240 kPa (2.4 kg/cm²) ※²

※¹ 応急用タイヤ

※² 標準用タイヤ

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■タイヤの保管について

タイヤを車両からはずして保管する際は、ビニール袋に入れるなどして、水や直射日光を避けて保管してください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、ベルテッドバイアスタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

■タイヤサイズの変更について

新車時に装着されているタイヤサイズによってホイールサイズやステアリングギヤレシオ※が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあり危険です。

例えば 235/50R18 タイヤ装着車に 245/45R19 タイヤを装着することはできません。

※ハンドルを操作した量に対してタイヤが切れる角度

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 **警告**

■ **タイヤの補修について**

パンクしたタイヤを補修する際は、特別な作業が必要となりますので、レクサス販売店にご相談ください。市販のパンク補修剤では十分に補修できないおそれがあります。

 **注意**

■ **走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。



ボンネット解除レバーを引く。
ボンネットが少し浮き上がります。



レバーを引き上げてボンネット
を開ける。

警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■ 修理、車検、整備点検をする場合は

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、感電など生命にかかわるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

 注意**■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために**

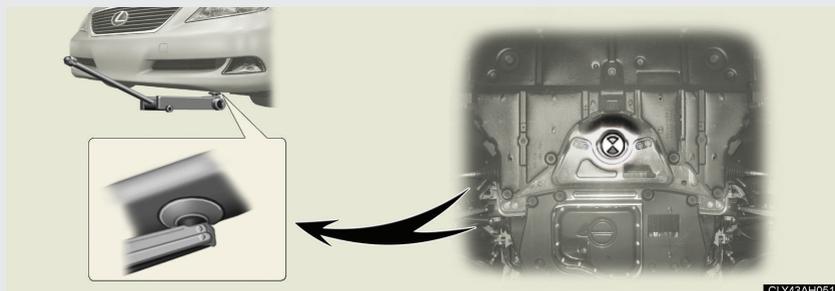
- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

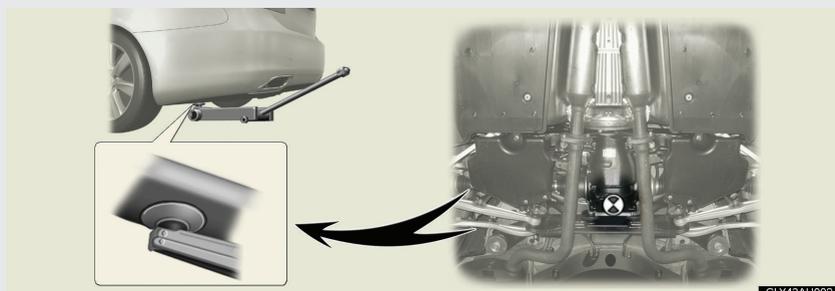
ジャッキを使用して車両を持ち上げる時は、正しい位置にジャッキを取り付けてください。

正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側



■ リヤ側



 **警告****■ 車両を持ち上げる時には**

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

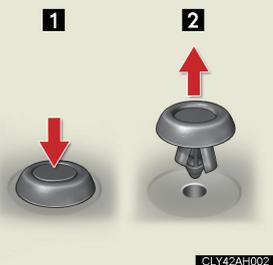
- ジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドまたは硬い水平面を使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でハイブリッドシステムを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーをPにしてください。
- ジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。また車両がジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物を置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

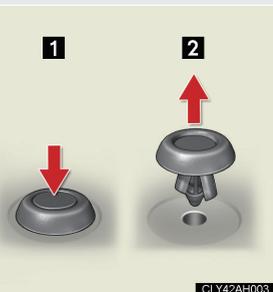
ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

▶ 外側

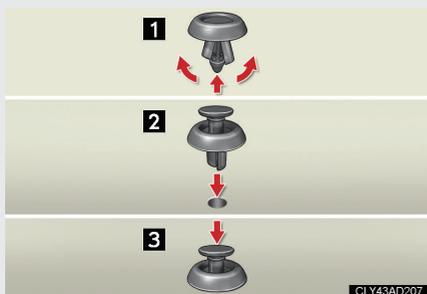


▶ 前側

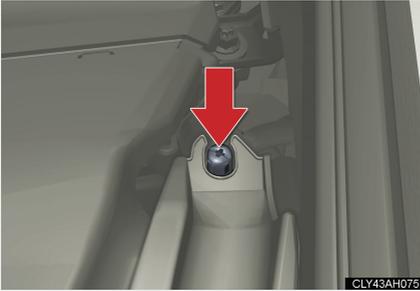


■ クリップの取り付け方

▶ タイプ A



▶ タイプ B

 警告

■ けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ カバーを取り付けたあとは

元の場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

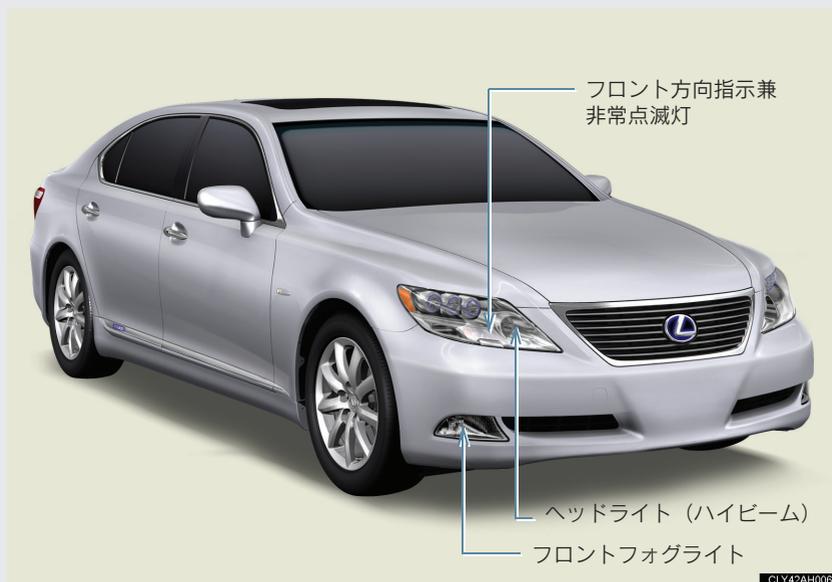
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 380）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 300

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



4

お
手
入
れ
の
し
か
た

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト (ハイビーム)

手順 1 電球を交換するには、

▶ 左側

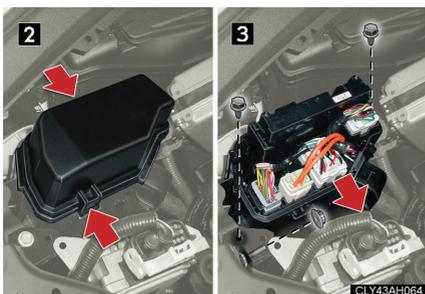


ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

▶ 右側

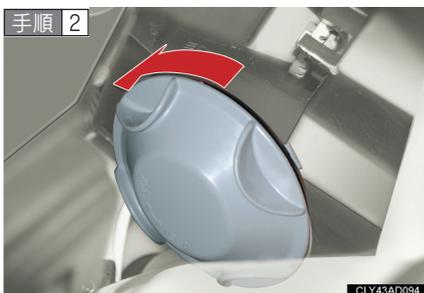


1 ECU ユニットの固定ボルトをはずし、ECU ユニートを移動する。

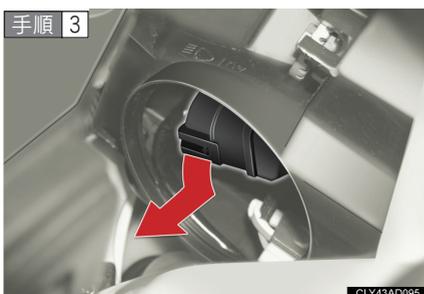


2 リレーブロックのカバーをはずす。

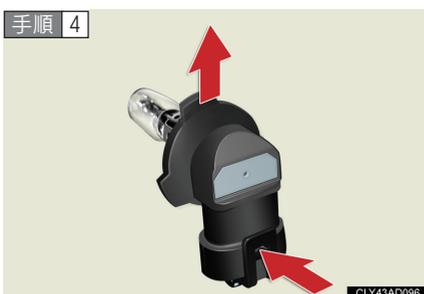
3 リレーブロックの固定ボルトをはずし、リレーブロックを移動する。



カバーを取りはずす。

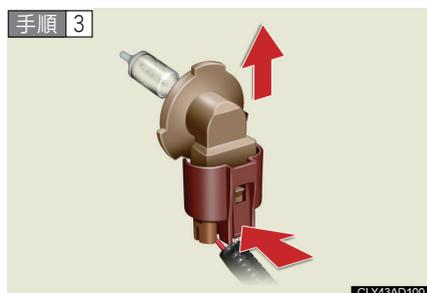
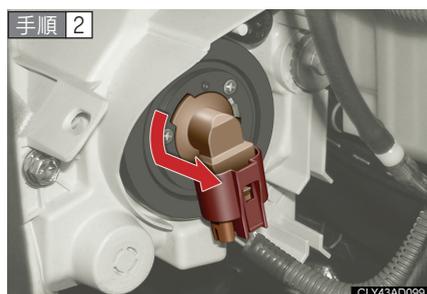


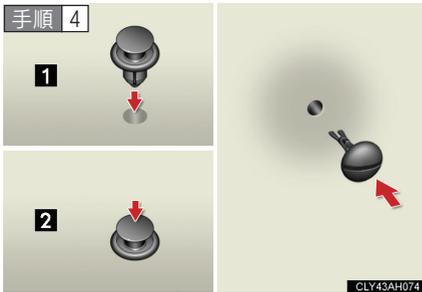
ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ フロントフォグライト





固定ボルトとクリップを取り付ける。

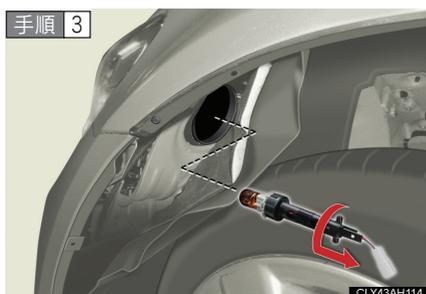
■ フロント方向指示兼非常点滅灯



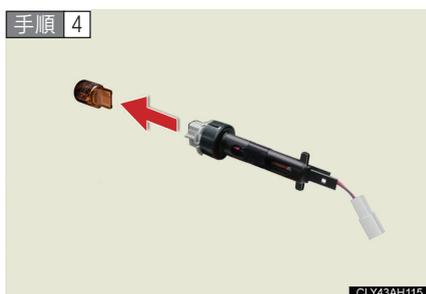
交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。



カバーを取りはずす。

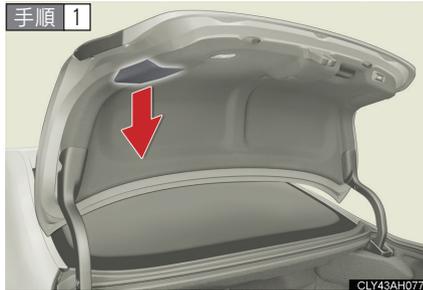


ソケットを取りはずす。

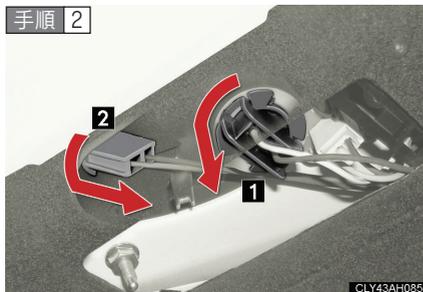


電球を取りはずす。

■ 後退灯、リヤフォグライト*

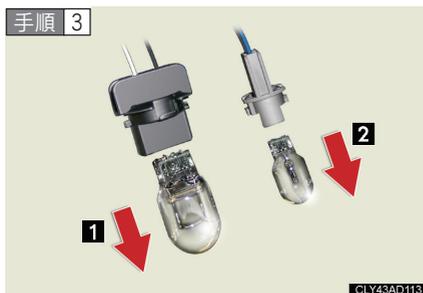


トランクを開け、カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。

- 1 リヤフォグライト*
- 2 後退灯

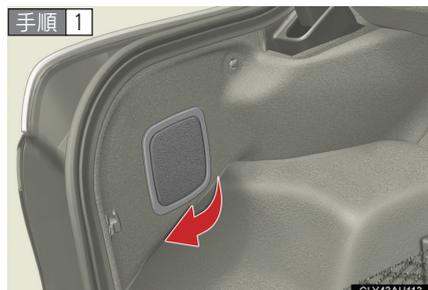


電球を取りはずす。

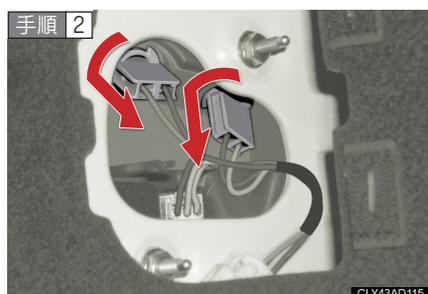
- 1 リヤフォグライト*
- 2 後退灯

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

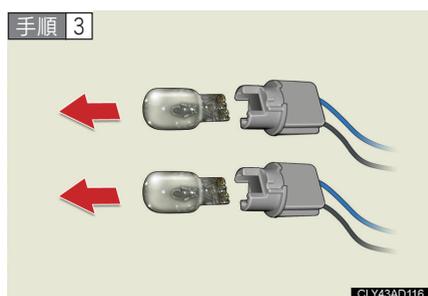
■ リヤ方向指示兼非常点滅灯



トランクを開け、カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- 車幅灯
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 尾灯
- 番号灯



知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている



警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。
やけどするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

 注意

■ ヘッドライト（ハイビーム）、フロントフォグライト、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

■ お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■ LED ヘッドライト（ロービーム）、車幅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯について

ヘッドライト（ロービーム）、車幅灯、制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯は数個のLEDで構成されています。もしLEDがひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

4-2. 簡単な点検・部品交換

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 パワースイッチを OFF にする。

手順 2 ボンネット、トランクを開ける。

▶ エンジンルーム

エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 300)

▶ トランク



補機バッテリーカバーを取りはずす。

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム（ヒューズボックス C）



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元



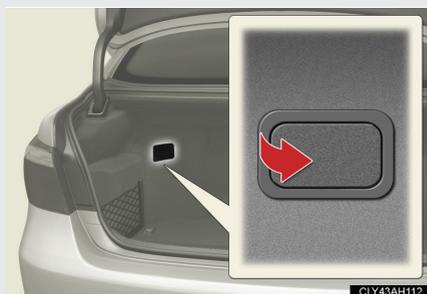
カバーを取りはずす。

▶ トランク (ヒューズボックス A)



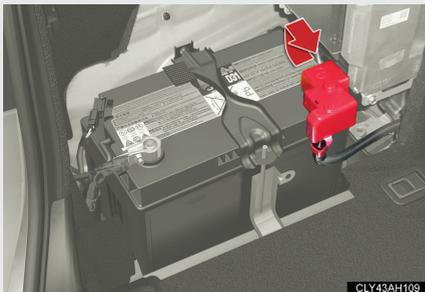
カバーを取りはずす。

▶ トランク (ヒューズボックス B)



カバーを取りはずす。

▶ トランク (ヒューズボックス C)



ターミナルカバーをはずす。

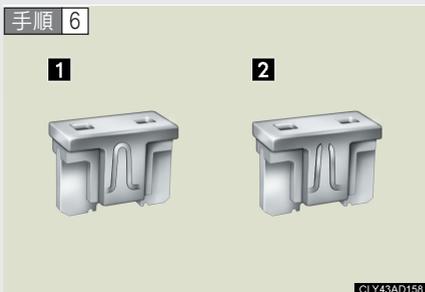
手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。(→ P. 317)

手順 5



ヒューズはずしてヒューズを引き抜く。

手順 6



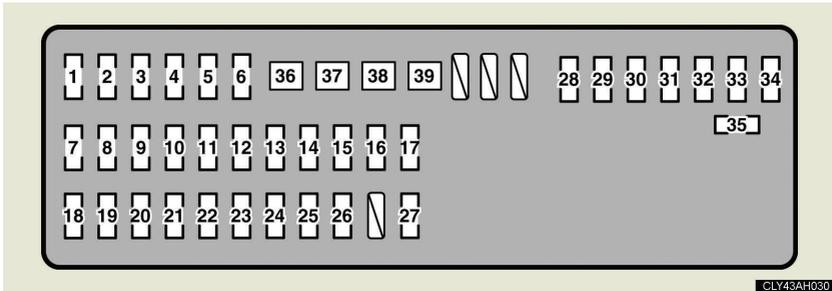
ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

ヒューズの配置と負荷

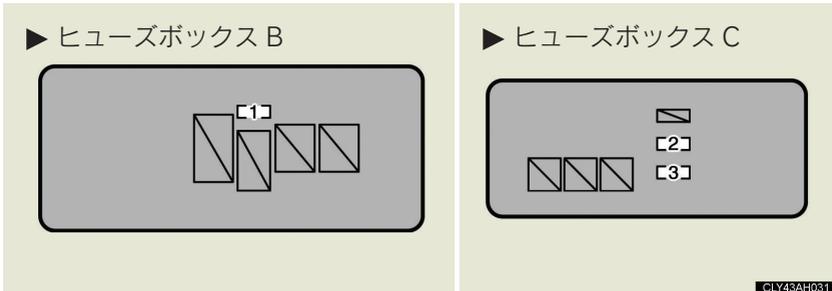
■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	25 A	フロントワイパーデアイサー
2	30 A	ワイパー
3	10 A	ブレーキシステム
4	25 A	INV W/P
5	10 A	EPS
6	30 A	ヘッドライト（ハイビーム）、ホーン
7	10 A	AFS、EFI システム、ヘッドライトクリーナー、プリクラッシュセーフティシステム
8	10 A	エアコン、EPS、電動クーリングファン、AFS
9	15 A	ヘッドライト（ロービーム）
10	10 A	ブレーキシステム
11	15 A	ヘッドライト（ロービーム）
12	10 A	EFI システム
13	10 A	プリクラッシュセーフティシステム
14	10 A	EFI システム、ブレーキシステム、エアバッグシステム
15	10 A	EFI システム、ストップライト、ハイブリッドシステム

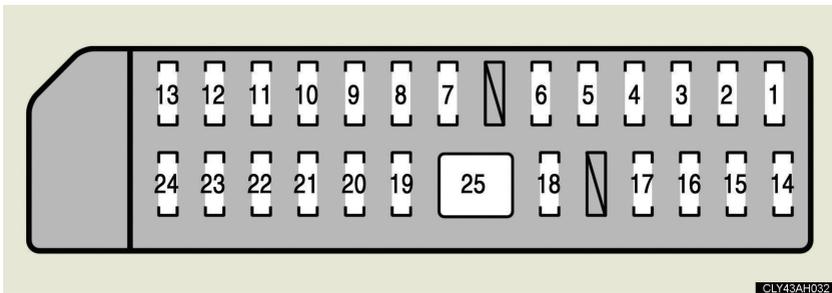
	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
16	D/C CUT1	30 A	ECU-B、D MPX-B 1、DOME、D MPX-B 2
17	ECU-B	10 A	ヘッドライト（ロービーム）
18	A/F	15 A	EFI システム
19	EDU2	25 A	EFI システム
20	FR CTRL ALT	20 A	ウォッシャー、アラーム、ヘッドライトクリーナー、車幅灯
21	EDU1	25 A	EFI システム
22	RELIEF VLV	10 A	フューエルシステム
23	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
24	A/C W/P	10 A	エアコン
25	H-LP LVL	10 A	ディスチャージヘッドライト、ヘッドライト（ロービーム）
26	P-J/B	10 A	P IG2
27	INJ	10 A	EFI システム
28	D/C CUT2	30 A	P MPX-B、RR MPX-B 1、RR MPX-B 2
29	IGCT2	25 A	IGCT2 NO.2、ハイブリッドシステム
30	ABS MAIN3	10 A	ブレーキシステム
31	EFI MAIN2	25 A	EFI、EFI-B、EFI システム
32	EFI MAIN	25 A	EFI システム、フューエルシステム
33	EFI	10 A	EFI システム、フューエルシステム
34	EFI-B	10 A	EFI システム、フューエルシステム
35	INV W/P	10 A	ハイブリッドシステム
36	ST	30 A	—————
37	ABS MTR1	50 A	ブレーキシステム
38	ABS MTR2	50 A	ブレーキシステム
39	VVT	40 A	EFI システム

■ エンジンルーム（ヒューズボックス B、C）



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1 IGCT2 NO. 2	10 A	IGCT 3、ハイブリッドシステム
2 PTC HTR 3	25 A	エアコン
3 PTC HTR 1	25 A	エアコン

■ 運転席足元

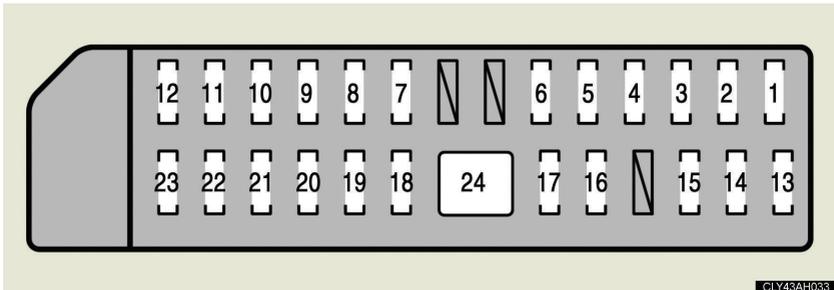


ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1 D-IG1-3	10 A	トランスミッション、パワードアロックシステム、エアコン、ブレーキシステム、リヤウインドウデフォグガー、ムーンルーフ、メインボデー ECU、プリクラッシュシートベルト、電動パーキングブレーキ、アクセサリソケット、方向指示兼非常点滅灯、コンフォータブル・エアシート、オーディオ
2 D-IG1-2	5 A	クルーズコントロールシステム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
3	D-IG1-4	15 A	ステアリングヒーター、コンフォータブル・エアシート
4	D-IG1-1	5 A	電動チルト&テレスコピックステアリング、プリクラッシュセーフティシステム、ハイブリッドシステム
5	PWR OUTLET	15 A	アクセサリースOCKET
6	D-ACC	5 A	メインボデー ECU
7	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ
8	TI&TE	30 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
9	AM1	5 A	メインボデー ECU
10	OBD	10 A	ダイアグノーシスコネクター
11	D P/SEAT	30 A	フロントシート調整
12	D S/HTR	20 A	コンフォータブル・エアシート
13	D RR S/HTR	30 A	コンフォータブル・エアシート
14	D MPX-B 1	10 A	メーター、フロントシート調整、電動チルト&テレスコピックステアリング、パワードアロックシステム、ETC、リヤシート調整
15	DOME	10 A	室内灯、時計
16	D MPX-B 2	10 A	オーディオ
17	PANEL	10 A	フューエルリッド、パワートランクリッド、コンソールボックススライト、室内灯、コインホルダーライト、グローブボックススライト、方向指示兼非常点滅灯、電動パーキングブレーキ、ナビゲーションシステム、アクセサリースOCKET、コンフォータブル・エアシート、メーター、トリップメーター、オーディオ、リラクゼーションシート
18	SECURITY	5 A	スマートエントリー&スタートシステム、盗難防止システム
19	STR LOCK	20 A	電動チルト&テレスコピックステアリング

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
20	D DOOR 2	10 A	パワードアロックシステム
21	HAZ	10 A	方向指示兼非常点滅灯
22	D RR DOOR	25 A	室内灯、パワードアロックシステム、パワーウィンドウ
23	D DOOR 1	25 A	室内灯、盗難防止システム、電動格納ミラー、パワードアロックシステム、イージークローザー、電動ミラー、パワーウィンドウ、ミラーヒーター
24	STOP	5 A	制動灯
25	AMP	30 A	オーディオ

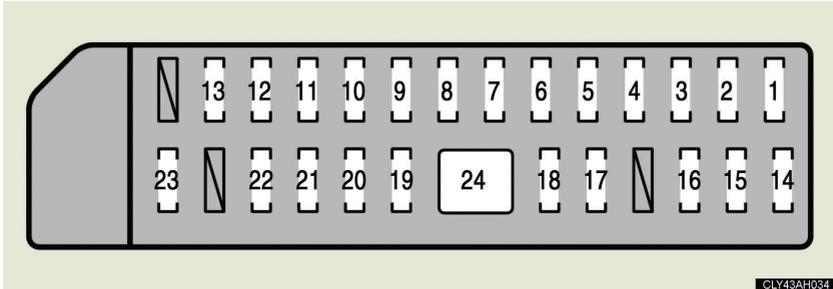
■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	P-IG1-2	5 A	—
2	P-IG1-3	5 A	VGRS
3	P-IG1-1	10 A	ナビゲーションシステム、パワードアロックシステム、VDIM、エアコン、プリクラッシュシートベルト、バックガイドモニター
4	P-IG1-4	10 A	アクティブスタビライザーサスペンションシステム、エアコン
5	P-CIG	15 A	シガレットライター
6	P-ACC	5 A	ナビゲーションシステム、時計、バックガイドモニター、盗難防止システム、ETC

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
7	A/C	10 A	エアコン
8	P S/HTR	20 A	コンフォータブル・エアシート
9	P P/SEAT 2	30 A	フロントシート調整
10	RR SEAT	30 A	リヤシート調整
11	P P/SEAT 1	30 A	フロントシート調整
12	P RR S/HTR	30 A	コンフォータブル・エアシート
13	P IG2	5 A	ステアリングロックシステム、スマート エントリー&スタートシステム、メー ター
14	P RR-IG2	5 A	—————
15	P MPX-B	10 A	パワードアロックシステム、フロント シート調整、VDIM、スマートエント リー&スタートシステム、VGRS、ハイ ブリッドシステム、バックガイドモニ ター
16	AIR SUS	20 A	サスペンションシステム
17	AM2	10 A	メインボデー ECU
18	RADIO NO.1	20 A	ナビゲーションシステム
19	PMG	5 A	—————
20	P-D/C CUT	5 A	パワーウィンドウ、ステアリングスイッ チ
21	P DOOR 2	10 A	パワードアロックシステム
22	P RR DOOR	25 A	室内灯、パワードアロックシステム、 イージークローザー、パワーウィンドウ
23	P DOOR 1	25 A	室内灯、電動格納ミラー、パワードア ロックシステム、イージークローザー、 電動ミラー、パワーウィンドウ、ミラー ヒーター
24	AMP	30 A	—————

■ トランク (ヒューズボックス A)

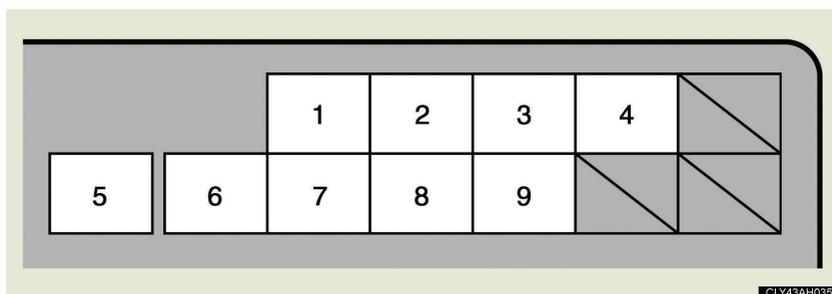


CLY43AH034

ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1 RR-IG1-3	10 A	コンフォータブル・エアシート
2 RR-IG1-4	10 A	リヤシートリラクゼーションシステム
3 RR-IG1-2	10 A	パワードアロックシステム、パワートランクリッド、クールボックス、エアコン
4 RR-IG1-1	5 A	充電システム、電動パーキングブレーキ、プリクラッシュシートベルト、リヤシートリラクゼーションシステム、アクティブスタビライザーサスペンションシステム、ハイブリッドシステム
5 RR-ACC	5 A	オーディオシステム、リヤシートエンターテイメントシステム
6 RR-CIG	15 A	シガレットライター
7 AC100/115V	15 A	アクセサリースOCKET
8 RL SEAT	30 A	リヤシート調整
9 B/ANC	10 A	シートベルトアンカー
10 RR S/SHADE	10 A	リヤサンシェード
11 PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
12 PTL	30 A	パワートランクリッド
13 FUEL OPN	15 A	フューエルリッド、パワートランクリッド
14 RR MPX-B 1	10 A	パワートランクリッド、リヤシートエンターテイメントシステム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
15	RR MPX-B 2	5 A	パワードアロックシステム、リヤシート調整、室内灯、トランクルームライト、パワートランクリッド
16	IGCT 3	5 A	ハイブリッドシステム
17	BATT FAN	20 A	駆動用電池クーリングファン
18	B-FAN RLY	5 A	駆動用電池クーリングファン
19	RR ECU-B	5 A	電動パーキングブレーキ
20	ABS MAIN 4	10 A	充電システム
21	STOP LP 1	10 A	制動灯、後退灯
22	STOP LP 2	10 A	リヤフォグライト、ハイマウントストップライト
23	TAIL	5 A	尾灯
24	E-PKB	30 A	電動パーキングブレーキ

■ トランク (ヒューズボックス B)



CLY43AH035

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	E/G R/B DC/DC	160 A	AIR SUS、HTR、DEFOG、FAN NO.1、FAN NO.2、H-LP CLN、PTC HTR、E/G RM 1、D-J/B DC/DC
2	LUG-J/B DC/DC	80 A	PTL、RL SEAT、B/ANC、FUEL OPN、RR S/SHADE、PSB、RR-IG1-1、RR-IG1-2、RR-IG1-3、RR-IG1-4、RR-ACC、RR-CIG、AC100/115V、BATT FAN

ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
3 LH-J/B DC/DC	80 A	P P/SEAT 1、A/C、RR SEAT、P P/SEAT 2、P S/HTR、P RR S/HTR、P-IG1-1、P-IG1-2、P-IG1-3、P-IG1-4、P-ACC、P-CIG、AIR SUS
4 RR A/C	30 A	エアコン
5 DC/DC	180 A	ハイブリッドシステム
6 E/G R/B BATT	160 A	VGRS、OIL PMP、EFI NO.1、EFI、E/G RM B、D-J/B B、E/G RM B2
7 EPS	80 A	EPS、アクティブスタビライザーサスペンションシステム
8 LH-J/B BATT	40 A	P DOOR 1、P RR DOOR、AM2、RADIO NO.1、P-D/C CUT、P DOOR 2
9 LUG-J/B BATT	40 A	STOP LP 1、STOP LP 2、TAIL、B-FAN RLY、ABS MAIN 4、RR ECU-B、E-PKB

■ トランク (ヒューズボックス C)



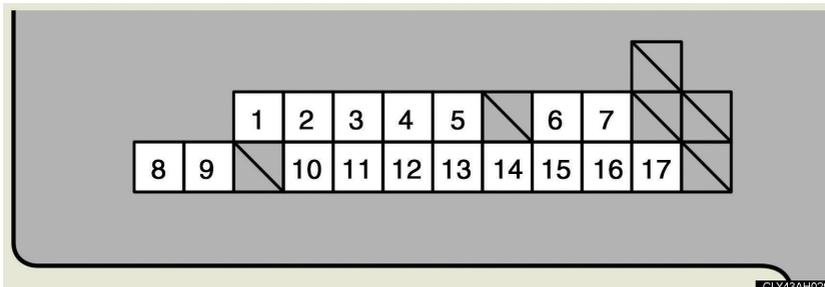
ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1 MAIN	200 A	すべての電装品

パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて



高電圧部位、高電圧の配線が近くにあるため、点検・交換の際はレクサス販売店にご連絡ください。

■ ヒューズの配置と負荷



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称	
1	P-J/B DC/DC	100 A	—
2	E/G RM1	80 A	DEICER、WIP、E/G RM-IG1-1、E/G RM-IG1-2、NV IR、FR FOG、FR CTRL ALT、ABS MTR1、A/C W/P、フロントフォグライト
3	FAN NO. 1	40 A	電動クーリングファン
4	PCT HTR	50 A	PTC HTR 1、PTC HTR 3
5	AIR SUS	40 A	サスペンションシステム
6	HTR	50 A	エアコン
7	DEFOG	40 A	リヤウインドウデフォグガー
8	H-LP CLN	30 A	ヘッドライトクリーナー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
9	E/G RM B	80 A	D/C CUT 1、FR CTRL BAT、EPS ECU、ABS MAIN 2、ABS MTR2、IGCT1、H-LP RL、H-LP LL、H-LP LVL、ヘッドライト（ロービーム）
10	EFI	80 A	VVT、ETCS、ABS MAIN 1、EDU1、EDU2、A/F、RELIEF VLV、ECU-IG、IGN、INJ、P-J/B
11	OIL PMP	60 A	トランスミッション
12	EFI NO. 1	40 A	EFI MAIN、EFI MAIN NO. 2
13	VGRS	40 A	VGRS
14	P-J/B B	40 A	————
15	E/G RM B2	40 A	ABS MAIN 3、IGCT2、D/C CUT 2
16	D-J/B B	40 A	D DOOR 1、D RR DOOR、HAZ、D DOOR 2、STR LOCK、STOP、SECURITY、AMP
17	D-J/B DC/DC	100 A	OBD、D P/SEAT、TI&TE、AM1、D S/HTR、S/ROOF、D RR S/HTR、D-IG1-1、D-IG1-2、D-IG1-3、D-IG1-4、D-ACC、PWR OUTLET、PANEL
18	FAN NO. 1 L/DMST	80 A	————
19	FAN NO. 2 DMST	40 A	電動クーリングファン
20	FAN NO. 1 DMST	40 A	電動クーリングファン

知識

■ ヒューズを交換したあと

- ライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。（→P. 302）
- 再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。



■ **車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■ **パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて**

高電圧部位、高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換をおこなわないでください。

取り扱いを誤ると感電し、生命に関わるような重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換の仕方

手順 1



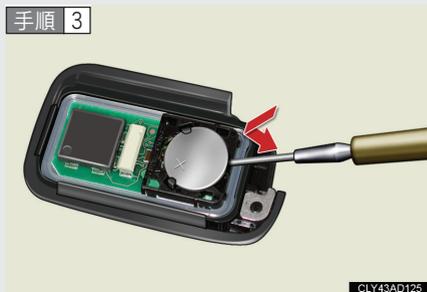
メカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

 知識

■ 電子キーの電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

 警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまに触れさせないでください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

 注意

■ 交換後、正常に機能させるために

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換

ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給する。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

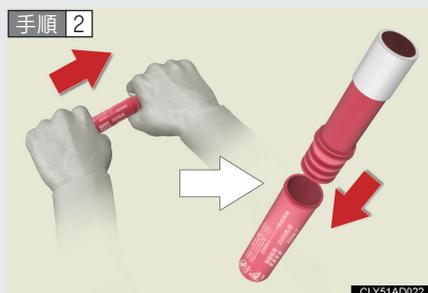
5-1. まず初めに	334
発炎筒	334
けん引について	336
イベントデータ レコーダー	340
5-2. 緊急時の対処法	342
警告灯がついたときは	342
警告メッセージが表示された ときは	346
パンクしたときは	348
ハイブリッドシステムが 始動できないときは	358
チェンジレバーがシフト できないときは	360
パーキングブレーキが 解除できないときは	361
キーを無くしたときは	363
電子キーが正常に働かない ときは	364
補機バッテリーがあがった ときは	366
オーバーヒートした ときは	370
スタックしたときは	374

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す。



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。



先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。

**警告****■ 発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。
やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動などにとどめてください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- READY インジケーターが点灯しているのに、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

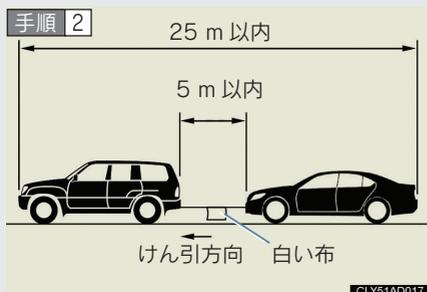
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

手順 3

 ハイブリッドシステムを始動する。

ハイブリッドシステムが始動しないときは、パワースイッチを ACC または ON にしてください。

手順 4

 けん引される車両のチェンジレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた



マイナスドライバーを使ってふたをはずす。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。



けん引フックを穴に差し込み軽く締める。



ホイールナットレンチを使い確実に取り付ける。



知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■けん引フックの収納位置

→P. 348



警告

■けん引フックを車両に取り付けるときは

しっかりと取り付けてください。

さもないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■車両を運搬するときは

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

車輪が接地した状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターから電気が発電され、故障や破損の状態によっては漏電による火災のおそれがあり危険です。

■けん引中の運転について

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●パワースイッチをOFFにしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。

ハイブリッドシステムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。



注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤロープは使用しない
 - ・ 速度は 30 km/h 以下、距離は車両積載車までの移動などにとどめる
 - ・ 前進方向でけん引する
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、SRSエアバッグやVSCを搭載しています。これらのコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のとき、VSCが作動したとき、または車両緊急時（急ブレーキなど車に高い加速度があたえられたとき）において、以下のデータを記録・蓄積するイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録・蓄積するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録・蓄積します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- トランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

VSC に搭載しているイベントデータレコーダーが、VSC 作動時や車両緊急時に下記のデータを記録・蓄積します。

- 車速や加速度など
- ハンドルの操舵角
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- VSC の制御に関する情報
- VSC の故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（赤色） ・ブレーキ液の不足 ・電子制御ブレーキシステムの異常

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へご連絡ください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・ハイブリッドシステムの異常 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常

警告灯	警告灯名・警告内容
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 (黄色) ・回生ブレーキシステムの異常 ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常
	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常

知識

■ パワーステアリング警告灯について

電圧が低い、または低下した場合に点灯することがあります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法にしたがって処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める。
 燃料計内	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 13 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	水温警告灯 エンジン冷却水高温異常	→ P. 370
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチディスプレイ上に警告メッセージを表示	→ P. 346

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：

各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときにブザーが鳴ります。

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときはメッセージの内容にしたがってご対処ください。



1 マスターウォーニング

マルチディスプレイにメッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチディスプレイ

対処後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が以下のように切り替えます。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー*	警告内容
点灯	—	あり	走行に関わるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。

	専用警告灯	警告ブザー*	警告内容
点滅	—	なし	お車を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

*：メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 専用警告灯について

以下の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングライトが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
AFS OFF 表示灯が点滅します。（→P. 175）
- ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→P. 342）
- 回生ブレーキシステム・電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→P. 342）
- ABS の異常
ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P. 342）
- 充電システムの異常
充電警告灯が点灯します。（→P. 342）
- エンジン冷却水高温異常
水温警告灯が点滅または点灯します。（→P. 370）

■ 「ハイブリッドシステム過熱」が表示されたとき

→P. 371

■ 燃料残量警告灯が点灯し、「ハイブリッドシステムチェック」が表示されたとき

→P. 30

5-2. 緊急時の対処法

パンクしたときは

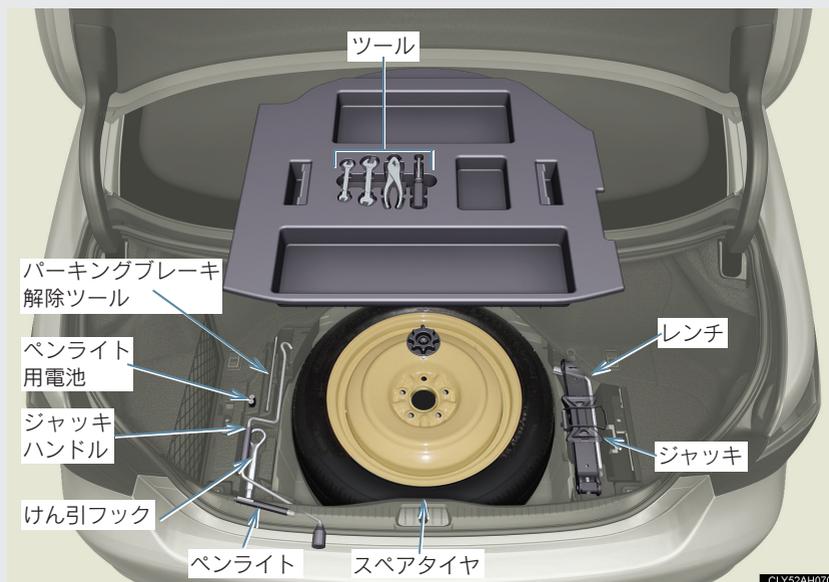
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
(タイヤについての詳しい説明は P. 291 をご覧ください。)

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

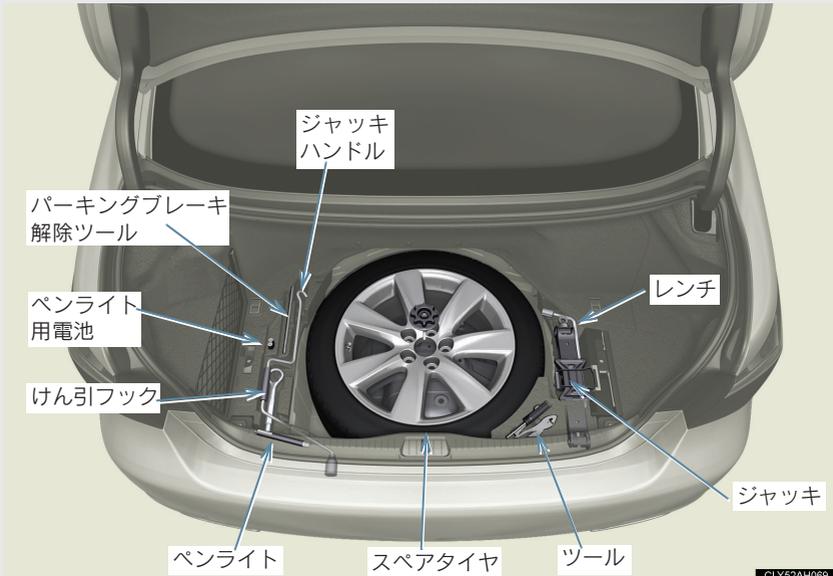
- 地面が固く平らな場所へ移動する
- パーキングブレーキをかける
- チェンジレバーを P に入れる
- ハイブリッドシステムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

▶ 応急用タイヤ装着車



▶ 標準タイヤ装着車



ペンライトの使い方

夜間のタイヤ交換などに使用できるペンライトをトランク内に装備しています。



- 1 先端部を回して開ける。
- 2 電池を入れる。
- 3 先端部を装着する。
- 4 ON/OFF

ジャッキとスペアタイヤの取り出し方

手順 1



ラゲージマットを持ち上げる

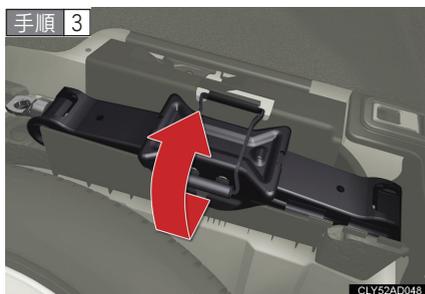
手順 2 ラゲージマットをかけて、ツールトレイを取り出す

▶ 応急用タイヤ装着車

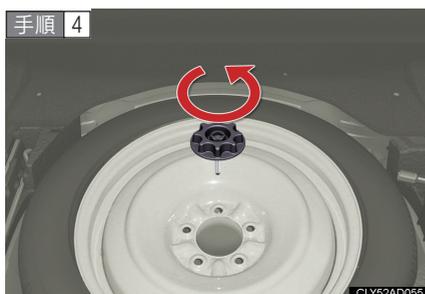


▶ 標準タイヤ装着車





ジャッキのとめ具を取りはずす



スペアタイヤのとめ具を取りはずす

スペアタイヤのとめ具が固く回らないときは、車載のレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、とめ具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください。)

応急用タイヤ装着車：応急用タイヤを取り出すときは、タイヤの両端をしっかりと持って出し入れしてください。(応急用タイヤ単体重量：約 20 kg)

パンクしたタイヤの交換

手順 1



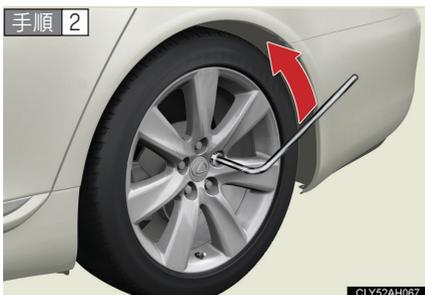
CLY52AH041

輪止め[※]をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

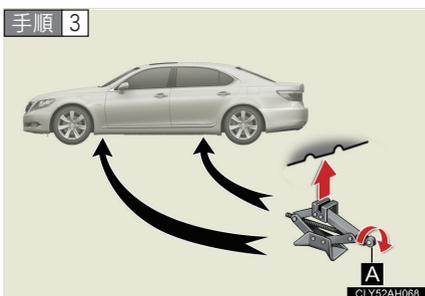
手順 2



CLY52AH067

ナットを少し (約 1 回転) ゆるめる。

手順 3



CLY52AH088

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。



タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

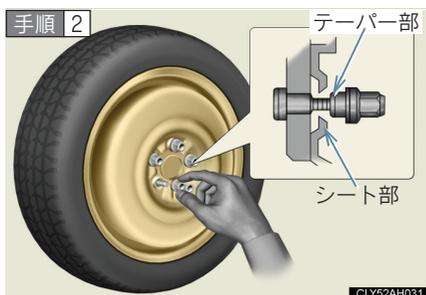
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないように意匠面を上にする。

スペアタイヤの取り付け



ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

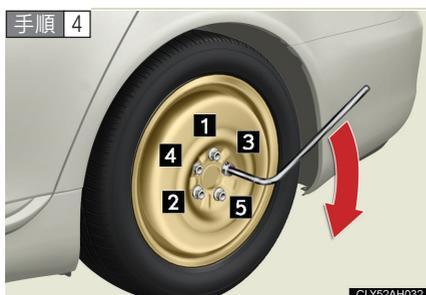
応急用タイヤ装着車：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。



標準タイヤ装着車：
ワッシャーがホイールに軽く当たるまでナットをまわす。



車体を下げる。



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
140 N・m (1430 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

 知識

■ 応急用タイヤ*について

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 379)

 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車両が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車両に使ったり、他の車両のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車両の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、ハイブリッドシステムを始動させたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車両を持ち上げない
- 車両を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車両を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車両の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずハイブリッドシステムを停止する

車両を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



警告

■ タイヤ交換について

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットが緩みホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 140 N・m (1430 kgf・cm) の力でナットをしめる
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける。
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ*を使用するときは

- お客様の車専用になっているため、他の車両には使用しないでください
- 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換ください
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■ 応急用タイヤ*装着時の走行について

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ*を収納するときは

パデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ*装着時の走行について

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ*使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ハイブリッドシステムが始動できないときは

ハイブリッドシステムが始動できない原因は状況によって異なります。以下のことをご確認ください、適切に対処してください。

■ 正しいハイブリッドシステムの始動方法（→ P. 149）にしたがっても始動できない

以下の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→ P. 365）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→ P. 116）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性がります。異常の種類によっては、ハイブリッドシステムを一時的な処置で始動することができます。（→P. 359）

■ 室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 366）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ 室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 366）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもハイブリッドシステムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のハイブリッドシステム始動操作でハイブリッドシステムが始動しないときは、以下の手順でハイブリッドシステムが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 チェンジレバーが P の位置にあることを確認する。

手順 3 パワースイッチを ACC にする。

手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でハイブリッドシステムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

チェンジレバーがシフトできないときは

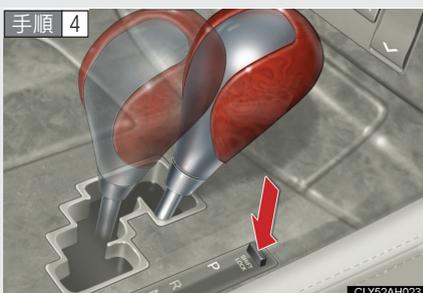
ブレーキペダルを踏んだ状態でチェンジレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（チェンジレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でチェンジレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 パワースイッチを ACC にする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。

手順 4



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

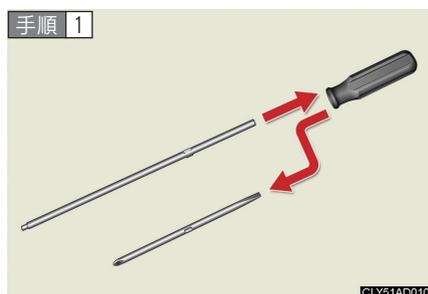
パーキングブレーキが解除できないときは

補機バッテリーあがりやパーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、以下の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみおこなってください。補機バッテリーが正常のときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 手動解除する前に

- チェンジレバーを P に入れる
- パワースイッチを OFF にする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

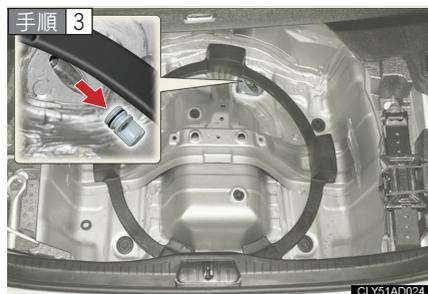
手動解除の方法



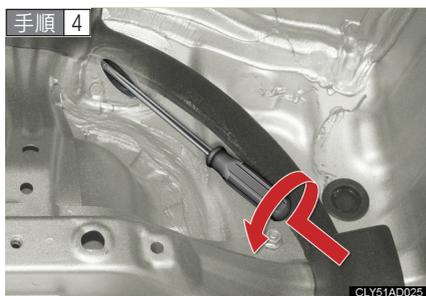
パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す (→ P. 348)

車載ドライバーのハンドルに専用工具を取り付けます。

手順 2 スペアタイヤを取り出す (→ P. 348)



キャップを取りはずす。



工具を差し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす。

知識

■ 手動操作について

パーキングブレーキは手動でかけることができません。

警告

■ 手動解除するときの警告

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずチェンジレバーをPに入れて輪止めで固定してください。
車両が動きだすおそれがありますので、とくに注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずパワースイッチをOFFにして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
パワースイッチがONのときに手動解除をおこなうと、システムが作動して差し込んだ工具が回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 48)

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P. 52)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けたり、ハイブリッドシステムを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア



電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。運転席側のドアハンドルのカバーを取りはずして操作します。

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフが閉まる (長まわし)
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフが開く (長まわし)

使用後は、カバーを元にもどしてください。



CLY51AD014

▶ トランク



メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

CLY52AH043

パワースイッチの切り替え、ハイブリッドシステム始動の方法

手順 1 チェンジレバーがPの状態ではブレーキを踏む。



電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムがパワースイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 パワースイッチの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足をはなしてパワースイッチを押します。パワースイッチを押すごとにスイッチを切り替えることができます。(→P. 150)

ハイブリッドシステム始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでパワースイッチを押します。

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■ハイブリッドシステムの停止方法

通常のハイブリッドシステムの停止方法と同様に、チェンジレバーをPにしてパワースイッチを押します。

■電池交換について

上記のハイブリッドシステム始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 329)

補機バッテリーがあがったときは

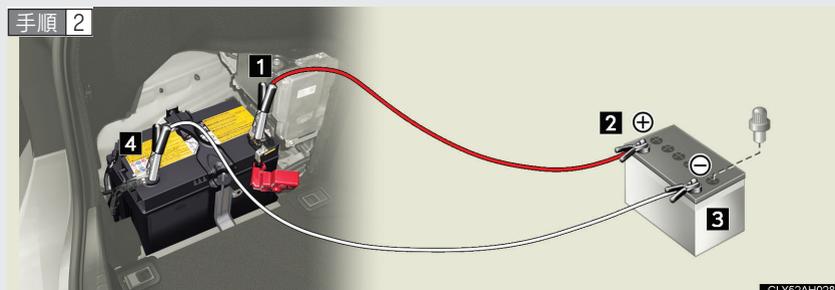
補機バッテリーがあがった場合、以下の手順でハイブリッドシステムを始動することができます。

ブースターケーブルのセットと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、お車をジャンプ・スタートさせることができます。



トランクを開け、バッテリーカバーをはずす。

トランクオープナースイッチで開かない場合は、メカニカルキーで開けます。(→P. 364)



補機バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1 赤色のブースターケーブルを自車の補機バッテリーの+端子につなぐ。
- 2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を自車の補機バッテリーの-端子につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する。

手順 4 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてからハイブリッドシステムを始動する。

手順 6 READY インジケーターが点灯することを確認する。
点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

手順 7 ハイブリッドシステムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

ハイブリッドシステムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■ 補機バッテリーあがりを防ぐために

- ハイブリッドシステムが停止しているときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ 補機バッテリーがはずされたり、補機バッテリーがあがってしまった場合は

パワースイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されることがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ ハイブリッドシステムの始動について

補機バッテリーあがり発生後や、脱着後は次の操作を行ってください。それでも始動しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

- 補機バッテリーあがり発生後は、補機バッテリーが復帰してもハイブリッドシステムが始動しないことがあります。その場合は、チェンジレバーを P、電源を OFF にしていずれかのドアを開閉し、再度始動操作をおこなってください。
- 補機バッテリー脱着後は、運転席ドアを開閉して 10 秒以上待つてから始動操作を行ってください。その際、1 度目の操作では始動しませんが異常ではありません。再度始動操作をおこなってください。

**警告****■ 補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは“+”と“-”の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ 補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- 補機バッテリーに寄りかかったりしない
- 誤ってバッテリー液が体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 補機バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近づけない

■ 補機バッテリーの交換について

交換する場合は LS600h 専用品を使用してください。専用品以外を使用すると、ガス（水素）が室内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

補機バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

 注意**■ 車両の損傷を防ぐために**

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。
ハイブリッドシステムに損傷を与えるおそれがあります。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

以下のようなとき、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温警告灯が点滅または点灯：エンジンがオーバーヒートしている可能性があります。
- 「ハイブリッドシステム過熱」がマルチディスプレイに表示：パワーコントロールユニットが過熱している可能性があります。

手順にしたがってご対処ください。

対処方法

■ 水温警告灯が点滅または点灯したとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

ハイブリッドシステムを停止して、注意してボンネットを開ける。

蒸気が出ていない場合：

READY インジケーターが点灯した状態のまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバーをはずす。(→P. 300)

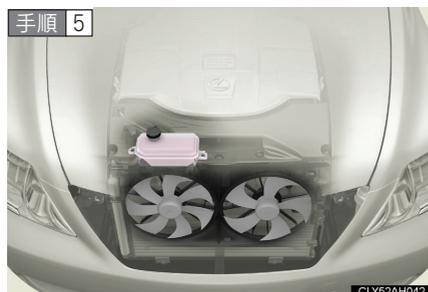
手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

ファンが作動している場合：

水温警告灯が消灯してからハイブリッドシステムを停止する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水漏れを点検する。



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。(別冊メンテナンスノート参照)

■「ハイブリッドシステム過熱」がマルチディスプレイに表示されたとき

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 READY インジケーターが点灯した状態のまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバーをはずす。(→P. 300)

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

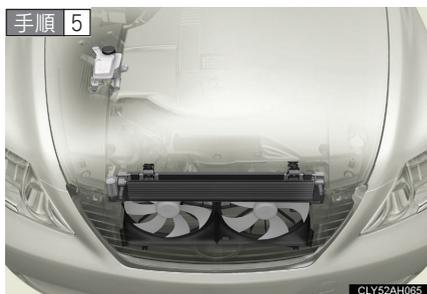
ファンが作動している場合：

「ハイブリッドシステム過熱」が消えてからハイブリッドシステムを停止する。

しばらく待っても消えない場合は、ハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。

ファンが作動していない場合：

すぐにハイブリッドシステムを停止して、レクサス販売店に連絡する。



ハイブリッドシステムが十分に冷えてから、冷却水の量や冷却水漏れを点検する。



冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。(別冊メンテナンスノート参照)

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

オーバーヒートのとき、お車に以下のような症状があらわれます。

- ハイブリッドシステムの出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

**警告****■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために**

- パワースイッチ上のインジケーターとREADYインジケーターが消灯していることを確認してください。
- ハイブリッド車は、ガソリンエンジンが自動的に動き出したり、ガソリンエンジンが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ベルトやファンなどの回転部分に触れたり、近づいたりすると、手や衣服、工具などが巻き込まれたりして、思わぬけがにつながるおそれがあり危険です。
- ハイブリッドシステムおよびラジエーターおよび補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

**注意****■ 冷却水を入れるときの注意**

ハイブリッドシステムが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
ハイブリッドシステムが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、ハイブリッドシステムが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけチェンジレバーを P に入れ、ハイブリッドシステムを停止する。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 ハイブリッドシステムを再始動する。

手順 5 チェンジレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 210)

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車両、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車両が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、とくに注意してください。

■ チェンジレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車両が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両仕様

6

6-1. 仕様一覧	376
メンテナンスデータ (指定燃料、 オイル量など)	376
6-2 カスタマイズ機能	382
ユーザーカスタマイズ 機能一覧	382

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類のご使用をおすすめします。

弊社純正オイル・液類以外を使用される場合は、弊社純正油脂類に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

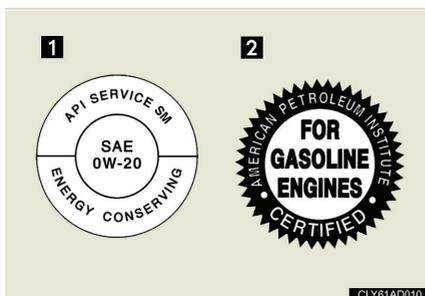
指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

エンジンオイル

銘柄	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	8.4	9.0

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をご使用ください。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサック認証) マークがついています。

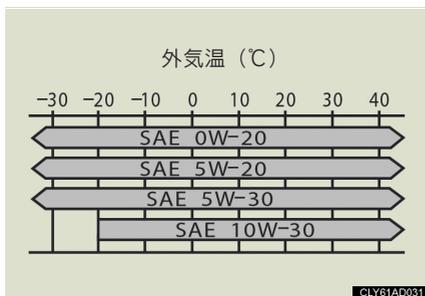


1 API マーク

2 ILSAC 認証マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	容量 [L] (参考値)	
	ガソリン エンジン	インバーター
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	11.1	2.5

トランスミッション

銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	5.7

トランスファー

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.7

フロントディファレンシャル

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.75

リヤディファレンシャル

銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄

弊社純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときの床板とのすき間※	95

※ 200 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)

4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
標準タイヤ	235/50R18 97W	230 (2.3)	230 (2.3)
	245/45R19 98Y	230 (2.3)	240 (2.4)
応急用スペアタイヤ	T155/70R18 101M	420 (4.2)	

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハイビーム	
	カメラセンサー装着車 (バルブタイプ: HB3)	60
	カメラセンサー装着車を除く (バルブタイプ: HIR1)	65
	ロービーム	LED ※
	車幅灯	LED ※
	フロントフォグライト (バルブタイプ: HB4)	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	16
	制動灯 & 尾灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト *	21 *
	ハイマウントストップライト	LED ※
番号灯	LED ※	
ドアミラー照明	5	

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED ※
	フロントバニティライト	8
	リヤインテリアライト	8
	リヤパーソナルライト	LED ※
	リヤバニティライト	3
	シフト照明	LED ※
	インサイドハンドル照明	LED ※
	ドアカーテシー照明	5
	シートベルトバックル照明	LED ※
	足元照明	LED ※
	グローブボックスライト	LED ※
	フロントコンソールボックスライト	LED ※
	リヤコンソールボックスライト	LED ※
	クールボックス	LED ※
	トランクリッドライト	3.8
トランクライト	3.8	

※ LED は、Light Emitting Diodes (発光ダイオード) の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	電動機型式	駆動方式
LS600h	UVF45	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)
LS600hL	UVF46	2UR-FSE (5.0L ガソリン)	1KM	AWD (4 輪駆動)

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 52)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 63)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒
			120秒
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1回長押し	2回押し
1回短押し			
ドアロック (→P. 65, 364)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	チェンジレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	チェンジレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり
	キーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠

項目	機能の内容	初期設定	変更後
トランク (→P. 71)	パワートランクリッド機能	あり	なし
パワーウィンドウ (→P. 106)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動 開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時 の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	スマートエントリー&ス タートシステム連動閉機能	あり	なし
ムーンルーフ (→P. 109)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉 部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動 開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時 の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作 動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	スマートエントリー&ス タートシステム連動閉機能	あり	なし
ライト自動点 灯・消灯システ ム (→P. 174)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの 時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 238)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒 30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	パワースイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	ドアミラー照明の点灯	あり	なし

さくいん

略語一覧	386
五十音順さくいん	387
症状別さくいん	396
ハイブリッドさくいん	400

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備（エアコン・オーディオなど）は、別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリ
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
BA	ブレーキアシスト
CHG	チャージ
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
EV	エレクトリックビークル
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
THS II	トヨタハイブリッドシステム II
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VIB	バイブレーション
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト	268
	アクセサリーコンセント	260
	アクセサリーソケット	260
	足元照明	238
	アダプティブフロントライティング システム (AFS)	175
アンチロックブレーキシステム (ABS)		208

い	EV ドライブモード	153
	イベントデータレコーダー (EDR)	340
	イモビライザーシステム	116
	イルミネーテッドエントリー システム	238
	インストルメントパネル 照度調整スイッチ	166
インテリアライト (室内灯) スイッチ		239
	インナーミラー	103

う	ウインカー (方向指示灯) W 数	380
	スイッチ	160
	電球の交換	302
ウインドウ ウォッシュャー		179
	パワーウインドウ	106
ウインドウロックスイッチ		106
ウォーニングライト (警告灯)		342
ウォッシュャー 液の補給		331
	スイッチ	179
	タンク容量	379
	冬の前の準備・点検	233

運転	寒冷時の運転	233
	正しい姿勢	122
	手順	142
運転席シートベルト 非着用警告灯		344

え	エアコン※	
	エアバッグ	
SRS エアバッグ		123
	一般的な警告	129
	お子さまのための注意	129
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告	129
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件	125
	改造・分解	132
	警告灯	342
	サイドエアバッグに 関する警告	129
	サイドエアバッグの作動条件	125
	作動条件	125
	正しい姿勢	122
	配置	123
エネルギーモニター		40
エレクトリック パワーステアリング (EPS)		208
エンジン エンジン回転計 (タコメーター)		165
	エンジンがかからない	358
	エンジン警告灯	342
	エンジンルームカバー	300
	オーバーヒート	370
	ハイブリッドシステムの 始動方法	149

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

ボンネット	295
パワースイッチ	149
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	233
容量	376

お

応急用タイヤ（スペアタイヤ）	
空気圧	379
スペアタイヤ	348
オーディオ※	
オートアラーム	
（盗難警報アラーム）	117
オートマチックトランスミッション	
（トランスミッション）	
Sモード	157
トランスミッション	156
チェンジレバーが	
シフトできない	360
オートレベリングシステム	176
オーバーヒート（エンジン）	370
オープナー	
給油口	112
トランク	71
ボンネット	295

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ	106
エアバッグに関する警告	129
お子さまのシートベルト着用	99
コンフォータブル・エアシートに	
関する警告	267
シートベルトコンフォート	
ガイド	98
シートベルトに関する警告	100
チャイルドシート	133
チャイルドシートの固定	133
チャイルドプロテクター	66
電子キーの電池に関する	

警告	330
トランクに関する警告	74
バッテリーに関する警告	368
パワーウィンドウに	
関する警告	107
ムーンルーフに関する警告	111
オドメーター（積算距離計）	165

か

カーテンシールドエアバッグ	123
外気温表示	172, 256
回生ブレーキ	29
買い物フック	282
加速が鈍いときは	30
カスタマイズ機能	382
ガソリンスタンドでの情報	402
カップホルダー	245
環境にやさしく経済的な	
運転の仕方	46

き

キー	
キー	48
キーナンバー	48
キーレスエントリー	
（ワイヤレスドアロック）	63
キーを無くした	363
電子キー	48
電子キーが正常に働かない	364
パワースイッチ	149
メカニカルキー	48
救急箱固定用バンド	282
給油口	112
緊急時の対処	
エンジンがかからない	358
オーバーヒートした	370
キーを無くした	363
警告灯がついた	342
警告メッセージが表示された	346

けん引	336	充電	342
スタックした	374	燃料残量	344
チェンジレバーが		パワーステアリング (P/S)	342
シフトできない	360	半ドア	344
電子キーが正常に働かない	364	プリクラッシュセーフティ	
ハイブリッドシステムが		システム (PCS)	342
始動できない	358	プリテンショナー	342
発炎筒	334	ブレーキ	342
パンクした	348	ブレーキアシスト (BA)	342
補機バッテリーがあがった	366	マスターウォーニング	344
< 空気圧 (タイヤ)	379	警告表示	346
クールボックス	248	警告ブザー	
区間距離計		シートベルト非着用	344
(トリップメーター)	165	半ドア	344
曇り取りスイッチ [※]		化粧品 (バニティ) ミラー	255
クルーズコントロール		けん引	336
クルーズコントロール	183	こ コインホルダー	244
レーダークルーズ		交換	
コントロール	186	タイヤ	348
レーダークルーズコントロール		電球	302
(全車速追従機能付き)	195	電子キーの電池	329
グローブボックス	243	ヒューズ	313
け 計器 (メーター)		工具 (ツール)	348
メーター	165	後退灯 (バックアップライト)	
メーター照度調整スイッチ	166	W 数	380
警告灯		電球の交換	302
SRS エアバッグ	342	高電圧ケーブル	32
アンチロックブレーキ		高電圧部位	32
システム (ABS)	342	コートフック	280
エンジン	342	コーションラベル	32
シートベルト非着用	344	コンソールボックス	247
		コンフォータブル・エアシート	265
		コンライト	
		(自動点灯・消灯装置)	174

[※] : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

さ	サービスプラグ	33
	サイドエアバッグ	123
	サンシェード	
	リヤ	273
	リヤドア	277
	ルーフ	109
	サンバイザー	254

し	シート	
	コンフォータブル・	
	エアシート	265
	シートポジション	
	メモリー	89, 92
	正しい姿勢	122
	チャイルドシートの固定	133
	調整	77, 82, 85
	調整に関する警告	81
	手入れ	289
	ドライビングポジション	
	メモリー	89
	ヘッドレスト	94
	リヤシートポジション	
	メモリー	92
	リヤシートリラクゼーション	
	システム	269
	シートベルト	
	お子さまの着用	99
	緊急時シートベルト固定機構	99
	シートベルト警告灯	344
	シートベルト	
	プリテンショナー	98
	清掃・手入れ	290
	正しい着用	97
	チャイルドシート固定機構	99
	チャイルドシートの固定	133
	調整	97
	妊娠中のかたの着用	99

	シートポジションメモリー	89, 92
	シガレットライター	258
	室内灯（インテリアライト）	
	スイッチ	239
	事故が発生したときは	35
	事故後、ハイブリッドシステムを	
	始動する前に	35
	シフト照明	238
	シフトレバー（チェンジレバー）	
	オートマチックトランス	
	ミッション	156
	シフトレバーが	
	シフトできない	360
	シフトロックシステム	360
	車高調整	
	電子制御エアサスペンション	206
	ジャッキ	
	タイヤ交換	348
	ジャッキハンドル	348
	車幅灯	
	W数	380
	電球の交換	302
	ライトスイッチ	174
	車両型式	381
	車両仕様（スペック）	376
	収納装備	241
	助手席シートベルト	
	非着用警告灯	344

す	スイッチ	
	EVドライブモードスイッチ	153
	ウインドウロックスイッチ	106
	パワースイッチ	149
	ドアロックスイッチ	65
	パーキングブレーキスイッチ	161
	パワーウインドウスイッチ	106

パワートランクリッド	
スイッチ	71
フォグライトスイッチ	177
モードセレクトスイッチ	157
ライトスイッチ	174
ワイパー&ウォッシャー	
スイッチ	179
スタック	
スタックした	374
ステアリングホイール (ハンドル)	
調整	102
ドライビングポジション	
メモリー	89
ヒーター	263
ステアリングホイールヒーター	263
スピードメーター (速度計)	165
スペアタイヤ	
空気圧	379
スペアタイヤ	348
スペック (車両仕様)	376
スマートエントリー&スタートシステム	
ハイブリッドシステムの始動	149
ドアの施錠・解錠	53
トランクを開ける	53
せ 清掃	
外装	286
シートベルト	290
内装	289
積算距離計 (オドメーター)	165
洗車	286
前照灯 (ヘッドライト)	
W 数	380
スイッチ	174
電球の交換	302

そ 速度計 (スピードメーター)	165
-------------------------	-----

た タイヤ	
空気圧	379
交換	348
スペアタイヤ	348
チェーン	233
点検	291
パンクした	348
冬用タイヤ	233
ローテーション	291
タコメーター	165

ち チェーン (タイヤチェーン)	233
チェンジレバー (シフトレバー)	
オートマチックトランス	
ミッション	156
チェンジレバーが	
シフトできない	360
チャイルドシート	
ISOFIX バーでの固定	135
シートベルトでの固定	134
チャイルドプロテクター	66
駐車ブレーキ	
(パーキングブレーキ)	161

つ ツール (工具)	348
-------------------	-----

て DC/DC コンバーター	32
ディスプレイ	
エネルギーモニター	40
警告メッセージ	346
トリップインフォメーション	172
レーダークルーズ	
コントロール	186, 195

手入れ		トークスイッチ*	
外装.....	286	ドライビングポジションメモリー.....	89
シートベルト.....	289	トラクションコントロール	
内装.....	289	(TRC).....	208
テーブル.....	271	トランク	
テールランプ (尾灯)		オープナー.....	71
スイッチ.....	174	トランクライト	
電球 (バルブ)		W数.....	380
W数.....	380	トランスミッション.....	156
交換.....	302	トリップメーター	
電子キー		(区間距離計).....	165
電池が切れた.....	364		
電子制御エアサスペンション.....	206	な ナビゲーションシステム*	
電話スイッチ*			
と ドア		に 荷物	
ドアガラス.....	106	積むときの注意.....	231
ドアミラー.....	104	荷物固定用フック.....	282
ドアロック.....	65		
ドアカーテシーライト.....	238	ね 燃費画面.....	40
ドアガラス.....	106	燃料	
ドアポケット.....	244	ガソリンスタンドでの情報.....	402
ドアミラー		給油.....	112
調整.....	104	種類.....	376
ドライビングポジション		燃料計.....	165
メモリー.....	89	容量.....	376
ドアミラー照明			
W数.....	380	は パーキングブレーキ (駐車ブレーキ)	
ドアミラー照明.....	238	パーキングブレーキ.....	161
盗難警報アラーム		パーキングブレーキが ^g	
(オートアラーム).....	117	解除できない.....	361
盗難防止システム		パーソナルライト	
イモビライザーシステム.....	116	スイッチ.....	239
オートアラーム		灰皿.....	257
(盗難警報アラーム).....	117		

ハイブリッドシステム

ご使用になるにあたって (高電圧・高温について)	32
(駆動用電池・吸入口に ついて)	36
始動方法	149
始動できないときは	358
ハイブリッドシステムの特徴	28
ハイブリッドシステムの 作動状態	38
ハイブリッド車運転の アドバイス	46
発炎筒	334
バックアップライト (後退灯)	
W 数	380
電球の交換	302
バッテリー	
バッテリーがあがった	366
冬の前の準備点検	233
バニティ (化粧用) ミラー	255
バニティライト	
W 数	380
バニティライト	255
バリアブルギヤレシオステアリング (VGRS)	208
バルブ (電球)	
W 数	380
交換	302
パワーウィンドウ	106
パワーコントロールユニット	32
パンク	
パンクした	348
ハンドル (ステアリングホイール)	
調整	102
ドライビングポジション メモリー	89

ひ

ピークルスタビリティ コントロール (VSC)	208
ピークルダイナミクス インテグレイテッド マネージメント (VDIM)	208
尾灯 (テールランプ)	
スイッチ	174
ヒューズ	313
表示灯	168
ヒルスタートアシスト コントロール	208

ふ

フォグライト	
W 数	380
スイッチ	177
電球の交換	302
フック	
買い物フック	282
けん引フック	336
コートフック	280
荷物固定用フック	282
冬用タイヤ	233
ブリクラッシュセーフティ システム (PCS)	214, 219
ブレーキ	
パーキングブレーキ	161
ホールド	163
ブレーキアシスト (BA)	208
ブレーキホールド	163
フロアマット	281
フロントシート	
シートポジションメモリー	89
調整	77
ドライビングポジション メモリー	89

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

	フロントターンシグナルライト			
	W 数	380		
	フロントフォグライト			
	W 数	380		
	スイッチ	177		
へ	ヘッドライト (前照灯)			
	ヘッドライトクリーナー	182		
	W 数	380		
	スイッチ	174		
	電球の交換	302		
	ヘッドライトクリーナー	182		
	ヘッドレスト			
	調整	94		
	ペンライト	349		
ほ	ホイール	291		
	方向指示灯 (ウインカー)			
	W 数	380		
	スイッチ	160		
	電球の交換	302		
	ボンネット	295		
ま	マルチディスプレイ	171		
み	ミラー			
	インナーミラー	103		
	ドアミラー	104		
	バニティ (化粧用) ミラー	255		
む	ムーンルーフ	109		
め	メーター (計器)			
	インストルメントパネル			
	照度調整スイッチ	166		
	メーター	165		
	メンテナンス			
	メンテナンスデータ	376		
ら	ライト			
	W 数	380		
	室内灯	238		
	電球の交換	302		
	ドアカーテシーライト	238		
	パーソナルライト	239		
	バニティライト	255		
	フォグライト	177		
	ヘッドライト (前照灯)	174		
	方向指示灯 (ウインカー)	160		
り	リヤサンシェード	273		
	リヤシート			
	シートポジションメモリー	92		
	調整	82, 85		
	テーブル	271		
	リラクゼーションシステム	269		
	リヤシートリラクゼーション			
	システム	269		
	リヤターンシグナルライト			
	W 数	380		
	電球の交換	302		
	リヤドアサンシェード	277		
	リヤフォグライト			
	W 数	380		
	スイッチ	177		
	電球の交換	302		
	リヤブリクラッシュセーフティ			
	システム	228		

れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検.....	233
	容量.....	378
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート.....	370
	レーダークルーズ	
	コントロール.....	186, 195
わ	ワイパー	
	スイッチ.....	179
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換.....	329
	リモコン.....	63

症状別さくいん

症状別さくいん



タイヤがパンクした

P. 348 パンクしたときは



ハイブリッドシステムが
始動しない

P. 358 ハイブリッドシステムが始動できない
ときは

P. 116 イモビライザーシステム

P. 366 補機バッテリーがあがったときは



チェンジレバーが動かない

P. 360 チェンジレバーがシフトできないとき
は



水温警告灯が点灯した

P. 370 オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーをなくした

P. 363 キーを無くしたときは



補機バッテリーがあがった

P. 366 補機バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 53
P. 63
P. 65
ドア



ホーンが鳴り出した

P. 117 オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 374 スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 342 警告灯がついたときは



■警告灯一覧



ブレーキ警告灯（赤色）

P. 342



充電警告灯

P. 342



ABS& ブレーキアシスト
警告灯

P. 342



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 344



ブレーキ警告灯（黄色）

342



PASSENGER
助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 344



燃料残量警告灯

P. 344



水温警告灯

P. 344



SRS エアバッグ/プリテン
ション警告灯

P. 342



マスターウォーニングと
警告メッセージ

P. 344



半ドア警告灯

P. 344



パワーステアリング警
告灯

P. 342



エンジン警告灯

P. 342



PCS 警告灯

P. 342



警告音が鳴った

- 警告灯の点灯、点滅、またはマルチディスプレイの警告メッセージを確認ください。
 - 警告灯が点灯、点滅している (→P. 342)
 - 警告メッセージが表示されている (→P. 346)

- 警告灯の点灯、点滅や、マルチディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 60
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	チェンジレバーを R にしたとき	P. 158
	シフトダウンしたとき	P. 158
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 186, 195

ハイブリッドシステムについての解説

- ハイブリッドシステムの特徴 ----- P. 28
- ハイブリッドシステムの作動状態 ----- P. 38

ハイブリッドシステムについての注意事項

- ご使用になるにあたって
(高電圧・高温について) ----- P. 32
(駆動用電池・吸入口について) ----- P. 36

運転のしかた

- 運転にあたって ----- P. 142
- ハイブリッドシステムの始動方法 ----- P. 149
- トランスミッション ----- P. 156

環境にやさしい経済的な運転

- ハイブリッド車運転のアドバイス ----- P. 46

事故が起きたときは

- 事故が発生したときの警告 ----- P. 35
- 事故後、ハイブリッドシステムを始動する前に ----- P. 35

ハイブリッド特有の説明がある項目

- 計器類 ----- P. 165
- 表示灯／警告灯 ----- P. 168
- マルチディスプレイ ----- P. 171
- ボンネット ----- P. 295
- エンジンルームカバー ----- P. 300
- けん引について ----- P. 336
- ハイブリッドシステムが始動できないときは ----- P. 358
- 補機バッテリーがあがったときは ----- P. 366
- オーバーヒートしたときは ----- P. 370

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



ボンネットフック

P. 295



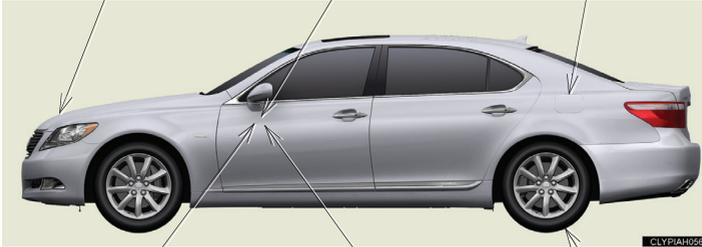
トランクオープナー

P. 71



給油口

P. 112



ボンネット解除レバー

P. 295

給油口オープナー

P. 112

タイヤ空気圧

P. 379



燃料の容量	84L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 113, 376
タイヤ空気圧	18 インチタイヤ 前輪：230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 後輪：230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 19 インチタイヤ 前輪：230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 後輪：240 (2.4) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時：8.4 L オイルとフィルター交換時：9.0 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SMOW-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL5W-20 (API SL, EC, SAE 5W-20) ・ SL10W-30 (API SL, EC, SAE 10W-30)

